

100<sup>th</sup>  
NHKSO  
NHK SYMPHONY ORCHESTRA  
TOKYO

# Philharmony

February 2026  
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

2



## 終演時のカーテンコールを撮影していただけます

スマートフォンやコンパクトデジタルカメラなどで撮影していただけます。  
SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#N響」「#nhkso」の追加をぜひお願いいたします。  
ほかのお客様の映り込みにはご注意ください。

※撮影はご自身からとし、手を高く上げる、望遠レンズや三脚を使用するなど、  
周囲のお客様の迷惑となるような行為はお控えください

## You are free to take stage photos during the curtain calls at the end of the performance.

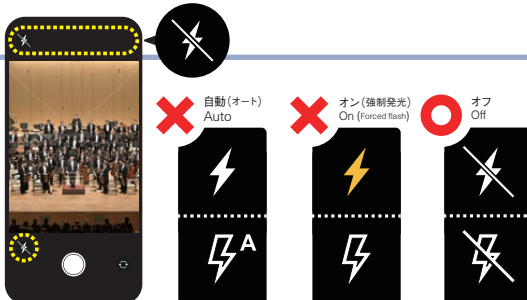
You can take photos with your smartphone or compact digital camera.  
When you share the photos on social media, please add #nhkso.  
Be careful to avoid accidentally including any audience members in your photos.

### 「フラッシュ」オフ 設定確認のお願い

撮影前に、スマートフォンのフラッシュ設定が「オフ」になっているかご確認をお願いいたします。

### Set your device to “flash off mode.”

Make sure that your smartphone is on  
“flash off mode” before taking photos.



スマートフォンのフラッシュをオフにする方法 | 多くの機種では、カメラ撮影の画面の四隅のどこかに、フラッシュの状態を示す⚡(カメラマーク)を含むアイコンが表示されています。これをタップすることで、「オン(強制発光)」[「自動(オート)」]「オフ」に変更できます。

## インターネット アンケートに ご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。  
ご協力をお願いいたします。

詳しくは59ページをご覧ください



こちらのQRコードから  
アンケートページへ  
アクセスできます

<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

### お客様へのお願い

Please kindly keep in mind the following:



公演中は携帯電話、  
時計のアラーム等は必ずお切りください  
Be sure to set your phone to silent mode and turn off  
your watch alarm etc. during the performance.



私語、パンフレットをめくる音など、  
物音が出ないように配慮ください  
Please refrain from making any noise, such as engaging  
in private conversations or turning booklet pages.



大きく手足を揺らしたり体を乗り出したりするなど  
他のお客様にご迷惑となる行為はおやめください  
Do not disturb others by overly swaying your body.



発熱等の体調不良時には  
ご来場をお控えください  
Please refrain from visiting the concert hall  
if you have a fever or feel unwell.



演奏は最後の余韻まで  
お楽しみください  
Please wait until the performance has completed  
before clapping hands or shouting “Bravo.”



演奏中の入退場は  
ご遠慮ください  
Please refrain from entering or leaving your seat  
during the performance.



適切な手指の消毒、  
咳エチケットにご協力ください  
Your proper hand disinfection  
and cough etiquette are highly appreciated.



場内での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします  
(終演時のカーテンコールをのぞく)  
Video or audio recordings, and still photography at the  
auditorium are strictly prohibited during the performance.  
(Except at the time of the curtain calls at the end of the concert.)



補聴器が正しく装着されているか  
ご確認ください  
Please make sure  
that your hearing aids are properly fitted.



NHK交響楽団  
カスタマー・ハラスメントに対する基本方針 (PDF)

# PHILHARMONY

## CONTENTS

FEBRUARY 2026

# 2

4	[公演プログラム] <b>Aプログラム</b>	
13	[公演プログラム] <b>Bプログラム</b>	
19	[公演プログラム] <b>Cプログラム</b>	
26	[リレー連載] <b>N響百年——複合的視座</b>   第2回	
	N響と尾高賞——日本オーケストラ界とともに歩んだ作曲賞〈前編〉	白石美雪
2	NHK交響楽団メンバー	
35	2026年4月定期公演のプログラムについて——公演企画担当者から	
37	チケットのご案内(定期公演2025年9月～2026年6月)	
38	2025-26定期公演プログラム	
39	特別公演／海外公演／各地の公演	
46	[速報] 2026-27定期公演プログラム／特別公演(一部)	
52	特別支援・特別協力・賛助会員	
56	「N響100年」特別賛助会員・個人サポーター	
58	曲目解説執筆者／Information(訃報)／N響の出演番組	
59	みなさまの声をお聞かせください!	
60	NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO Members	

### Artist Profiles & Program Notes

61	Program A
65	Program B
69	Program C
74	The Subscription Concerts Program 2025-26
75	Overseas Tour
76	The Subscription Concerts Program 2026-27 / Special Concerts 2026-27
81	N響関連のお知らせ
82	N響の社会貢献
83	役員等・団友

# NHK交響楽団

首席指揮者:ファビオ・ルイーヂ  
名誉音楽監督:シャルル・デュトワ  
桂冠名誉指揮者:ヘルベルト・ブロムシュテット  
桂冠指揮者:ウラディーミル・アシュケナージ  
名誉指揮者:バーヴォ・ヤルヴィ  
正指揮者:尾高忠明、下野竜也

第1コンサートマスター:郷古 廉、長原幸太  
ゲスト・コンサートマスター:川崎洋介

## 第1ヴァイオリン

- 青木 調  
飯塚歩夢  
○字根京子  
大鹿由希  
○倉富亮太  
後藤 康  
小林玉紀  
高井敏弘  
東條太河  
猶井悠樹  
中村弓子  
降旗貴雄  
松田拓之  
○三又治彦  
宮川奈々  
○山岸 努  
○横溝耕一

## 第2ヴァイオリン

- ◎大宮臨太郎  
◎森田昌弘  
齋藤麻衣子  
○嶋田慶子  
○白井 篤  
○田中晶子  
坪井きらら  
丹羽洋輔  
平野一彦  
船木陽子  
俣野賢仁  
村尾隆人  
矢津将也  
山田慶一  
○横島礼理  
米田有花

- \* 清水伶香  
\* 湯原佑衣

## ヴィオラ

- ◎佐々木 亮  
◎村上淳一郎  
☆中村翔太郎  
小野 聡  
小畠茂隆  
\* 栗林衣李  
□坂口弦太郎  
谷口真弓  
飛澤浩人  
○中村洋乃理  
松井直之  
三国レイチェル由依  
# 御法川雄矢  
○村松 龍

## チェロ

- ◎辻本 玲  
◎藤森亮一  
市 寛也  
小畠幸法  
○中 実徳  
○西山健一  
藤村俊介  
藤森洗一  
宮坂拓志  
村井 将  
矢部優典  
○山内俊輔  
渡邊方子

## コントラバス

- ◎吉田 秀  
○市川雅典  
稲川永示  
○岡本 潤  
今野 京  
○西山真二  
本間達朗  
矢内陽子

## フルート

- ◎甲斐雅之  
◎神田寛明  
梶川真歩  
# 中村淳二

## オーボエ

- ◎吉村結実  
池田昭子  
坪池泉美  
\* 中村周平  
和久井 仁

## クラリネット

- ◎伊藤 圭  
◎松本健司  
\* 堂面宏起  
山根孝司

## ファゴット

- ◎宇賀神広宣  
◎水谷上総  
大内秀介  
佐藤由起

## 森田 格

## ホルン

- ◎今井仁志  
石山直城  
勝俣 泰  
木川博史  
庄司雄大  
野見山和子

## トランペット

- ◎菊本和昭  
◎長谷川智之  
安藤友樹  
藤井虹太郎  
山本英司

## トロンボーン

- ◎古賀 光  
◎新田幹男  
池上 亘  
黒金寛行

## テューバ

- 池田幸広

## ティンパニ

- ◎久保昌一  
☆植松 透

## 打楽器

- 石川達也  
黒田英実  
竹島悟史

## ハーブ

- 早川りさこ

## ステージ・マネージャー

- 徳永匡哉

## ライブラリアン

- 沖 あかね  
木村英代

こちらのQRコードから  
楽員の詳しいプロフィールが  
ご覧いただけます。

<https://www.nhkso.or.jp/about/member/index.html>



(五十音順、◎首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター、\*契約)



# Special Thanks

## NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援

岩谷産業株式会社

 三菱地所株式会社

 みずほ銀行

公益財団法人 渋谷育英会

東日本旅客鉄道株式会社

 NTT EAST

東京海上ホールディングス株式会社

株式会社 ポケモン

With Special Support of

Iwatani Corporation

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

Mizuho Bank, Ltd.

Shibuya Scholarship Foundation

East Japan Railway Company

NTT East, Inc.

Tokio Marine Holdings, Inc.

The Pokémon Company

NHK交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

PROGRAM

A

第2057回

NHKホール

2/7 土 6:00pm

2/8 日 2:00pm

指揮

フィリップ・ジオルダン

ソプラノ

タマラ・ウィルソン\*

コンサートマスター

長原幸太

シューマン

交響曲 第3番 変ホ長調 作品97

「ライン」[32']

- I 生き生きと
- II スケルツォ:適切な動きとともに
- III 速くなく
- IV 荘重に
- V 生き生きと

—— 休憩 (20分) ——

ワーグナー

楽劇「神々のたそがれ」

—「ジークフリートのラインの旅」

「ジークフリートの葬送行進曲」

「ブリュンヒルデの自己犠牲」\*[36']

※演奏時間は目安です。

### インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは59ページをご覧ください

こちらのQRコードから  
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

## フィリップ・ジョルダン(指揮)



©Johannes Theobald

フィリップ・ジョルダンは現在では数少ない劇場<sup>たて</sup>叩き上げの指揮者だ。世界的名指揮者アルミン・ジョルダンのもと、スイスのチューリヒに生まれ、ウルム市立歌劇場とベルリン国立歌劇場のカペルマイスターを出発点に、グラーツ歌劇場およびグラーツ・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者、パリ・オペラ座音楽監督、ウィーン交響楽団首席指揮者、ウィーン国立歌劇場音楽監督を歴任。ベルリンではダニエル・バレンボ

イムのアシスタントを務め、多くを学んだという。2025年のウィーン国立歌劇場日本公演では《ばらの騎士》を指揮して好評を博した。

メトロポリタン歌劇場、コヴェント・ガーデン王立歌劇場、ミラノ・スカラ座など世界の主要歌劇場に客演するほか、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団など、コンサートでもトップレベルの楽団から招かれている。2027年からはフランス国立管弦楽団音楽監督に就任する。

ドイツ音楽はジョルダンのレパートリーの中核をなす。とりわけワーグナーを得意としており、《楽劇「ニーベルングの指環」》をこれまでにパリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場で指揮している。作品の隅々まで知り尽くしたマエストロが、初共演のN響と、この大作の最終章である《楽劇「神々のたそがれ」》のエッセンスに迫る。

[飯尾洋一／音楽ジャーナリスト]

## タマラ・ウィルソン(ソプラノ)



©Claire Madams

当代にあって貴重なリリック・ドラマティック・ソプラノの逸材。<sup>きようじん</sup>強靱としなやかさを兼ね備えたドラマティックな美声はクリアでありながら熱気もはらみ、フレージングは雄大で、テキストの感情を伝える才にも恵まれる。消え入るように繊細な弱音から高音域でのブリリアントな爆発まで、声のポテンシャルは絶大だ。

アメリカ、アリゾナ生まれ。2004年、メトロポリタン・オペラの全米オーディションのファイナリストに選ばれ、ヒューストン・グランド・オペラのヤング・アーティスト・プログラムに参加。2007年、同オペラでヴェルディの《仮面舞踏会》アメリア役でオペラ・デビューを果たして絶賛され、以来国際的にキャリアを重ねている。ヴェルディ歌手として名声を確立したが、近年はワーグナーのレパートリーにも積極的に取り組んでおり、2025年の夏にはサンタフェ・オペラの《ワルキューレ》でブリュンヒルデ役にデビュー、「サンタフェ・オペラのワーグナー史に新たな章を刻んだ」と絶賛された。ワーグナー・オペラで評価が高いフィリップ・ジョルダンとの共演は、上り坂の2人による旬のワーグナーになるに違いない。

[加藤浩子／音楽評論家]

シューマンとワーグナーは、いわば水と油。かたやピアノ曲や歌曲で、かたや長大な楽劇で有名だ。しかしフィリップ・ジョルダンは、この2人の交差点を突いてきた。ライン川である。両者がこの大河川に注目したのは、偶然ではなからう。19世紀なかばのドイツは、いまだ政治的に統一された国ではなかった。だからこそ「自然」に、言語や文化とならんで、アイデンティティを求めたのだ。時代状況が芸術を生む。だがその芸術は多様である。

## シューマン

### 交響曲 第3番 変ホ長調 作品97「ライン」

初期ドイツ・ロマン派の代表格、ローベルト・シューマン(1810~1856)の創作期は、大きくライプツィヒ時代、ドレスデン時代、デュッセルドルフ時代に分けられるが、東部から西のライン地方、デュッセルドルフに移住したのは、1850年9月のこと。同市の音楽監督に就任したのだ。

彼はかの地に着いてすぐに、妻でピアニストのクララとともにライン川をケルン方面に上って旅をする。本作はそこで得た印象をもとに書かれたというのが、「音による風景画」として聴く必要はないだろう。「ライン」の呼称は、デュッセルドルフの楽団のコンサートマスターが言い出したものだった。完成はポスト着任後3か月が経った12月。その速筆ぶりにクララも驚いたという。なお、こんにち《第4番》とされているニ短調交響曲(1851年改訂稿)は、その初稿(1841年)が《第1番》の次に書かれているので、実際はこの「ライン」こそが、彼にとって4番目の、すなわち最後の交響曲ということになる。

1851年に同地でシューマンが指揮した初演は好評だったが、そうした反応は長くは続かなかった。幻覚症状や鬱状態に苦しめられ、指揮者業にも支障をきたすようになったのだ。1854年2月27日、シューマンはついにライン川に身を投げ、自死をはかる。その後は精神療養所に収容され、1856年7月29日に46歳で永眠した。

**第1楽章。**初めて聴く者は、冒頭でおおきな3拍子(2分の3拍子)を感じるに違いない。ところが、すぐにズレを覚えることになる。実際は4分の3拍子。つまり123・123の拍を12・31・23とグルーピングする形で書いているため、拍子感覚が惑わされるのだ。同様のトリックは、遊覧船に乗るような楽しい第2楽章でも感じられよう。川の水面がゆれ続けるように「規則的な何か」に固まらないのは、この作品の原理とも言える。**第3楽章**のような牧歌的な音楽もあれば、ケルンの大聖堂に靈感を得たといわれる厳かな**第4楽章**もある。**第5楽章**にいたっては、シューマンが1849年にドレスデンで書いた共和主義的な《4つの行進曲》(作品76)のこだまを聴く者もあるくらい。統一国家ドイツの成立をも



にらんだ、革命の機運が高まっていた時代のピアノ曲である。ライン川がドイツの「父なる存在」と言われたことも思い出そう。

作曲年代	1850年12月完成
初演	1851年2月6日、作曲家自身の指揮、デュッセルドルフ
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦楽

## ワーグナー

# 楽劇「神々のたそがれ」―「ジークフリートのラインの旅」 「ジークフリートの葬送行進曲」 「ブリュンヒルデの自己犠牲」

リヒャルト・ワーグナー（1813～1883）は、シューマンと同じ世代に属し、一時期ドレスデンで交流を持ったこともあるが、対照的な「新ドイツ楽派」の筆頭格とみなされている。劇詩人でもあり、自ら台本を書き、半音階を駆使し、もっぱら音楽劇の創作に注力した。そんな彼の大作、舞台祝祭劇《ニーベルングの指環》は、中世ドイツの英雄叙事詩『ニーベルングの歌』を下敷きに、北欧神話とギリシア神話の要素を混ぜて作り上げた独自の神話世界。前夜祭《ラインの黄金》、第1夜《ワルキューレ》、第2夜《ジークフリート》、第3夜《神々のたそがれ》の4部からなり、完成は1874年。最初の構想から数えると4半世紀を要したことになる。

ワーグナーには、歌中心のオペラとは異なる、管弦楽と言葉と身ぶりに重きをおいた「ドラマ」を成す夢があった。日本語で通常「楽劇」と呼ばれているものは、この「ドラマ」を指すと考えてよいだろう。《ニーベルングの指環》は、そんな夢を最大規模に実現したもので、テーマの上では、近代資本主義社会への批判が核心にある。それを神話という外皮で包んだのだ。ワーグナーは、誰もが欲しがる指環を「有価証券のようなものだ」と言っている。

神々の長、ウォータンは、この世の中心「世界樹」から<sup>やり</sup>槍を作り、そこに「契約」の文字を刻んで世界を<sup>す</sup>統べようとした。いっぽう、地底族ニーベルングのかしらアルベリヒは、ライン川に棲む妖精の娘たちから黄金を強奪、そこから世界制覇の指環をこねあげた。この指環はしかし、その後ウォータンが奪い、次いで巨人族の手に渡る。そのようにして遠大な指環争奪戦がくり広げられるのだが――。

《神々のたそがれ》は、上記のとおり4部作最後の楽劇で、指環はいま、ウォータンの孫ジークフリートと娘にあたるブリュンヒルデのもとにある。ウォータンは指環を、いまや夫婦となったこの2人から難なく取り返せそうなものだが、何も知らない勇者ジークフリート

によって、主神の力の象徴である槍はへし折られている。娘ブリュンヒルデにいたっては、すでに勘当を言い渡した相手だ。ただもう神々の没落を予感するほかない。

本日はまず序幕から〈ジークフリートのラインの旅〉を聴く。ある日の夜明け。ジークフリートが武勇をおさめるべく、ブリュンヒルデと暮らす岩屋から旅立とうとしている。2人が高らかに別れの言葉を交わすと(本日は歌われない)、いざ出発、そうしてライン川への旅が始まる。

さて、指環を狙う人物に、地底族アルベリヒの息子にあたるハーゲンがいた。指環を持つジークフリートは、彼の仕組んだ陰謀に巻き込まれ、第3幕で突き殺されてしまう。その直後に演奏されるのが間奏曲〈ジークフリートの葬送行進曲〉だ。この英雄にまつわる数々の示導動機(ライトモチーフ)が去来する。そこには、彼を生んですぐに世を去った母、ジークリンデの、悲哀に満ちた動機もある。

〈ブリュンヒルデの自己犠牲〉は第3幕の終わり、4部作のフィナーレにあたる。ブリュンヒルデが歌うのは、まず死んだ夫への苦々しい追慕。彼女自身も陰謀に巻き込まれ、第2幕で一度は夫を恨み、彼の急所をハーゲンに教えてしまったのだった。だが、告発されるべきは、すべての結果を招いた主神ウォータンである。「もうやめるのです、憩え、神よ!」。

ブリュンヒルデは夫の亡き骸<sup>な がら</sup>から指環を取り、自らも死におもむく。夫とともに火葬されるべく彼女が投じた炎は、2人ばかりか、神々の居城ワルハル(ワルハラ)をも焼きつくすだろう。ライン川が氾濫し、ラインの娘たちが指環を取り戻す。〈愛による救済の動機〉が高らかに鳴りわたり、幕となる。

作曲年代	1874年完成
初演	[《ニーベルングの指環》全4作として] 1876年8月13日《ラインの黄金》、14日《ワルキューレ》、16日《ジークフリート》、17日《神々のたそがれ》
楽器編成	フルート3、ピッコロ1、オーボエ3、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット3、バス・クラリネット1、ファゴット3、ホルン8(ワーグナー・チューバ4)、トランペット3、バス・トランペット1、トロンボーン3、コントラバス・トロンボーン1、チューバ1、ティンパニ(2組)、シンバル、中太鼓、トライアングル、銅鑼、グロッケンシュピール、ハープ6、弦楽、ソプラノ独唱

## ワーグナー

## 楽劇「神々のたそがれ」—「ブリュンヒルデの自己犠牲」歌詞対訳

Wagner: *Götterdämmerung*, opera—*Brünnhilde's Immolation: Starke Scheite schichtet mir dort*

訳◎松木篤也 | Translation: Atsuya Funaki

Starke Scheite  
 schichtet mir dort  
 am Rande des Rheins zu Hauf'!  
 Hoch und hell  
 lod're die Glut,  
 die den edlen Leib  
 des hehresten Helden verzehrt.  
 Sein Roß führet daher,  
 daß mit mir dem Recken es folge:  
 denn des Helden heiligste  
 Ehre zu teilen,  
 verlangt mein eig'ner Leib.  
 Vollbringt Brünnhildes Wort!

Wie Sonne lauter  
 strahlt mir sein Licht:  
 der Reinste war er,  
 der mich verriet!  
 Die Gattin trügend—  
 treu dem Freunde—  
 von der eig'nen Trauten—  
 einzig ihm teuer—  
 schied er sich durch sein Schwert.  
 Echter als er  
 schwur keiner Eide;  
 treuer als er  
 hielt keiner Verträge;  
 laut'rer als er  
 liebte kein and'rer!  
 Und doch, alle Eide,  
 alle Verträge,  
 die treueste Liebe—  
 trog keiner wie er!—

太く大きな薪を  
 あそこにお積みなさい  
 ラインの岸辺に山と積むのです!  
 天高く煌々と  
 炎よ、燃え上がれ  
 世にも気高き英雄の  
 貴い亡き骸を焼き尽くして。  
 あの人の馬をこちらへ  
 一緒にあとを追うのだから。  
 英雄の神聖なる  
 誉れを分かち合いたいと  
 この身が強く求めています。  
 ブリュンヒルデの言うとおりになさい!

太陽のように曇りなく  
 あの人<sup>な</sup>が光となって私に降り注いでいます。  
 純真の人だったのです  
 私を裏切ったあの人<sup>ひと</sup>は!  
 妻をあざむき—  
 友には誠をつくす—  
 自分の大切な女を—  
 かけがえのない存在だというのに—  
 わが身から遠ざけたのです、自分の剣を置いて。  
 彼ほど真剣に  
 誓いを立てた者はない。  
 彼ほど忠実に  
 契りを守った者はない。  
 彼ほど曇りなく  
 愛した者はなかった!  
 けれども、どんな誓いも  
 どんな契りも  
 至誠の愛さえも—  
 彼ほど平然と裏切った者はない!—

Wißt ihr, wie das ward?

O, ihr, der Eide  
heilige Hüter!  
Lenkt euren Blick  
auf mein blühendes Leid;  
erschaut eure ewige Schuld!  
Meine Klage hör',  
du hehrster Gott!  
Durch seine tapferste Tat,  
dir so tauglich erwünscht,—  
weihtest du den,  
der sie gewirkt,  
dem Fluche, dem du verflielest;  
mich mußte  
der Reinste verraten,  
daß wissend würde ein Weib!  
Weiß ich nun, was dir frommt?  
Alles, alles,  
alles weiß ich,—  
Alles ward mir nun frei.  
Auch deine Raben  
hör' ich rauschen;  
mit bang' erschnter Botschaft  
send' ich die beiden nun heim.  
Ruhe, ruhe, du Gott!

Mein Erbe nun  
nehm' ich zu eigen.—  
Verfluchter Reif!  
Furchtbarer Ring!  
Dein Gold fass' ich,  
und geb' es nun fort.  
Der Wassertiefe  
weise Schwestern,  
des Rheines schwimmende Töchter,  
euch dank' ich redlichen Rat.  
Was ihr begehrt,  
ich geb' es euch:  
aus meiner Asche  
nehmt es zu eigen!  
Das Feuer, das mich verbrennt,  
rein'ge vom Fluche den Ring!

どうしてこうなったか、お分かりですか？

ああ、契約の  
聖なる守り手、神々よ！  
あなた方のまなざしを  
私のこの燃える哀しみに向けてください。  
自分たちの犯した永劫<sup>えいこう</sup>の罪を見るのです！  
私の嘆きを聞いて  
神々の長、ウォータンよ！  
あの人の大胆極まりない行いは  
あなたの願いとおりのものだったのに——  
彼がそれを実行するや  
あなたはあの人を  
ご自身が抜け出せずにいる呪い<sup>さらい</sup>に晒してしまった。  
そうして至純のあの人は  
私を裏切ることになった。  
女である私が、すべてを悟ることになったとはいえ！  
さて、いまのあなたには何が必要でしょう？  
すべてを、すべての成り行きを  
いまや私は知っています——  
万事を見通せるようになったのです。  
あなたが遣わした鳥<sup>からす</sup>たちの  
羽音が聞こえます。  
あなたが怖れつつ熱望していた報<sup>しら</sup>せを託して  
二羽ともお返ししましょう。  
もうやめるのです、憩え、神よ！

私が受け取るべきものを  
我がものとしましょう——  
呪われた指環！  
忌まわしい指環よ！  
黄金のおまえを手にするのも  
すぐに手放すため。  
水底深<sup>と</sup>くの  
聡き女たちよ  
ラインに泳ぐ娘たちよ  
あなた方の忠告に感謝します。  
あなた方が求めているあの物を  
私からお返ししましょう。  
私の遺灰のなかから  
お取りなさい！  
この身を焼く火<sup>か</sup>が  
指環を呪いから浄<sup>きよ</sup>めてくれますように！



Ihr in der Flut,  
löset ihn auf,  
und lauter bewahrt  
das lichte Gold,  
das euch zum Unheil geraubt!

Fliegt heim, ihr Raben!  
Raunt es eurem Herren,  
was hier am Rhein ihr gehört!  
An Brünnhildes Felsen  
fährt vorbei!  
Der dort noch lodert,  
weist Loge nach Walhall!

Denn der Götter Ende  
dämmert nun auf.  
So—werf' ich den Brand  
in Walhalls prangende Burg.

Grane, mein Roß!  
Sei mir begrüßt!

Weißt du auch, mein Freund,  
wohin ich dich führe?  
Im Feuer leuchtend,  
liegt dort dein Herr,  
Siegfried, mein seliger Held.  
Dem Freunde zu folgen,  
wieherst du freudig?  
Lockt dich zu ihm  
die lachende Lohe?  
Fühl' meine Brust auch,  
wie sie entbrennt,  
helles Feuer  
das Herz mir erfaßt,  
ihn zu umschlingen,  
umschlossen von ihm,  
in mächtigster Minne  
vermählt ihm zu sein!  
Heiajaho! Grane!  
Grüß' deinen Herren!  
Siegfried! Siegfried! Sieh'!  
Selig grüßt dich dein Weib!

川の流れて  
あなたがこれを元に戻すのよ  
そして清いままに  
その黄金を守るのです  
かつて奪われ、災いを起こしたそれを!

さあお帰りなさい、鳥たちよ!  
おまえたちの主人に  
ここラインで耳にしたことを伝えなさい!  
私の岩屋のところに  
飛んでゆくように!  
そこはいまも炎を上げているから  
火の神ローゲにワルハルを案内してあげて!

神々の終わりが  
いま始まる。  
さあ、炎を投じよう  
ワルハルの虚栄の城に。

グラーネよ、我が馬よ!  
ようこそ、ここへ!

友よ、分かっているわね  
私がどこへ連れてゆくか?  
火のなかで輝きを放ちながら  
あそこにおまえの主人が横たわっている  
ジークフリートが、私の亡き勇士が。  
あの人についてゆくのが  
<sup>うれ</sup>嬉しくて<sup>いなか</sup>嘶いているの?  
あの人のもとへとおまえを  
笑う炎が誘うの?  
この胸もまた  
燃え立っているのが分かるでしょう  
煌々たる火が  
私の心をとらえている  
あの人を抱きしめ  
あの人に抱かれ  
至高の愛のなかで  
あの人と一つになるの!  
行きましょう、グラーネ!  
おまえの主人に挨拶するのよ!  
ジークフリート! ジークフリート! 見て!  
あなたの幸を祝って、妻が挨拶をおくります!

はじめてのクラシック

INTRODUCTION TO CLASSICAL MUSIC

イラスト:IKE/文:松井治伸

半生をかけて実現させた壮大な夢

# リヒャルト・ワーグナー

Richard Wagner (1813–1883)

A

2026  
FEBRUARY  
[第2057回]



©IKE

《指環》最後の楽劇《神々のたそがれ》では、神々の長の娘ブリュンヒルデが愛馬とともに身を投げ打って争いに終止符を打つ。ライン川に棲む乙女たちが指環を取り戻し、物語は愛に満ちたフィナーレへ――

《楽劇「ニーベルングの指環」》は、世界を意のままにできるという指環をめぐる愛と欲望の物語。全4部作、演奏に15時間を要する一大巨編です。ワーグナーが最初の構想を練ったのが35歳の時。その後、彼は革命運動に身を投じ、富豪の人妻と恋に落ち、離婚をし、結局は弟子の妻でリストの娘であるコジマと再婚、と波乱万丈の人生を歩みます。その間も《指環》の作曲を続け、構想から26年にして完成を見ました。自作を上演するバイロイト祝祭劇場の建設も実現させ、全曲が初演された時、ワーグナーは63歳。彼は半生をかけて自分の夢をかなえたのです。

B

第2059回

サントリーホール

2/19 木 7:00pm

2/20 金 7:00pm

指揮

ヤクブ・フルシヤ

ヴァイオリン

ヨゼフ・シュパチェク

コンサートマスター

郷古 廉

## ドヴォルザーク

ヴァイオリン協奏曲 イ短調 作品53  
[32']

- I アレグロ・マ・ノン・トロッポ
- II アダージョ・マ・ノン・トロッポ
- III 終曲:アレグロ・ジョコソ・マ・ノン・トロッポ

——休憩(20分)——

## ブラームス

## セレナード 第1番 二長調 作品11 [45']

- I アレグロ・モルト
- II スケルツォ:アレグロ・ノン・トロッポ
- III アダージョ・ノン・トロッポ
- IV メヌエットI — メヌエットII
- V スケルツォ:アレグロ
- VI ロンド:アレグロ

※演奏時間は目安です。

## インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ご協力をお願いいたします。

詳しくは59ページをご覧ください

こちらのQRコードから  
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

## ヤクブ・フルシャ(指揮)



Jakub Fuchs

ドイツのバンベルク交響楽団の首席指揮者(2016年から)とイギリスのコヴェント・ガーデン王立歌劇場の音楽監督(2025年から)を兼任、あわせてチェコ・フィルハーモニー管弦楽団の首席客演指揮者も務めている。

2028年にはチェコ・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者兼音楽監督への就任が決定している、現代チェコを代表する指揮者である。

1981年、建築家のペトル・フルシャを父としてチェコのブルノに生まれ、プラハ芸術アカデミーでイルジー・ビェロフラーヴェクやラドミル・エリシュカなどに指揮を学んだ。デビュー後はウィーン・フィルハーモニー管弦楽団やベルリン・フィルハーモニー管弦楽団など、世界の超一流交響楽団とも共演を重ねている。

N響とは2019年4月の定期公演で初共演、リヒャルト・シュトラウスの《交響詩「ツァラトゥストラはこう語った」》などを指揮して好評を得た。

今回は2023年2月に続く3回目の登場となる。お国物のドヴォルザークの《ヴァイオリン協奏曲》ではヨゼフ・シュパチェクと息のあったアンサンブルを聴かせてくれるだろう。ブラームスの《セレナード第1番》では、柔和でしなやかな指揮による、若き作曲家のみずみずしい感性の響きを期待したい。

[山崎浩太郎／音楽評論家]

## ヨゼフ・シュパチェク(ヴァイオリン)



Josef Špaček

1986年、チェコのトシェビーチ生まれ。父親はチェコ・フィルハーモニー管弦楽団のチェロ奏者であった。17歳で渡米し、カーティス音楽院、ジュリアード音楽院で学び、アイダ・カヴァフィアン、ハイメ・ラレード、イツァーク・パールマンらに師事した。2008年、カール・ニルセン国際音楽コンクールで第3位に入賞。2011年に楽団史上最年少でチェコ・フィルのコンサートマスターに就任し、2015年まで務める(その後、同団のアソシエート・アーティストとなった)。これまでに、チェコ・フィル、フィラデルフィア管弦楽団、バンベルク交響楽団、東京都交響楽団などと共演。代表的なディスクには、イルジー・ビェロフラーヴェク&チェコ・フィルとのドヴォルザークとヤナーチェクのヴァイオリン協奏曲集、ヤナーチェクとプロコフィエフのヴァイオリン・ソナタ集などがある。

NHK交響楽団とは初共演。今回指揮を執るヤクブ・フルシャとは、故郷が近く、親交があり、何度も共演を重ねている。彼らの祖国の大作曲家ドヴォルザークの《ヴァイオリン協奏曲》で息の合った演奏を聴かせてくれるであろう。使用楽器は1732年製のガールネリ・デル・ジェス“Le Brun; Bouthillard”。

[山田治生／音楽評論家]



ドヴォルザークとブラームス。ともに、いわゆる「クラシック音楽」を代表する作曲家であり、両者の間には人間的にも音楽的にも深い交流があった。ただし本日の演奏会で取り上げられる曲目は、数多の演奏会で繰り返し取り上げられる超有名曲をいくつも書いた2人にしては、上演機会に恵まれているとはいいいがたい。そうした作品の魅力が、チェコにもオーストリアにも縁のあるフルシャのタクトの下、どのように引き出されるだろう？

## ドヴォルザーク

### ヴァイオリン協奏曲 イ短調 作品53

ボヘミア出身のアントニン・ドヴォルザーク(1841~1904)が、オーストリアの都ウィーンを本拠地としていたヨハネス・ブラームスの知遇を得たのは1870年代半ばのこと。当時ドヴォルザークは、オーストリアの政府奨学金を得ていたのだが、奨学金の審査委員をしていたブラームスの目に留まったことがきっかけとなった(なお当時、ボヘミアを含む現在のチェコ一帯は、オーストリアをお膝元とする名門貴族ハプスブルク家の巨大帝国の一部だった)。

やがてドヴォルザークはブラームスの紹介で、ブラームスの盟友だったヴァイオリニストのヨーゼフ・ヨアヒムとも知り合う。そうした中から、ドヴォルザークはヨアヒムによる演奏を念頭にヴァイオリン協奏曲を作曲し、彼の助言を求めた。結果、ヨアヒムからの助言を基に改訂をおこない、再びヨアヒムに楽譜を見せたりさらなる改訂作業に勤しんだりしたものの、それを経てようやく2年後に来たヨアヒムからの最終的な返信は、まだ演奏に不十分であるとの内容だった。

ところがドヴォルザークは、その返信を受け容れた上に再び改訂作業をおこない、当作品をヨアヒムに献呈する。だが結局ヨアヒムはこの協奏曲に興味を示さず、初演の独奏は、ドヴォルザークの友人だったフランティšek・オンドルジčekがおこなった。

なおこの協奏曲は、伝統的な3つの楽章で構成されている。ただし第1楽章と第2楽章が切れ目なく演奏されるようになっており、これだけでかなり珍しい(通常はそれぞれの楽章をバラバラに、あるいは第2楽章と第3楽章を続けて演奏するようになっていく)。これは当時大流行していた、マックス・ブルッフの《ヴァイオリン協奏曲第1番》と同じ構成であり、ドヴォルザークもその響<sup>ひび</sup>にならったと考えられる。

第1楽章において、オーケストラが主題を提示したあとに独奏ヴァイオリンがやおら登場するのではなく、曲が開始されてから早々に独奏ヴァイオリンがオーケストラに絡むのも、ブルッフのそれに似ている。また、その第1楽章自体の構成も、変わっている。ソナタ形式ではあるものの、第2主題にあたるものがあまり目立たず、再現部に至ってはまったく登場しないのが特徴だ。

第2楽章は、ドヴォルザークならではの郷愁と憧憬に満ちた歌心いっぱいの美しい緩徐楽章。

第3楽章は、ボヘミアの民族舞曲「フリアント」のリズムに基づき、躍動感に溢れた内容となっている。

作曲年代	1879年作曲、1880～1882年改訂
初演	1883年10月14日、ブラハの国民劇場、オンドルジチェックのヴァイオリン独奏、モジツ・アンゲルの指揮
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ、弦楽、ヴァイオリン・ソロ

## ブラームス

# セレナード 第1番 二長調 作品11

ヨハネス・ブラームス(1833～1897)が手掛けた管弦楽のためのセレナードは、2曲存在する。ともに20歳代という若い時に書かれた作品となっており、管弦楽を用いた作品としては《ピアノ協奏曲第1番》に並んで古いものとなっている。またこうした経緯から、ブラームスが40歳代半ば以降に次々と完成させてゆく交響曲の先駆的存在と見て取ることも可能かもしれない。

そもそも「セレナード」とは、屋外で演奏される曲のこと。男性が意中の女性を口説くために窓の下でギターやマンドリンをつま弾きながら歌ったり、夜の宴を彩るべく器楽によって演奏されたりするためのものだった。またこうしたセレナードの伝統を受け、当作品は当初、4つの弦楽器(ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス)、フルート、クラリネット2、ファゴット、ホルンという、さまざまな場所で演奏可能な室内楽編成だった。ちなみに《セレナード第1番》を作った当時のブラームスは、現在のドイツ北西部に位置するデトモルトの侯爵に仕えていた。そのような「宮仕え」の境遇が、18世紀頃に貴族階級を中心に好まれた「セレナード」という、古風なジャンルを手掛けるきっかけをもたらした一因となったのだろう。

楽章の構成についても、最初に書かれたのは、現在の第1・3・6楽章にあたる3つの楽章のみという小ぶりなもの。ほどなくしてそれに2つのスケルツォ楽章(第2・5楽章)とメヌエット楽章(第4楽章)が追加され、6楽章構成となった。そしてこのバージョンが、デトモルト侯爵の邸宅や友人の家で、私的に初演されていた。

やがてブラームスはデトモルトを離れて故郷ハンブルクへと移るが、そうした中でヨアヒムのアドバイスを受けながらこの曲を管弦楽用に編曲する(それゆえ、管弦楽用の版が初演された際には、ヨアヒムが指揮を担った)。なお管弦楽編成版の完成後に、自己批判の強かったブラームスの気質もあって、若書きの室内楽編成版は破棄されてしまう。また管

弦楽編成版の総譜出版と並んで、四手ピアノ用編曲版もお目見えしている。

こうした経緯ゆえ、第1・2・3・6楽章はそれなりに長く、第3楽章に至っては15分近くもかかる場合がある。またそうした意味でも、これらの4つの楽章を抜粋すれば、後年続々と登場するブラームスの交響曲の先駆的作品といえるだろう。

提示部の締めくくりに堂々とした曲想が現れ、それが楽章の要所所で現れる第1楽章。「スケルツォ」と題されているにもかかわらず、切なさや翳<sup>かげ</sup>りに彩られた第2楽章。幻想的な雰囲気<sup>たふ</sup>を湛えた第3楽章を聴くと、まさに彼の後年の交響曲が想起される。

いっぽうで、「セレナード」と銘打たれているだけのことはあり、交響曲に比べてリラックスした雰囲気が随処に散りばめられている。3分弱であっけなく終わる第5楽章はもとより、ブラームス自身が崇拝していたハイドンやモーツァルトの曲想を思わせ、曲の途中ではフルートの細かな芸が耳を奪う第6楽章はその典型。また（これも第5楽章に次いで短い）第4楽章は、それこそハイドンやモーツァルトの作品によく登場するメヌエットの形式で書かれており、メヌエットはもともと18世紀に王侯貴族から大人気を博した宮廷の踊りだった。

つまりこのセレナードは、王侯貴族に変わって市民階級が力を得る中、野外ではなくコンサートホールで取り上げられるべきレパートリーとして「セレナード」が変容<sup>みなぎ</sup>を遂げてゆく新たな時代の潮流を映し出した作品に他ならない。若きブラームスの野心が漲る、隠れた大作である。

作曲年代	[室内楽編成版] 1857～1858年 [管弦楽編成版] 1859年
初演	[室内楽編成版] 1859年3月28日、ハンブルクのヴェルマーザール、ヨアヒムの指揮 [管弦楽編成版] 1860年3月3日、ハノーファーの宮廷劇場、ヨアヒムの指揮
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ、弦楽

Antonín Dvořák (1841-1904)

# アントニン・ドヴォルザーク

故郷への懐かしみがきらめく旋律

ドヴォルザークが生まれたのはチェコ西部・ボヘミアの農村です。生家は宿屋と肉屋を営んでいました。父は民族楽器ツィターとヴァイオリンが得意な大の音楽好き。ドヴォルザークもヴァイオリンを習い始め、みるみるうちに上達します。家にやってくる旅芸人の音楽や、村人たちが踊る民族舞踊と触れ合いながら、ドヴォルザーク少年もヴァイオリンで民謡を奏でたと言います。そうした生い立ちが、作曲家ドヴォルザークの音楽を育みました。《ヴァイオリン協奏曲》の第3楽章では、少年時代の思い出の楽器ヴァイオリンが民族舞<sup>さつそう</sup>曲風のメロディを颯爽と演奏します。

B  
2026  
FEBRUARY  
[第2059回]



幼少期のドヴォルザーク。  
「鉄オタ」としても知られる彼だが、  
この頃の故郷とウィーンを結ぶ鉄道の開通が  
きっかけだという話も

©IKE



C

第2058回

NHKホール

2/13 金 7:00pm

2/14 土 2:00pm

指揮

ゲルゲイ・マダラシュ

トランペット

菊本和昭

コンサートマスター

郷古 廉

## N響100年特別企画「邦人作曲家シリーズ」

コダーイ

ハンガリー民謡「くじゃく」による変奏曲  
[25']

フンメル

トランペット協奏曲 ホ長調 [19']

I アレグロ・コン・スピリト

II アンダンテ

III ロンド

——休憩(20分)——

ムソルグスキー(近衛秀麿編)

組曲「展覧会の絵」[35']

プロムナード

I ノーム

プロムナード

II 古い城

プロムナード

III チュイルリーの庭

IV ブイドロ

プロムナード

V 卵のからをつけたひなの踊り

VI サミュエル・ゴールデンベルクとシュミイレ

VII リモージュの市場

VIII カタコンブ

死せる言葉による死者への話しかけ

IX パーバ・ヤガーの小屋

X キエフの大きな門

本作品の楽譜は「平成27年度 三菱財団人文科学研究助成」を受けて作成されました。

※ 演奏時間は目安です。

## インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ただたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは59ページをご覧ください

こちらのQRコードから  
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

## ゲルゲイ・マダラシュ(指揮)



© Benjamin Edwards

ゲルゲイ・マダラシュは、1984年、ブダペスト生まれ。フルート、ヴァイオリン、作曲を学び、リスト音楽院のフルート科、ウィーン国立音楽大学の指揮科を卒業。クラシック音楽に親しむ以前、5歳より、正統的な楽師たち（ロマ民族や農民音楽家）からハンガリーの民俗音楽を学んだ経歴の持ち主でもある。

ディジョン・ブルゴーニュ管弦楽団の音楽監督やハンガリーのサヴァリア交響楽団の首席指揮者を歴任し、ヨーロッパ各地の著名オーケストラに客演。2019年から2025年まで、ベルギー王立リエージュ・フィルハーモニー管弦楽団の音楽監督を務め、同地生まれのセザール・フランクの《交響詩「しょく罪」》（第1版）、《オラトリオ「八つの幸い」》、《歌劇「フルダ」》の貴重なレコーディングが、各国の音楽雑誌や音楽サイトで高く評価された。古典派から同時代の音楽まで、幅広いレパートリーを備え、楽曲の版にも独自のこだわりを備えているマエストロだ。

2023年11月に初めてN響定期を指揮した際は、十八番のハンガリー・プロであったが、今回もコダーイの傑作を披露。N響首席トランペット奏者の菊本和昭と共演するフンメルの名作を経て、ラストはN響100年の記念年にちなんで近衛秀麿が管弦楽編曲したムソルグスキーの組曲《展覧会の絵》という凝った演目が組まれている。マダラシュとN響のコラボレーションに期待したい。

[満岡岡育／音楽評論家]

## 菊本和昭(トランペット)



1980年兵庫県生まれ。京都市立芸術大学首席卒業、同大学院首席修了。フライブルク音楽大学、カールスルーエ音楽大学にて学ぶ。賞歴は第19回日本管打楽器コンクール第1位。第72回日本音楽コンクール第1位および増沢賞。エルスワース・スミス国際トランペット・ソロ・コンペティション第2位など。

京都市交響楽団を経て、2012年よりNHK交響楽団首席奏者。2016年11月公演ではショスタコーヴィチ《ピアノ協奏曲第1番》でトランペット独奏を務めた。

トランペットを早坂宏明、有馬純昭、A. プログ、R. フリードリッヒ、E. H. タールに、室内楽を呉信一に師事。大阪音楽大学客員教授。京都市立芸術大学非常勤講師。

フンメルの協奏曲は、息の長い伸びやかな独奏から、細かな連符が続く素早いパッセージまで、トランペットのさまざまな表情を楽しむことができる作品。オーケストラと息の合った演奏を披露してくれることだろう。

「邦人作曲家シリーズ」だ。100年前からNHK交響楽団(当時は新交響楽団)を率いた近衛秀麿の登場。近衛と言えば作曲よりも編曲に「創造の<sup>よろこ</sup>喜び」を見いだした大音楽家。だから今回も「作曲家シリーズ」なのに編曲作品。一方、指揮者マダラシュの愛するコダーイからは、N響との所縁も深い「邦人作曲家」、間宮芳生や外山雄三の音楽のひとつのモデルがみえてこよう。ラヴェル版《展覧会の絵》なら活躍するトランペット独奏はコンチェルトでどうぞ。

## コダーイ

### ハンガリー民謡「くじゃく」による変奏曲

ハンガリーが、結ばれたばかりの日独伊三国同盟に加入したのは、1940年11月。第2次世界大戦は前年9月にはじまっている。ハンガリーは生き残りを懸けて、ナチス・ドイツの属国となる選択をしたのだ。バルトークがドイツに接近する祖国を嫌ってブダペストから米国へ旅立ったのは同盟加入前月の10月。盟友のゾルターン・コダーイ(1882～1967)は、ブダペストに居残り、ドイツ、ついでソ連の「衛星国時代」を生き抜いていくことになる。ハンガリーの民族意識を日々の糧としながら。

《ハンガリー民謡「くじゃく」による変奏曲》は1939年11月(すでに大戦中)にアムステルダムで初演された。主題はコダーイがすでに合唱曲化して同時代のハンガリーに広め直していたハンガリーの古謡。くじゃくが囚人たちを解放すべく飛んでくる、といった意の歌詞を持つ。大国への屈従を拒み、民族自立を願望する歌と言ってよい。旋律は「レ・ファ・ソ・ラ・ド」という、日本の民謡音階と同じかたちをとる5音音階に乗る。

全体は、序奏と主題の提示、16の変奏、終曲から成るが、たとえば次のように考えられないか。

静かな序奏から舞曲調で高まる第3変奏までが交響曲で言えば第1楽章。ホルンの刻みに導かれ、歌謡的に高潮し、ティンパニの3連符の繰り返しで結ぶ、第4～6変奏が、第1の緩徐部分。第7～10変奏はスケルツォ。葬送行進曲に至る第11～13変奏が、第2の緩徐部分。フルートの<sup>さえず</sup>囁きに導かれ、圧倒的に高揚する、第14変奏から終曲までがフィナーレ。

要するにシンメトリックな5楽章のようなかたち。バルトークが米国で1943年に完成する《管弦楽のための協奏曲》と似ていなくもない。

作曲年代	1939年
初演	1939年11月23日、アムステルダム、コンセルトヘボウにて、ウィレム・メンゲルベルク指揮、アムステルダム・コンセルトヘボウ管弦楽団（現ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団）
楽器編成	フルート3（ピッコロ1）、オーボエ2（イングリッシュ・ホルン1）、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、ティンパニ、シンバル、トライアングル、グロッケンシュピール、ハープ1、弦楽

## フンメル

### トランペット協奏曲 ホ長調

トランペットは古代からの歴史を持つ楽器だ。しかしその機能も役割も長いこと限定的だった。種も仕掛けもない一本の管を吹く。自然倍音列しか吹き分けられない。さまざまな音程を響かせるには、いろいろな管の長さのトランペットを組み合わせねばならない。軍隊や宮廷儀礼では役立っても、手の込んだ旋律を吹く独奏楽器としては厳しい。

ところがそこに風穴を開けた奏者が居た。アントン・ヴァイディンガーという。18世紀末からのウィーンで活躍した。なにしろ使うトランペットが斬新。管に穴をあけてキイを付け、半音階を吹き分ける。そんな彼のためにハイドンは協奏曲（1796年）を、コジエルフは協奏交響曲（1798年）を、そしてヨハン・ネポムーク・フンメル（1778～1837）はホ長調の協奏曲を作った。

フンメルは少年時代、モーツァルトにピアノを習い、さらにアルブレヒツベルガー、サリエリ、ハイドンに師事した。ウィーン古典派のしんがりと言うべき作曲家である。これら、ヴァイディンガーのための作品群はトランペット音楽の新たな<sup>あけぼの</sup>曙を告げはした。が、肝心のキイ付きトランペットが、遅れて出現したバルブ式にとって代われ、普及しなかった。フンメルの《協奏曲》はホ長調なのだが、バルブ式の変口管トランペットで吹きやすいように変ホ長調に移調されて演奏されることも多かった。今回はホ管トランペットにより原調で吹かれる。

曲にはかなりモーツァルト趣味がある。第1楽章はホ長調のアレグロ・コン・スピリト。第2楽章はイ短調のアンダンテ。まるでオペラのアリアだ。第3楽章はホ長調の活発なロンド。

作曲年代	1803年
初演	1804年1月1日、ウィーン、アントン・ヴァイディンガー独奏
楽器編成	フルート1、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、ティンパニ、弦楽

## 組曲「展覧会の絵」

モーリス・ラヴェル(1875～1937)のオーケストレーション。煌めき、輝き、爆発する。

パリで活躍していた亡命ロシア人の指揮者、セルゲイ・クーセヴィツキーは、管弦楽作家としてのラヴェルに惚れ込んでいた。そして閃いた。モデスト・ムソルグスキー(1839～1881)が、ヴィクトル・ガルトマンの一連の絵画に触発されて書いた、管弦楽の響きへの連想を誘ってやまないピアノ曲集《展覧会の絵》(1874年)を、ラヴェルに交響楽用に編曲してもらえば成功間違いなし。ラヴェルも破格の編曲料に気を良くした。仕事は1922年に行われ、完成したラヴェル版《展覧会の絵》は、同年秋にもちろん委嘱者の指揮によって初演。好評を博し、クーセヴィツキーはこのラヴェル版をしばらく独占的に演奏した。

ラヴェル版の管弦楽総譜が出版されたのはようやく1929年。他の指揮者も演奏できるようになった。ムソルグスキーの祖国、ロシア帝国改めソビエト連邦で、このラヴェル版が初演されたのは1931年1月という。指揮者は近衛秀麿(1898～1973)。彼は当時、東京で、結成されてまだ数年の新交響楽団(現NHK交響楽団)を率いていたが、1930年から翌年にかけて単身洋行。モスクワにも行き、ペルシムフアンズという名のオーケストラを振った。そのときラヴェル版《展覧会の絵》を取り上げたのだ。

本場でのラヴェル版初お目見えの評判はどうだったか。フランス趣味が勝ちすぎ、ロシアらしさが不足するという声も強かった。近衛はなるほどと思い、ラヴェル版を幾分か改めなくなった。そもそも近衛は生涯を通じて編曲魔であった。雅楽を西洋管弦楽にし、シューベルトの弦楽五重奏曲を交響曲にし、ベートーヴェンの交響曲を巨大編成にした。

しかし《展覧会の絵》についてはロシア人の意見を参考にしつつ、ラヴェル版を少しいじるだけ。近衛版と言っても最小限のアプローチだ。でもいかに違っているところもある。いちばん目立つのは最初の〈プロムナード〉だろう。トランペット独奏でない。木管と弦楽で始まる。あとはどうか。たとえば〈カタコンブ〉。ラヴェル版だと1小節目は低音金管だけだが、そこに近衛版は低音木管を重ねる。ラヴェル版だと2小節目以降にやりだすことだ。あるいは〈バーバ・ヤガーの小屋〉。魔女の家の時計が鳴る中間部で、ラヴェルがフルートやクラリネットに振る3度のトレモロの伴奏音型が、近衛だとずっとヴィオラである。他にも、低音を厚くしたり、音色を堅実にしたりする控えめな工夫がいたるところにある。それが近衛の考えるロシアらしさなのだろう。あと、ラヴェル版は、2台のハープと1台のチェレスタを用いるのだが、少なくとも1930年代の日本では難しい。そこで1つずつのハープとピアノに。そこがまただいぶ違って聞こえるだろう。

ということで、全体の構成もむろんラヴェル版と同じだが、念のため確認しよう。「」内は1934年の近衛版初演時の近衛の言葉に基づく。〈プロムナード〉のあと「<sup>がまた</sup>蟹股で不格好に歩行する小人を描いた」〈ノーム〉。再び〈プロムナード〉を挟み、「中世の吟遊



C

詩人が歌う「古い城」。3番目の「プロムナード」があって、「パリの公園で多くの児童と子守達が遊び争う」〈チュイルリーの庭〉。「ポーランドの悪路を牛が大きい荷車を引く」〈ブイドロ〉。4番目の「プロムナード」について〈卵のからをつけたひなの踊り〉。「二人のポーランド人（一人は金持ちで一人は貧乏人）の肖像」である〈サミュエル・ゴールデンベルクとシュミイレ〉。「市場の雑踏、争う女房たち」を描く〈リモージュの市場〉。「パリの地下墓地に降り立った画家の自画像」であるところの〈カタコンブ〉。ついで実質的には5番目のプロムナード〈死せる言葉による死者への話しかけ〉を経て「ロシアの怪談の魔法使いの婆の騎行」を描く〈バーバ・ヤガーの小屋〉。そして最後は「古代スラヴ風のヘルメット型の屋根を持つ大城門の設計図」の音化たる〈キエフの大きな門〉で結ぶ。

作曲年代	原作のピアノ組曲は1874年、ラヴェルによるオーケストラ編曲版は1922年、近衛秀麿によるオーケストラ編曲版は1934年
初演	1934年5月23日、東京、日比谷公会堂にて、近衛秀麿指揮、新交響楽団
楽器編成	フルート3（ピッコロ2）、オーボエ3（イングリッシュ・ホルン1）、クラリネット2、バス・クラリネット1、アルト・サクソフォーン1、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、小太鼓、トライアングル、ムチ、ラチェット、銅鑼、グロッケンシュピール、シロフォン、鐘、ピアノ1、ハープ1、弦楽

## はじめてのクラシック

INTRODUCTION TO CLASSICAL MUSIC

イラスト:IKE/文:松井治伸

このまひでまる

近衛秀麿は1898年の生まれ。1924年、日本人として初めてベルリン・フィルハーモニー管弦楽団を指揮。1926年には、NHK交響楽団の前身、新交響楽団設立の立役者となりました。「おやかた」の愛称で親しまれ、1973年に亡くなっています。日本のオーケストラの幕開きの時代をリードした存在でした。近衛はベートーヴェンの交響曲の楽譜に手を入れるなど、編曲作品も多く残しています。ムソルグスキーの《組曲「展覧会の絵」》もそのひとつ。そうした編曲には、オーケストラからより効果的な響きを引き出したいという、近衛らしいこだわりが感じられます。

C

2026  
FEBRUARY  
[第2058回]

©IKE



日本のオーケストラ時代を切り開いた「おやかた」  
**近衛秀麿**  
Hidemaro Konoe (1898-1973)

《展覧会の絵》はさまざまな作曲家が編曲を施しているが、ロシアでラヴェル編曲版を指揮した経験が、近衛を編曲へ駆り立てたという

白石美雪

Miyuki Shiraiishi

第2回

# N響と尾高賞

日本オーケストラ界と  
ともに歩んだ作曲賞

〈前編〉

リレー連載

## N響百年——複合的視座

今年創立100年を迎えるN響。100年という大きな歴史のなかから、ひとつのトピックに視点を定めることで、時代の変遷がみえてくる——。リレー連載第2回目では「尾高賞」に焦点をあてた論考の前編をお届けします。

N響100年の歴史を彩る数々のトピックのなかでも、日本交響楽団(N響の前身)で専任指揮者として活躍した尾高<sup>ひきただ</sup>尚忠と、彼の名を冠した尾高賞は極めて重要だ。ウィーンで作曲と指揮を学んだ尾高が若くして日響の指揮者になったのは太平洋戦争下の1942(昭和17)年のこと。楽団の基礎を築いた指揮者ジョセフ・ローゼンストックがユダヤ系だったことから職を失ったあとである。戦中、戦後の厳しい時代に意欲的な選曲と演奏で日響を率いた功績は日本の交響楽運動の先駆けとして記憶される。

### 稀有な才能の早逝

尾高は1911(明治44)年、東京府生まれで、旧制高校を中退してウィーンへ留学、一時帰国するも再度ウィーンに渡り、フェリックス・ワインガルトナーに指揮を、ヨーゼフ・マルクスに作曲を学んでいる。1940(昭和15)年に帰国、翌年に新交響楽団を指揮して日本デビュー。新交響楽団が日本交響楽団に改組したのちは専任指揮者としてこれを支えて多忙な日々を過ごし、39歳という若さで1951(昭和26)年2月16日に他界している。

1957(昭和32)年2月の『フィルハーモニー』は七回忌に寄せて特集「尾高尚忠の想い出」を組み、8人のエッセイ、寺西春雄と節子<sup>みさおこ</sup>未亡人の対談、司会を含めて10人による座談会を掲載。そこにはヨーロッパ時代の様子から新響とのデビュー・コンサートの逸話まで、直接、関わりのあった人たちの記憶が綴られている。美辞麗句ばかりではない。当時、日響に対して歯に衣着せぬ言葉で論評した山根銀二は尾高があまりに多忙で「日響が彼のような人を十分待遇して素質をのばすようにしむける余裕

がなかった」と指摘している。作品としてはワインガルトナー賞を受賞した《日本組曲》、日響で自ら指揮をした《<sup>あしや</sup>蘆屋乙女》や《みだれ》、戦時中に部分初演された《チェロ協奏曲》などがあり、「(尾高は)作曲をしているのが一番好きでした」と節子夫人は述べている。

1952(昭和27)年2月16日の一周忌にあたって、節子夫人は尾高の没後に贈られた文部大臣賞の賞金を「わが国音楽界の有意義な事業のために」とN響に委託する。ここで作曲賞を創設した当時の選択はまちがっていなかった。作曲への想いを残していたにちがいない尚忠の遺志を継いで誕生したこの賞が、21世紀の今日まで継承されてきたのはその証拠である。

## 日本の作曲賞における 尾高賞の異質

現在、日本の作曲賞には武満徹作曲賞(1997[平成9]年創設)や芥川也寸志<sup>やすし</sup>サントリー作曲賞(1990[平成2]年創設)などがあり、なかでも1952(昭和27)年創設の尾高賞はとくに長い歴史をもつ。しかも、実力の知られた中堅・大家の作品をも対象に含んでいる点で、新人をおもな対象にした他の賞とは一線を画している。しかし、初期の資料を読んでみると、現在とはかなり様相が異なっていた。そもそも第1回、第2回はコンクール形式、つまり作曲家が自ら応募する形式だった(第1回の応募数は16点、第2回は13点)。第1回は8月に賞の制定が発表され、募集の締め切りは同年12月26日、審査発表は尾高の命日である翌年の2月16日とされたのだが、この応募形式で行われた2回は戦前から創作してきた作曲家の曲が2作ずつ佳作となっている。このときの審査員はN響の常任指揮者クルト・ウェス、諸井三

## 「尾高賞」受賞作品①

第1回	1953年	戸田邦雄 清水 脩	交響曲(佳作) 交響曲(佳作)
第2回	1954年	箕作秋吉 原田 稔	ピアノ協奏曲(佳作) 交響的狂詩曲(佳作)
第3回	1955年	三善 晃	ピアノと管弦楽のための 協奏交響曲
第4回	1956年	林 光	オーケストラのための変奏曲
第5回	1957年	別宮貞雄	管弦楽のための「2つの祈」
第6回	1958年	入野義朗	2つの弦楽器群と管、 打楽器のための合奏協奏曲
第7回	1959年	黛 敏郎	涅槃交響曲
第8回	1960年	入野義朗	交響曲
第9回	1961年	矢代秋雄	チェロ協奏曲
第10回	1962年	—	該当作品なし
第11回	1963年	三善 晃	ピアノ協奏曲
第12回	1964年	外山雄三 諸井 誠	ヴァイオリン協奏曲 ヴァイオリンとオーケストラ のための協奏組曲
第13回	1965年	三善 晃	管弦楽のための協奏曲
第14回	1966年	間宮芳生	2つのタブロー'65
第15回	1967年	黛 敏郎	BUGAKU(舞楽)
第16回	1968年	矢代秋雄	ピアノ協奏曲
第17回	1969年	松村禎三	管弦楽のための前奏曲
第18回	1970年	平吉毅州	交響変奏曲
第19回	1971年	間宮芳生	ピアノ協奏曲 第2番
第20回	1972年	別宮貞雄	ヴィオラ協奏曲
第21回	1973年	湯浅譲二	クロノプラスチック
第22回	1974年	柴田南雄	コンサート・オブ・オーケストラ
第23回	1975年	三善 晃	チェロ協奏曲
第24回	1976年	武満 徹	カトレーン

いけのうちともじろう  
郎、池内友次郎のほかN響演奏委員らで入選作はなかった。つまり、この2回はいわば試行の段階であって、実質的には続く第3回に本格化したと言っていい。第3回からは公募制度は廃止された。改訂された当時の「尾高賞規定」には次のような項目がある。

「二、賞の対象は毎年一月一日より十二月三十一日までに公開、又は放送演奏された交響管弦楽曲(独奏楽器或いは声楽を伴うものも含む)中、清新にして独創的な内容を有する邦人作品とする。但し、編成その他はNHK交響楽団が演奏し得るものに限る」。この規定では審査員は作曲家の池内友次郎と諸井三郎、NHK音楽部長の牧定忠(滞仏のため中山卯郎が代理)、NHK交響楽団常任指揮者、NHK交響楽団演奏委員、賞金は10万円となっている。ちなみに1965(昭和40)年の規定では賞金が20万円となり、その後の規定には金額が記載されなくなった。

新制度への転換がコンクールとの差別化を意図していたことは、諸井三郎の「昭和29年度尾高賞詮衡に当つて」(『フィルハーモニー』第27巻3号)や、座談会「尾高賞をめぐる——昭和二十九年度入賞作品を中心に」(『フィルハーモニー』第27巻4号)での池内友次郎の発言から明らかだ。「あのコンクールというのは、やはり楽壇の登龍門という意味があつて、たしかにこれからの作曲家を対象にしたコンクールのような気がするのです。尾高賞はそうではなくなつた。もう一段高いというと語弊がありますが、レベルの高いものを対象にしている」(池内)。ここでの「あのコンクール」とは1932(昭和7)年にはじまり、戦中を乗り越えて毎日新聞社と日本放送協会が共同主催となった音楽コンクール(日本音楽コンクールの前身)を意味している。はじまったばかりの尾高賞は新人登竜門型のコンクール形式だと、すでに当

時、日本人のオーケストラ作品を対象としてきた歴史ある音楽コンクールの後塵を拝する可能性もあったというわけだ。

## 期待の新人、三善晃と林光

さて、新体制ではじめての第3回で選ばれた栄えある入賞作品は三善晃の《ピアノと管弦楽のための協奏交響曲》である。三善はこの時、東京大学文学部仏文学科在学中の22歳。1953(昭和28)年の第22回音楽コンクールで作曲部門第2部(室内楽曲)に入賞しているものの、いわば無名の新人である。なぜ、こんなことが起こったのか。じつは《ピアノと管弦楽のための協奏交響曲》は1954(昭和29)年、NHKが懸賞募集した芸術祭参加の管弦楽曲の入選曲で、第9回(昭和29年度)芸術祭奨励賞を得ていた。三善自ら懸賞に応募した結果が尾高賞に繋がったのだから、新制度に移行したとはいうものの、若い才能への関心が高かったのだろう。ここまで若い作曲家が尾高賞を受賞したのは翌1956(昭和31)年の林光(受賞時24歳)のみで、その後、20代での受賞は1959(昭和34)年の 黛 敏郎(まゆづみ)ただけ(30歳になる4日前の受賞だった)。

林光の《オーケストラのための変奏曲》は1955(昭和30)年11月のN響定期公演でエッシュバッハーの指揮により世界初演となった新作である。審査員の諸井三郎は「尾高賞の審査を終つて」(『フィルハーモニー』第28巻3号)で尾高賞の候補作品が「大部分は、油の乗り切つた中堅作曲家のもの」だから優劣をつけるのが困難と記したあと、今回はたくさんの候補のなかから予備審査で芥川也寸志の《プリマ・シンフォニア(交響曲第1番)》と入野義朗の

《ドッペル・コンツェルト(ヴァイオリンとピアノのための二重協奏曲)》と林光の受賞作に絞られたと報告している。個別の講評を読むと、池内自身はどれも捨てがたかったように見受けられる。結果として最も若い24歳の林に決めたのは、新人への期待だけでなく、林が尾高尚忠の愛弟子だったという理由もあったのかもしれない。

## よりオープンに、より多い共感を

三善晃、林光のあと、別宮貞雄、入野義朗、黛敏郎、矢代秋雄、外山雄三、諸井誠といった受賞者が続く。このうち、三善と林、入野、黛、矢代、諸井は審査員だった池内友次郎と諸井三郎のどちらかに学んでいて、しかも2回、3回と重ねて受賞する人も出てきたことから、1966(昭和41)年に賞の見直しが行われた。規定をみると、賞の選考は以前と同じNHK第2制作部長、NHK交響楽団常任指揮者と演奏委員に加えて、NHK交響楽団副理事長とNHK第2制作部洋楽担当チーフ・プロデューサーが入り、池内や諸井の名前はなくなっている。外部の作曲家の審査員はひとまず廃止された形だ。1966年3月の『フィルハーモニー』に有馬大五郎は「『尾高賞』選考についての新方向」という一文を載せ、尾高賞の作品には「演奏者と聴衆とが満悦するもの、演奏者と聴衆がともに気やすくファンタジーが出来るもの、たとえ多岐多様に亘る複雑なものでも、そこにある意図が一元的で一目瞭然たるもの」こそ望まれると書いている。選考対象を師弟関係に依らないオープンなものにすると同時に、一般の聴衆への普及も狙ったのだろう。

## 「尾高賞」受賞作品②

第25回	1977年	廣瀬量平 石井眞木	尺八協奏曲 日本太鼓とオーケストラ のための「モノ・プリズム」
第26回	1978年	野田暉行	ピアノ協奏曲
第27回	1979年	松村禎三	ピアノ協奏曲 第2番
第28回	1980年	松平頼晩	マリンバとオーケストラ のための「オシレーション」
第29回	1981年	武満 徹	ヴァイオリンとオーケストラ のための「遠い呼び声の 彼方へ」
第30回	1982年	一柳 慧 尾高惇忠	ピアノ協奏曲 第1番 「空間の記憶」 イマージュ
第31回	1983年	—	該当作品なし
第32回	1984年	一柳 慧	ヴァイオリン協奏曲 「循環する風景」
第33回	1985年	三善 晃	童声合唱とオーケストラ のための「響紋」
第34回	1986年	—	該当作品なし
第35回	1987年	—	該当作品なし
第36回	1988年	西村 朗 湯浅譲二	2台のピアノと管弦楽の ためのヘテロフォニー ヴィオラとオーケストラ のための「啓かれた時」
第37回	1989年	細川俊夫 一柳 慧	「遠景」 ピアノ協奏曲 第2番 「冬の肖像」
第38回	1990年	一柳 慧	交響曲「ベルリン連詩」
第39回	1991年	近藤 譲 池辺晋一郎	林にて シンフォニーⅣ
第40回	1992年	西村 朗	ヴァイオリン、 ピアノとオーケストラのための 二重協奏曲「光の環」
第41回	1993年	西村 朗	永遠なる渾沌の光の中へ
第42回	1994年	北爪道夫	映照



この時から選考の前段階として、年末もしくは年始に音楽評論家の富樫康<sup>やすし</sup>と大木正興、菅野浩和<sup>すがの</sup>による座談会が開かれ、そこで好評となった作品を絞りこみ形で審査を行うことになったと、富樫は回想記事で書いている(『音楽の友』第40巻3号、1982年)。座談会のメンバーはその後、平島正<sup>まさ</sup>郎、馬場健<sup>あきら</sup>、上野晃、木村重雄、中村洪介らが交代しながら務めた。ちなみに『フィルハーモニー』では「日本の交響楽作品を語る」などと題して、毎年、座談会を掲載しているのだが、それは尾高賞の発表と同じ号で、あたかも尾高賞が決まったあとに行われたかのような体裁をとっている。尾高賞規定はその後、1982(昭和57)年と1983(昭和58)年に一部改訂され、審査には「必要に応じ、部外音楽関係者の意見を求めることができる」という言葉が付記されて、実態に即した文言となった。

意外だったのは、創設以来ずっと使われてきた「清新にして独創的な内容を有する邦人作品」という文言が、1982(昭和57)年の改訂で「民族文化に根ざし、演奏者及び聴衆の共感が得られる独創的な内容を有する邦人作品」と変更されたことである。実質的には1966(昭和41)年に有馬が唱えた「新方向」での選考として、すでに意識して行われてきたことを規定に反映したと見ていい。「清新にして」という言葉が「新しさ」あるいは「新人」に重点を置いていたのに対して、「演奏者及び聴衆の共感が得られる」を強調しているのは、前述の有馬の主張を反映したもののだろう。気になるのは「民族文化に根ざし」のフレーズで、「海を越えて国際作曲界の表門に通じ、日本文化の昂揚に寄与する大きな意義」を持っているという、1965(昭和40)年から繰り返されてきた尾高賞の説明への裏付けにちがいないのだが、音楽において「日本文化」や「民族文化に根ざ

す」とは何を意味しているのか、あらためて考えさせられる。

---

## グローバルに演奏される作品

受賞作品が必ずN響で演奏されるのは受賞者にとって貴重というだけでなく、その作曲家を国内外に紹介する良い機会となった。第1回受賞作の戸田邦雄の《交響曲ト調》は1953(昭和28)年4月29日の都民劇場音楽サークル第1回定期鑑賞会で初演されたのち、「ウィーン及びミュンヘンの交響楽団によって演奏される予定」(『フィルハーモニー』第25巻6号)とある。第17回(1969[昭和44]年)受賞作の松村禎三の《管弦楽のための前奏曲》はユネスコで行われている国際作曲家会議に参加して第4位となり、ベルギーなど外国の放送局から15以上の申し込みがきた。また、第15回受賞作の《BUGAKU(舞楽)》は逆輸入。ニューヨーク・シティ・バレエからの委嘱で作曲されて1963(昭和38)年に舞台初演されたのち、1966(昭和41)年4月に大阪フェスティバルのオープニングでバレエを伴わない曲の初演が行われた。N響はそのあと、この曲をアメリカ、南アメリカへの旅行で演奏している。つまり、初期から受賞曲は実際に国際的な舞台で演奏されるチャンスをつかんでいたのも、リアルに「国際作曲界の表門」に通じていたといえる。

---

## 広々と開けた「日本文化」

そして、もうひとつ重要なのが「民族文化」、「日本文化」との関わりである。たとえば、第

7回(1959[昭和34]年)受賞作の黛敏郎の《<sup>お</sup>涅槃交響曲》。偶数楽章では読経の様式で、禪宗の経典が歌われ、奇数楽章では梵鐘<sup>ぼんしょう</sup>の倍音をオーケストラの楽器で響かせる。明らかに日本の素材を使いながら、その扱いはスペクトル楽派の分析や音列技法の応用となっている。黛敏郎の《BUGAKU》は笙<sup>ひちりき</sup>や箏<sup>びん</sup>といった雅楽の楽器による独特の音色をオーケストラの楽器で表現する。第33回(1985[昭和60]年)受賞作の三善晃の《童声合唱とオーケストラのための「響紋」》では子どもが「かごめかごめ」を歌い、第25回(1977[昭和52]年)受賞作の廣瀬量平の《尺八協奏曲》や石井真木の《日本太鼓とオーケストラのための「モノ・ブリズム」》ではそもそも独奏楽器として日本の楽器が登場する。

しかし、「日本文化」や「民族文化」との関わりを求める時、単純に民族の素材や楽器を使えば良いということではないだろう。有馬は前述の文章で「資料は洋の東西を問わず、どこにあってもよい」(『フィルハーモニー』第38巻3号)と述べている。しかも、「日本の現代音楽の生い立ちからみて、わが国の作曲素材が、必ずしも日本の民族音楽<sup>よ</sup>に拠るものであるとは言えない。ヨーロッパ結構、アジア結構、あるいはそれらが融合したものでも構わない。いわゆる国籍不明であることも結構なら、また、『私は日本人だから西洋風に作っても私の作品は日本的である<sup>はず</sup>だ』と言う消極的な国籍主張も頂いて結構」と言い切る。つまり、有馬は尾高尚忠が残した「私の書く音楽も、日本人に肌で感じてもらえるものでありたい」という言葉に依拠して、聴衆に積極的なアクションを起こさせるような日本文化をイメージしていた。

第8回(1960[昭和35]年)受賞作の入野義朗の《交響曲》、第21回(1973[昭和48]年)受賞作の湯浅譲二の《クロノプラスチック》、第24

## 「尾高賞」受賞作品③

第43回	1995年	藤家溪子 猿谷紀郎	思いだすひとびとのしぐさを ゆらら おりみだり Fractal Vision
第44回	1996年	野平一郎 林 光	室内協奏曲 第1番 ヴィオラ協奏曲「悲歌」
第45回	1997年	湯浅譲二	ヴァイオリン協奏曲 「イン・メモリー・オブ 武満 徹」
第46回	1998年	—	該当作品なし
第47回	1999年	池辺晋一郎 三善 晃	悲しみの森 焉歌・波摘み
第48回	2000年	外山雄三 藤家溪子	交響曲 第2番 ギター協奏曲 第2番 「恋すてふ」
第49回	2001年	北爪道夫	地の風景
第50回	2002年	細川俊夫	ハープ協奏曲「回帰」〜 辻 邦生の追憶に
第51回	2003年	湯浅譲二	内触覚的宇宙 第5番
第52回	2004年	—	該当作品なし
第53回	2005年	望月 京	クラウド・ナイン
第54回	2006年	猿谷紀郎	ゴットフリート・ベン のテキストによる 「ここに慰めはない」
第55回	2007年	新実徳英	協奏的交響曲 「エラン・ヴィタール」
第56回	2008年	西村 朗	幻影とマントラ
第57回	2009年	藤倉 大 原田敬子	secret forest for ensemble エコー・モンタージュ
第58回	2010年	—	該当作品なし
第59回	2011年	西村 朗	蘇莫者
第60回	2012年	尾高惇忠	交響曲「時の彼方へ」
第61回	2013年	野平一郎	ハープと室内オーケストラ のための「彼方、そして傍らに」

回(1976[昭和51]年)受賞作の武満徹の《カトレーン》、そして第32回(1984[昭和59]年)受賞作の<sup>いちやなぎとし</sup>《ヴァイオリン協奏曲「循環する風景」》といった作品はヨーロッパの前衛技法を取り入れて展開したもので、そこに民族や日本の「生の素材」は見当たらない。しかし、それらはまぎれもなく、「海を越えて国際作曲界の表門に通じ、日本文化の昂揚に寄与する大きな意義」を担っている。国際的な創作の最前線に対して迎合するのではなく、あくまで日本人がオリジナルな発想を結実させた作品こそ、尾高賞受賞にふさわしいということが本意であり、実際に選ばれた作品群は十分にその水準を満たしている。おそらく有馬はそこへ聴衆の共感に加わることを願っていた。

## メディアの反応

尾高賞が広く認知され、信頼を獲得していくプロセスで、メディアとの連動は不可欠だった。第3回から第33回までN響がおもに3月定期で受賞作を演奏し、機関誌『フィルハーモニー』で作品や作曲家を紹介したことはオーケストラ愛好家への波及効果があっただろう。さらに朝日新聞、毎日新聞、読売新聞といった全国紙が積極的に報道したことは大きい。毎年、受賞者のニュースは2月の発表後すぐに載ったが、それに加えてインタビュー記事等も掲載された。とくに読売新聞は受賞の一報のあと、朝刊のシリーズ「時の人」と「人間登場」、夕刊1頁の「顔」などで当該の作曲家を取り上げ、写真とともにその人柄や考え方を伝える取材記事を載せている。《ヴィオラ協奏曲》が2度目の尾高賞(第20回)受賞作となった別宮貞雄のインタビューは「音楽…それは甘美でな

ければ」(1972[昭和47]年2月19日朝刊)と題され、《マリンバとオーケストラのための「オシレーション」》で第28回受賞者となった松平頼暁のインタビューは「音を数学でくくる」(1980[昭和55]年2月19日朝刊)という見出しである。それぞれの作曲家の背景が紹介され、多くの思索の種を宿した創造者の言葉を読むと、いまだ作品を聴いたことがない新聞読者の興味もかき立てる。多くの場合、3月の定期公演より前にこうした記事が掲載され、聴衆動員にも一役かったことだろう。

尾高賞受賞コンサートのあとに演奏会評が載ることもあった。1969(昭和44)3月4日の毎日新聞夕刊には平島正郎が第518回N響定期公演の批評を書いていて、同日に演奏されたプロコフィエフの《交響曲第3番ハ短調》やファリャの《バレエ組曲「三角帽子」第2部》には一言も触れず、ひたすら尾高賞を受賞した松村禎三の《管弦楽のための前奏曲》を論じている。具体的に音響を分析しながら、彼の探り当てたものが「個に対して普遍、というようなヨーロッパ的な思考や存在の形式」におさまりきれないところがあって、かつてない喜びにゆさぶられると評価した。1978(昭和53)年4月3日の読売新聞夕刊では、丸山桂介がN響の3月定期公演で演奏された第26回尾高賞の野田暉行<sup>てるゆき</sup>の《ピアノ協奏曲》を批評している。ここでもヴィラ・ローボスの《ハーモニカ協奏曲》やニルセンの《交響曲第5番》については最後に演奏があったと触れただけで、あとは野田の作品評とその演奏評に費やしている。「オーケストラが作り出す多次元的な多層性は(中略)多分に現代的な人間の意識の多層性に呼応する」ものなので、日本の芸術を特徴づける一期一会にも通じると絶賛した。こうした率直で真摯な演奏会批評が作品の評価を決めていく礎となったはずだ。

## 尾高賞の盛り上がりと批判

尾高賞創設30周年を迎えた1982(昭和57)年には、この年に受賞した2作品、一柳の《ピアノ協奏曲第1番「空間の記憶」》と尾高惇忠の《イマージュ》の再演に加えて、3月に開かれた3種類の定期公演をすべて日本人作品のみのプログラムで構成している。これはまさに一大事業だった。選曲にあたって、まず音楽学者の船山隆と檜崎洋子に委嘱して、山田耕筰に始まる日本の全管弦楽曲のリストを作り、そこから音楽評論家5人と指揮者の外山雄三、N響演奏委員らがひとりの作曲家から1曲ずつ選び出した。これに基づき、9月定期公演で定期会員のアンケートを実施。回答607通から作曲家ベスト20をまとめて、さらに絞り込んだ。演奏されたのは矢代秋雄、芥川也寸志、武満徹、三善晃、間宮芳生<sup>みちお</sup>、山田耕筰、小山清茂、尾高尚忠、伊福部昭らの作品である。この「日本の現代管弦楽曲シリーズ」は盛況で、ベートーヴェンの演奏会と引けを取らない入りだったという。この頃から新聞や『音楽芸術』とか『音楽現代』といった雑誌で、尾高賞の受賞作を軸に、日本のオーケストラ音楽史や日本の現代音楽を論じるエッセイが掲載されるようになった。

その傍ら、30回を数えた尾高賞に対する批判も掲載された。たとえば、1983(昭和58)年2月14日の読売新聞夕刊に「「尾高賞」再考の時期? “外からの選者参加”を望む声も」という記者のコラムが載り、『音楽の友』では富樫康が「三十回を迎えた「尾高賞」 一般聴衆から真に愛される日本の管弦楽作品を……」という文を掲載。『音楽の世界 音楽家がつくる芸術・社会のための季刊誌』では武井公一が「「尾高賞」三十年におもう “該当作品な

## 「尾高賞」受賞作品④

第62回	2014年	細川俊夫	トランペット協奏曲 「霧の中で」
		猿谷紀郎	第62回神宮式年遷宮奉祝曲 交響詩「浄闇の 祈り2673」
第63回	2015年	藤倉 大	Rare Gravity
第64回	2016年	権代敦彦	“Vice Versa”―逆も真なり―
第65回	2017年	一柳 慧	交響曲 第10番―さまざまな 想い出の中に― 岩城宏之の追憶に
		池辺晋一郎	シンフォニーX 「次の時代のために」
第66回	2018年	坂田直樹	組み合わせられた風景
第67回	2019年	藤倉 大	Glorious Clouds for Orchestra
第68回	2020年	細川俊夫	オーケストラのための「渦」
第69回	2022年	西村 朗	華開世界〜オーケストラ のための
		岸野末利加	チェロとオーケストラのための 「What the Thunder Said / 雷神の言葉」
第70回	2023年	藤倉 大	尺八協奏曲
		一柳 慧	ヴァイオリンと三味線 のための二重協奏曲
第71回	2024年	湯浅譲二	打楽器、ハープ、ピアノ、 弦楽オーケストラのための 「哀歌 <sup>レク</sup> ―for my wife, Reiko―」
第72回	2025年	権代敦彦	時と永遠を結び紡 ―ヴァイオリンとオーケストラ のための Op. 193

し”の意味するもの」で厳しい批判を展開した。これらの批判の引き金となったのが第31回(1983[昭和58]年)の「該当なし」で、第34回(1986[昭和61]年)、第35回(1987[昭和62]年)にも「該当なし」を繰り返している。とくに多くの批判が向けられたのが「該当なし」の回がある一方、複数回受賞の作曲家が多いことである。毎年、数多くのオーケストラ作品が生まれているのに、なぜ同じ人の曲ばかりが受賞するのか、なぜ「該当なし」の年があるのかという疑問が投げかけられた。複数回受賞の傾向は今日まで続いていて、2025(令和7)年第72回までに受賞した作曲家の総人数は39人に留まり、三善晃、一柳慧、西村朗<sup>あきら</sup>の受賞は6回に及んでいる。

## 日本オーケストラ音楽史としての尾高賞

どうして、これほど受賞者の重複が多いのか。この文章を書くために「尾高賞」受賞作品一覧を見た時、私自身、最初に感じたのもこのことだった。そして、リストをじっくり眺めているうちに、この39人こそ、まさに日本のオーケストラ作品の歴史を考える上で欠かすことのできない作曲家だったことに気づいた。三善晃の受賞作をたどってみると、きらりと才能を感じさせる若書きの《ピアノと管弦楽のための協奏交響曲》から、死をみつめてきた孤高の精神が渾身の想いをぶつけた《焉歌・波摘み》まで、ひとりの作曲家の創作の軌跡<sup>ひらめ</sup>がまざまざと感じられる。つまり、個性的な閃きを感じた時点で評価された作曲家が、成長していく最中に産み落とした作品で充実度をまし、それぞれの時点で賞を獲得していくということは、じつは自然なことなのではないか。

審査員も最初に才能が開花した時に評価する人もいれば、成熟した完成度を評価する人もいるだろう。もちろん別の視点からみれば、受賞作と同水準の作品は他にもあったかもしれない。大家に受賞が偏る時期も、中堅から若手の受賞が目立つ時期もあった。しかし、複数の審査員が多種多様な意見を交わしながらも、39人の作曲家たちの創造力を認めてきたことそれ自体に大きな意義がある。つまり、賞というかたちで彼らの創作を育ててきたということだ。

その意味で、「尾高賞」は日本のオーケストラ音楽史を作り上げてきた強力な歯車のひとつなのである。

### 参考・引用資料

- ・読売新聞(1972年2月19日朝刊)、(1978年4月3日夕刊)、(1980年2月19日朝刊)、(1983年2月14日夕刊)
- ・毎日新聞(1969年3月4日夕刊)
- ・『フィルハーモニー』(第25巻6号、1953年)、(第27巻3号、1955年)、(第27巻4号、1955年)、(第28巻3号、1956年)、(第29巻2号、1957年)、(第38巻3号、1966年)
- ・『音楽の友』(第40巻3号、1982年)
- ・『音楽の世界 音楽家がつくる芸術・社会のための季刊誌』(第22巻11号、1983年)

白石美雪 | しらいし・みゆき

音楽学者、音楽評論家。武蔵野美術大学教授。著作に『音楽評論の一五〇年 福地桜痴から吉田秀和まで』『ジョン・ケージ 混沌ではなくアナークー』『すべての音に祝福を』、編著書に『音楽論』、共著書に『はじめての音楽史』『武満徹 音の河のゆくえ』『キーワード150 音楽通論』など。NHKラジオ『現代の音楽』パーソナリティ。



# 2026年4月定期公演のプログラムについて

## 公演企画担当者から

ブルックナーとマーラーの交響曲は、今日のオーケストラの重要なレパートリーである。長い、難しいなどと敬遠されたのは遠い昔の話で、今や熱心なファンが大勢会場に詰めかける。だからこそ、どのタイミングで入れるかが、年間プログラム策定の勘所と言っても過言ではない。首席指揮者ファビオ・ルイーゼの4シーズン目も終わりに近づいた。N響との関係がますます充実している今、満を持してお届けしたいのが、今回の2つの交響曲である。

### 超越的な世界へ導く “究極のオーケストラ音楽”

[Aプログラム]はブルックナー《交響曲第9番》。足かけ9年、ついに未完に終わったが、それでもこの曲は間違いなく“究極のオーケストラ音楽”と呼ぶべきものだ。聴き手は、滔々たる音の流れに包まれながら、超越的な世界へと導かれる。敬虔なカトリック信仰を持つ作曲家は生涯をかけて、ついにこのような高みに到達した。

指揮者としては、ダイナミクスや和声の変化に細心の注意を払いながら、巨大な構造物を築き上げていくのが定石のやり方だろう。ルイーゼはおそらくそれに加えて、カトリックの典礼で大切な役目を果たしてきた“歌”の要素をこの曲に見出し、美しく紡いでいくことにも神

経を張りめぐらせるのではないか。第3楽章の金管コーラルをはじめ、曲の要所要所で、彼が一貫してこたわってきたピアノシモや、自然なフレーズの流れを感じ取ることができるはずだ。

ハイドン《チェロ協奏曲第1番》を弾くヤン・フォグラーは、ドレスデン音楽祭の芸術監督。昨年、N響がこの音楽祭に出演できたのは、彼の熱心な働きかけによる。

### 揺れ動く人間の感情がこもった マーラー《交響曲第5番》

永遠を感じさせるブルックナーに対して、[Bプログラム]のマーラー《交響曲第5番》には、揺れ動く人間の感情がこもっている。どちらも根源的な問いに迫る音楽だからこそ、私たちの心を強くとらえるのだろう。

葬送行進曲で始まり、死への恐れに向き合う第1楽章。続く第2楽章では、絶望の中に一筋の光明が差す。混沌の中にユーモアを漂わせる第3楽章、そして最も有名な、安らぎに満ちた第4楽章〈アダージェット〉。第5楽章が描くのは、苦悩を乗り越えた末の喜びか。一見わかりやすい構成を持つところに、人気の秘密があるのかも知れない。だがルイーゼは、曲のストーリー性について多く語ることを好まない。「演奏で表現されるものが全て」というのが



彼の信条なのだ。

首席クラリネット奏者の松本健司は、10歳でモーツァルト《クラリネット協奏曲》に出会って以来、コンクールなど、人生の節目節目でこの曲に向き合ってきた。周囲への感謝の気持ちを込めて演奏したいと語る。

## 時を超えて 海を超えて

N響は4月末、外交関係樹立60周年を記念して、24年ぶりのシンガポール公演を行う。直前の[Cプログラム]は、これと連動した内容になっている。

《管弦楽のためのディヴェルティメント》には、日本各地の民謡がメドレーで現れる。外山雄三の盟友・岩城宏之が作曲を依頼、N響はちょうど60年前の南米ツアーで演奏した。海外公演にふさわしい華やかなショーピー

スは、N響創立100年に寄せて、現在の正指揮者・下野竜也が、大先輩の外山・岩城に捧げるオマージュでもある。

続いては人気ピアニスト、反田恭平によるプロコフィエフ《ピアノ協奏曲第3番》。第3楽章は長唄《越後獅子》にヒントを得たと言われるが、その意味で前後の邦人作品の間に違和感なく収まるだろう。

《交響譚詩》では、《ゴジラ》を書いた伊福部昭らしい野性的なリズムと、五音音階の叙情的なメロディが交錯する。没後50年、ブリテンの《4つの海の間奏曲》が描くのは、夜明けから嵐まで、変化に富んだ海の表情。日本とシンガポールを結ぶ“海”を意識しての選曲である。

[西川彰一／NHK交響楽団 芸術主幹]

**A** 4/11 土 6:00pm  
4/12 日 2:00pm

NHKホール

ハイドン／チェロ協奏曲 第1番 ハ長調 Hob. VIIb-1  
ブルックナー／交響曲 第9番 二短調

指揮：ファビオルイージ  
チェロ：ヤンフォーグラ



**B** 4/16 木 7:00pm  
4/17 金 7:00pm

サントリーホール

モーツァルト／クラリネット協奏曲 イ長調 K. 622  
マーラー／交響曲 第5番 嬰ハ短調

指揮：ファビオルイージ  
クラリネット：松本健司(N響首席クラリネット奏者)



**C** 4/24 金 7:00pm  
4/25 土 2:00pm

NHKホール

**N響100年特別企画「邦人作曲家シリーズ」**

外山雄三／管弦楽のためのディヴェルティメント  
プロコフィエフ／ピアノ協奏曲 第3番 ハ長調 作品26  
伊福部 昭／交響譚詩

ブリテン／歌劇「ピーター・グライムズ」  
—「4つの海の間奏曲」作品33a

指揮：下野竜也 ピアノ：反田恭平



チケットのご案内(定期公演 2025年9月～2026年6月)

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～44%お得です！(一般料金の場合。ユースチケットでは最大57%お得です。割引率は公演や券種によって異なります)

発売開始日 (10:00amからの受付)	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	2025年7月6日[日](定期会員先行)／2025年7月13日[日](一般)
	シーズン会員券(Winter)	2025年10月14日[火](定期会員先行)／2025年10月17日[金](一般)
	シーズン会員券(Spring)	2026年2月10日[火](定期会員先行)／2026年2月14日[土](一般)

料金(税込)

年間会員券(9回)		S	A	B	C	D
Aプログラム	一般	¥76,500(¥8,500)	¥65,025(¥7,225)	¥49,725(¥5,525)	¥41,310(¥4,590)	¥32,895(¥3,655)
	ユースチケット	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥23,715(¥2,635)	¥19,503(¥2,167)	¥11,475(¥1,275)
Bプログラム	一般	¥91,800(¥10,200)	¥76,500(¥8,500)	¥61,200(¥6,800)	¥49,725(¥5,525)	¥42,075(¥4,675)
	ユースチケット	¥45,900(¥5,100)	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥24,858(¥2,762)	¥21,033(¥2,337)

シーズン会員券(3回)		S	A	B	C	D
Aプログラム	一般	¥26,850(¥8,950)	¥22,824(¥7,608)	¥17,454(¥5,818)	¥14,499(¥4,833)	¥11,547(¥3,849)
	ユースチケット	¥13,425(¥4,475)	¥10,740(¥3,580)	¥8,325(¥2,775)	¥6,849(¥2,283)	¥4,029(¥1,343)

( )内は1公演あたりの単価

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日 (10:00amからの受付)	9・10・11月	2025年7月23日[水](定期会員先行)／2025年7月27日[日](一般)
	12・1・2月	2025年10月22日[水](定期会員先行)／2025年10月26日[日](一般)
	4・5・6月	2026年2月19日[木](定期会員先行)／2026年2月23日[月・祝](一般)

ユースチケット

29歳以下の方へのお得なチケットです。全席種が一般料金の半額以下、1公演1000円～で定期公演をお楽しみいただけます。1回券と定期会員券ともにご利用いただけます。料金は各公演の情報をご覧ください。

※ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。  
※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳しくはN響ホームページをご覧ください。

WEBチケットN響  
https://nhkso.pia.jp

お申し込み

N響ガイド | TEL 0570-02-9502  
営業時間：10:00am～5:00pm  
定休日：土・日・祝日

- 東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業
- 発売初日の土・日・祝日は10:00am～3:00pmの営業
- 電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

2025-26定期公演プログラム

2026 04	A	第2060回 4/11 <sup>土</sup> 6:00pm 4/12 <sup>日</sup> 2:00pm  NHKホール	ブルックナーの絶筆に 孤高の中に屹立する精神を見る ハイドン／チェロ協奏曲 第1番 ハ長調 Hob. Vllb-1 ブルックナー／交響曲 第9番 二短調  指揮:ファビオ・ルイージ チェロ:ヤン・フーグラー	一般 S ¥11,000 A ¥9,500 B ¥7,600 C ¥6,000 D ¥5,000 E ¥3,000	ユースチケット S ¥5,500 A ¥4,500 B ¥3,500 C ¥2,800 D ¥1,800 E ¥1,400
		第2061回 4/16 <sup>木</sup> 7:00pm 4/17 <sup>金</sup> 7:00pm  サントリーホール	モーツァルトとマーラーに通底する絶対美の深淵に触れる モーツァルト／クラリネット協奏曲 イ長調 K. 622 マーラー／交響曲 第5番 嬰ハ短調  指揮:ファビオ・ルイージ クラリネット:松本健司(N響首席クラリネット奏者)	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥5,500	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,250 D ¥2,750
		第2062回 4/24 <sup>金</sup> 7:00pm 4/25 <sup>土</sup> 2:00pm  NHKホール	下野がナビゲートする20世紀日本名曲の旅 <b>N響100年特別企画 邦人作曲家シリーズ</b> 外山雄三／管弦楽のためのディヴェルティメント プロコフィエフ／ピアノ協奏曲 第3番 ハ長調 作品26 伊福部 昭／交響譚詩 ブリテン／歌劇「ピーター・グライズ」―「4つの海の間奏曲」作品33a  指揮:下野竜也 ピアノ:反田恭平	一般 S ¥10,000 A ¥8,500 B ¥6,500 C ¥5,400 D ¥4,300 E ¥2,200	ユースチケット S ¥5,000 A ¥4,000 B ¥3,100 C ¥2,550 D ¥1,500 E ¥1,000
2026 05	A	第2064回 5/23 <sup>土</sup> 6:00pm 5/24 <sup>日</sup> 2:00pm  NHKホール	ドイツ音楽の深い洞察者と奏でるブラームス・プログラム ブラームス／ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲 イ短調 作品102 ブラームス(シェンベルク編)／ピアノ四重奏曲 第1番 ト短調 作品25  指揮:ミハエル・ザンデルリンク ヴァイオリン:クリスティアン・テツラフ チェロ:ターニャ・テツラフ	一般 S ¥10,000 A ¥8,500 B ¥6,500 C ¥5,400 D ¥4,300 E ¥2,200	ユースチケット S ¥5,000 A ¥4,000 B ¥3,100 C ¥2,550 D ¥1,500 E ¥1,000
		第2063回 5/14 <sup>木</sup> 7:00pm 5/15 <sup>金</sup> 7:00pm  サントリーホール	「ヤマカズ21」が振る元祖ヤマカズ そして1930年代日独作品の諸相 <b>N響100年特別企画 邦人作曲家シリーズ</b> 山田一雄／小交響詩「若者のうたへる歌」 ハルトマン／葬送協奏曲* 須賀田碓太郎／交響的序曲 作品6 ヒンデミット／交響曲「画家マチス」  指揮:山田和樹 ヲイオリン:キム・スーヤン*	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥5,500	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,250 D ¥2,750
		第2065回 5/29 <sup>金</sup> 7:00pm 5/30 <sup>土</sup> 2:00pm  NHKホール	旧ソ連・ラトビア出身の気鋭が解き明かす 謎多きショスタコヴィチ<第4番>の真価 ヴァスクス／感謝の歌(2025)[NHK交響楽団、ラトビア国立交響楽団、 ミンヘン室内管弦楽団、オーストラリア室内管弦楽団共同委嘱作品／日本初演] ショスタコヴィチ／交響曲 第4番 ハ短調 作品43  指揮:アンドリス・ボーガ	一般 S ¥10,000 A ¥8,500 B ¥6,500 C ¥5,400 D ¥4,300 E ¥2,200	ユースチケット S ¥5,000 A ¥4,000 B ¥3,100 C ¥2,550 D ¥1,500 E ¥1,000
2026 06	A	第2067回 6/13 <sup>土</sup> 6:00pm 6/14 <sup>日</sup> 2:00pm  NHKホール	ニューヨーク・フィルを率いたズヴェーデン 待望のN響初登場 ワグナー／楽劇「ニュルンベルクのマイスター・ジンガー」前奏曲 モーツァルト／ピアノ協奏曲 第17番 ト長調 K. 453 バルトーク／管弦楽のための協奏曲 指揮:ヤープ・ヴァン・ズヴェーデン ピアノ:コンラッド・タオ	一般 S ¥11,000 A ¥9,500 B ¥7,600 C ¥6,000 D ¥5,000 E ¥3,000	ユースチケット S ¥5,500 A ¥4,500 B ¥3,500 C ¥2,800 D ¥1,800 E ¥1,400
		第2066回 6/4 <sup>木</sup> 7:00pm 6/5 <sup>金</sup> 7:00pm  サントリーホール	ドゥナーヴが編む「夏」と「海」をめぐるフランス名曲選 オネゲル／交響詩「夏の牧歌」 ベルリオーズ／歌曲集「夏の夜」作品7 イベール／寄港地 ドビュッシー／交響詩「海」  指揮:ステファヌ・ドゥナーヴ メゾ・ソプラノ:ガエル・アルケーズ	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥5,500	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,250 D ¥2,750
		第2068回 6/19 <sup>金</sup> 7:00pm 6/20 <sup>土</sup> 2:00pm  NHKホール	尾高のリズムと相性抜群の北国の名作たち HIMARI、N響定期に初登場 シベリウス／アンダンテ・フェスティエヴォ シベリウス／ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47 ラフマニノフ／交響曲 第3番 イ短調 作品44  指揮:尾高忠明 ヲイオリン:HIMARI	一般 S ¥10,000 A ¥8,500 B ¥6,500 C ¥5,400 D ¥4,300 E ¥2,200	ユースチケット S ¥5,000 A ¥4,000 B ¥3,100 C ¥2,550 D ¥1,500 E ¥1,000

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

(料金はすべて税込)

特別公演

2/27金 7:00pm	東京芸術劇場	N響 ドラゴンクエスト・コンサート ～導かれし者たち～
2/28土 2:00pm	パルテノン多摩	
3/1日 3:00pm	森のホール21(松戸市文化会館)	

指揮:下野竜也  
すぎやまこういち／交響組曲「ドラゴンクエストIV」導かれし者たち

料金(税込):  
東京芸術劇場(2/27)、パルテノン多摩(2/28)  
一般 | S席11,000円 A席9,000円 B席8,000円  
ユースチケット(29歳以下) | S席5,500円 A席4,500円 B席4,000円

森のホール21(3/1) ★C席はステージの一部が見えづらい席となります。  
一般 | S席9,000円 A席8,000円 B席7,000円 C席4,000円\*  
ユースチケット(29歳以下) | S席4,500円 A席4,000円 B席3,500円 C席2,000円\*

※定期会員は一般料金から10%割引  
チケット発売日:N響定期会員先行 | 12月15日(月)10:00am  
一般 | 12月19日(金)10:00am

主催:NHK交響楽団 協力:株式会社スクウェア・エニックス／スギヤマ工房有限会社

### 3/5 木 7:00pm | N響大河ドラマ&名曲コンサート〈特別編〉

NHKホール

指揮:沖澤のどか 特別ゲスト:高橋英樹(俳優)

オンド・マルトノ:大矢素子 テノール:工藤和真 薩摩琵琶:友吉鶴心 龍笛:稲葉明德、瀬織拓也、岩崎達也  
二十五絃箏:中井智弥 尺八:長須与佳 シンセサイザー:篠田元一 電子パーカッション:篠田浩美  
男声合唱:慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団 児童合唱:NHK東京児童合唱団 司会:田添菜穂子

[第1部 | 大河ドラマ編]

風林火山(2007/千住明) 豊臣兄弟!(2026/木村秀彬) 独眼竜政宗(1987/池辺晋一郎) 八代将軍 吉宗(1995/池辺晋一郎) 春日局(1989/坂田晃一) 源義経(1966/武満 徹[坂田晃一編]) 夢千代日記(1981/武満 徹)※NHK「ドラマ人間模様」から 竜馬がゆく(1968/間宮芳生) 徳川家康(1983/富田 勲) 新選組!(2004/服部隆之)

[第2部 | 「河」「川」にちなんだクラシック名曲選]

ワーグナー(フンバーディンク編)/楽劇「神々のたそがれ」―「夜明けとジークフリートのラインの旅」  
イヴァノヴィチ/ワルツ「ドナウ川」のさざ波」  
スメタナ/交響詩「モルダウ」

料金(税込):一般 | S席12,000円 A席10,000円 B席7,000円 C席5,000円

ユースチケット(29歳以下) | S席6,000円 A席5,000円 B席3,500円 C席2,500円

※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行 | 12月15日(月)10:00am

一般 | 12月19日(金)10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団

### 6/26 金 7:00pm | N響シネマ・ミュージック feat. ジョン・ウィリアムズ

J:COMホール八王子(八王子市民会館)

指揮:原田慶太楼

―オール・ジョン・ウィリアムズ・プログラム―

オリンピック・スピリット 映画『スーパーマン』―マーチ 映画『E.T.』―フライング・テーマ

映画『ジュラシック・パーク』―テーマ 映画『シンドラーのリスト』―テーマ

映画『レイダース/失われたアーク《聖櫃》』―レイダース・マーチ オリニック・ファンファーレとテーマ

映画『ハリーポッター』―ヘドウィグのテーマ 映画『スターウォーズ』―メイン・タイトル、レイア姫のテーマ、

ルークとレイア、帝国のマーチ、ヨーダのテーマ、酒場のバンド、王座の間とエンド・タイトル

料金(税込):一般 | S席10,000円 A席8,600円 B席6,800円

ユースチケット(29歳以下) | S席5,000円 A席4,300円 B席3,400円

※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行 | 3月9日(月)10:00am

一般 | 3月13日(金)10:00am

主催:NHK交響楽団

7/3 金 7:00pm | Music Tomorrow 2026

東京オペラシティ コンサートホール

指揮: 杉山洋一

第73回「尾高賞」受賞作品

杉山洋一／夢へのきざし—オーケストラのための(2026) [N響100年記念委嘱作品・世界初演]

ほか

料金(税込): 一般 | S席4,000円 A席3,000円 B席2,000円

ユースチケット(29歳以下) | S席2,000円 A席1,500円 B席1,000円

※定期会員は一般料金から10%割引

チケット発売日: N響定期会員先行 | 3月9日(月) 10:00am

一般 | 3月13日(金) 10:00am

主催: NHK / NHK交響楽団

共催: (公財)東京オペラシティ文化財団

お申し込み

WEBチケットN響

<https://nhkso.pia.jp>



N響ガイド | TEL 0570-02-9502

営業時間: 10:00am ~ 5:00pm

定休日: 土・日・祝日

●東京都内での主催公演開催日は曜日に問わず10:00am ~ 開演時刻まで営業

●発売初日の土・日・祝日は10:00am ~ 3:00pm の営業

●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

## 海外公演

4/29 水祝 7:30pm | 日本・シンガポール外交関係樹立60周年 NHK交響楽団 シンガポール公演

エスプラネード シアター・オン・ザ・ベイ コンサートホール

指揮: 下野竜也(NHK交響楽団 正指揮者) ピアノ: 反田恭平

外山雄三／管弦楽のためのディヴェルティメント

プロコフィエフ／ピアノ協奏曲 第3番 ハ長調 作品26

R. シュトラウス／交響詩「ドン・ファン」作品20

ブリテン／歌劇「ピーター・グラ임ズ」—4つの海の間奏曲 作品33a

主催: エスプラネード シアター・オン・ザ・ベイ

[協賛]



Internet Initiative Japan



# 各地の公演

## 2/22 日 5:00pm | NHK交響楽団演奏会 倉敷公演

### 倉敷市民会館

指揮:ヤクブ・フルシャ ヴァイオリン:ヨゼフ・シュバチェク  
ドヴォルザーク／ヴァイオリン協奏曲 イ短調 作品53  
ブラームス／セレナード 第1番 二長調 作品11  
主催:NHK岡山放送局／NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

## 2/23 月祝 4:00pm | NHK交響楽団 特別演奏会

### 福岡シンフォニーホール

出演者・曲目は2月22日と同じ  
主催:(公財)アクロス福岡 お問い合わせ:アクロス福岡チケットセンター TEL(092)725-9112

## 3/6 金 7:00pm | N響大河ドラマ&名曲コンサート supported by SGC

### ソニックシティ大ホール

指揮:沖澤のどか トランペット:菊本和昭(N響首席トランペット奏者) 薩摩琵琶:友吉鶴心  
龍笛:稲葉明德、瀬瀬拓也、岩崎達也 シンセサイザー:篠田元一 司会:田添菜穂子

[第1部 | 大河ドラマ編]  
風林火山(2007／千住明) 豊臣兄弟!(2026／木村秀彬) 秀吉(1996／小六禮次郎) 峠の群像(1982／池辺晋一郎)  
元禄繚乱(1999／池辺晋一郎) 源義経(1966／武満徹[坂田晃一編])  
夢千代日記(1981／武満徹)※NHK「ドラマ人間模様」から 竜馬がゆく(1968／間宮芳生)  
利家とまつ〜加賀百万石物語〜(2002／渡辺俊幸) 天地人(2009／大島ミチル)

[第2部 | 「大河」にちなんだクラシック名曲選]  
ワーグナー(フンパーディンク編)／楽劇「神々のたそがれ」―「夜明けとジークフリートのラインの旅」  
イヴァン・ヴィチ／ワルツ「ドナウ川のさざ波」  
スメタナ／交響詩「モルダウ」  
主催・お問い合わせ:サンライズプロモーション東京 TEL(0570)00-3337

## 3/7 土 2:00pm | N響大河ドラマ&名曲コンサート supported by SGC

### 所沢市民文化センター ミューズ アークホール

出演者・曲目は3月6日と同じ  
主催・お問い合わせ:サンライズプロモーション東京 TEL(0570)00-3337

---

### 3/8(日) 3:30pm | N響大河ドラマ&名曲コンサート

キッセイ文化ホール(長野県松本文化会館)

---

出演者・曲目は3月6日と同じ

主催:キッセイ文化ホール(一財)長野県文化振興事業団 お問合せ:キッセイ文化ホール(長野県松本文化会館) TEL(0263)34-7100

---

---

### 3/15(日) 2:00pm | 第13回 NHK交響楽団 いわき定期演奏会

いわき芸術文化交流館アリオス アルパイン大ホール

---

指揮:沖澤のどか ソプラノ:松井亜希 メゾ・ソプラノ:小泉詠子 テノール:清水徹太郎 バリトン:加未 徹  
合唱:いわき市民レクイエム合唱団

モーツァルト／アダージョとフーガ ハ短調 K. 546

プロコフィエフ／古典交響曲 作品25

モーツァルト／レクイエム K. 626

主催:いわき芸術文化交流館アリオス お問合せ:アリオスチケットセンター TEL(0246)22-5800

---

---

### 3/25(水) 7:00pm | 東京・春・音楽祭2026 東京春祭 合唱の芸術シリーズ vol. 13 シェーンベルク《グレの歌》

東京文化会館 大ホール

---

指揮:マレク・ヤノフスキ ヴァルデマール王:デーヴィッド・バット・フィリップ トーヴェ:カミラ・ニールンド  
農夫:ミヒャエル・クプファー・ラデツキー 山鳩:カトリン・ヴンドザム 道化師クラウス:トーマス・エベンシュタイン  
語り手:アドリアン・エレート 合唱:東京オペラシンガーズ 合唱指揮:エベルハルト・フリードリヒ、西口彰浩  
シェーンベルク／グレの歌

主催:東京・春・音楽祭実行委員会 共催:NHK交響楽団 お問合せ:東京・春・音楽祭サポートデスク TEL(050)3496-0202

---

---

### 4/5(日) 3:00pm | 東京・春・音楽祭2026 東京春祭ワーグナー・シリーズ vol. 17 4/7(火) 6:30pm | 《さまよえるオランダ人》(演奏会形式)

東京文化会館 大ホール

---

指揮:アレクサンダー・ソディ ダーラント:タレク・ナズミ ゼンタ:カミラ・ニールンド  
エリック:デーヴィッド・バット・フィリップ マリー:カトリン・ヴンドザム 舵手:トーマス・エベンシュタイン  
オランダ人:ミヒャエル・クプファー・ラデツキー 合唱:東京オペラシンガーズ  
合唱指揮:エベルハルト・フリードリヒ、西口彰浩 音楽コーチ:トーマス・ラウスマン  
ワーグナー／歌劇「さまよえるオランダ人」(全3幕)(演奏会形式／字幕付)

主催:東京・春・音楽祭実行委員会 共催:NHK交響楽団 お問合せ:東京・春・音楽祭サポートデスク TEL(050)3496-0202

---

---

### 5/5(火祝) 5:30pm | N響 ゴールデン・クラシック 2026

サントリーホール

---

指揮:梅田俊明 ピアノ:ジョージ・ハリオノ

ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第3番 二短調 作品30

チャイコフスキー／交響曲 第4番 ヘ短調 作品36

主催:MIYAZAWA & Co. お問合せ:サンライズプロモーション TEL(0570)00-3337

---

5/6(水) 2:30pm | N響 ゴールデン・クラシック 2026

府中の森芸術劇場 どりーむホール

指揮:梅田俊明 ピアノ:ジョージ・ハリオノ  
チャイコフスキー／ピアノ協奏曲 第1番 変ロ短調 作品23  
チャイコフスキー／交響曲 第4番 ヘ短調 作品36  
主催:MIYAZAWA & Co. お問い合わせ:サンライズプロモーション TEL(0570)00-3337

5/9(土) 3:00pm | N響 ベストクラシックス リオ・クオクマン(指揮)×萩原麻未(Pf)  
×NHK交響楽団(管弦楽)

かつしかシンフォニーヒルズ モーツァルトホール

指揮:リオ・クオクマン ピアノ:萩原麻未  
ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第4番 ト長調 作品58  
リムスキー・コルサコフ／交響組曲「シェエラザード」作品35  
主催:葛飾区文化施設指定管理者 お問い合わせ:かつしかシンフォニーヒルズ TEL(03)5670-2233

5/10(日) 2:00pm | NHK交響楽団 リオ・クオクマン(指揮)×萩原麻未(ピアノ)

埼玉会館 大ホール

出演者・曲目は5月9日と同じ  
主催:(公財)埼玉県芸術文化振興財団 お問い合わせ:SAFチケットセンター TEL(0570)064-939

6/22(日) 3:00pm | 森のホール21 CLASSICS vol. 9 NHK交響楽団 松戸特別演奏会

森のホール21(松戸市文化会館) 大ホール

指揮:尾高忠明 ヴァイオリン:HIMARI  
シベリウス:アンダンテ・フェスティーヴォ  
シベリウス／ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47  
ラフマニノフ／交響曲 第3番 イ短調 作品44  
主催:公益財団法人松戸市文化振興財団 お問い合わせ:森のホール21チケットセンター TEL(047)384-3331

6/27(土) 3:00pm | 原田慶太楼 指揮 NHK交響楽団〜ジョン・ウィリアムズの世界〜

グランシップ 大ホール・海

指揮:原田慶太楼  
—オール・ジョン・ウィリアムズ—  
オリンピック・スピリット 映画『スーパーマン』—マーチ 映画『E. T.』—フライング・テーマ  
映画『ジュラシック・パーク』—テーマ 映画『シンドラーのリスト』—テーマ  
映画『レイダース／失われたアーク《聖櫃》』—レイダース・マーチ オリニック・ファンファーレとテーマ  
映画『ハリー・ポッター』—ヘドウィグのテーマ 映画『スターウォーズ』—メイン・タイトル、レイア姫のテーマ、  
ルークとレイア、帝国のマーチ、ヨーダのテーマ、酒場のバンド、王座の間とエンド・タイトル  
主催:公益財団法人静岡県文化財団、静岡県 お問い合わせ:グランシップチケットセンター TEL(054)289-9000

## オーチャード定期

横浜みなとみらいホール 大ホール

**4/19** 日 **3:30pm**

指揮: ファビオ・ルイーゼ クラリネット: 松本健司 (N響首席クラリネット奏者)

モーツァルト / クラリネット協奏曲 イ長調 K. 622

マーラー / 交響曲 第5番 嬰ハ短調

Bunkamura オーチャードホール

**6/28** 日 **3:30pm**

出演者・曲目は6月27日と同じ

主催・お問合せ: Bunkamura TEL (03) 3477-3244

# 速報 2026-27定期公演プログラム(2026年9月~2027年6月)

2026 09	A	第2069回 9/12(土) 6:00pm 9/13(日) 2:00pm  NHKホール	「危機の時代」にルイーザが問う 大戦前夜の不穏さを孕んだ大作 <b>N響100年特別企画</b> フランツ・シュミット／オラトリオ「7つの封印の書」 指揮:ファビオ・ルイーザ ヨハネ(テノール):ミハエル・ラウレンツ 神の声(バス):ダーヴィット・シュテフェンス ソプラノ:迫田美帆 メゾ・ソプラノ:藤井麻美 テノール:伊藤達夫 バス:加藤宏隆 オルガン:新山恵理 合唱:新国立劇場合唱団
	B	第2070回 9/17(木) 7:00pm 9/18(金) 7:00pm  サントリーホール	ルイーザの道案内で分ける ドイツ・ロマンの森 ウェーバー／歌劇「オベロン」序曲 ブラームス／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品77 シューマン／交響曲 第4番 二短調 作品120(改訂版) 指揮:ファビオ・ルイーザ ヴァイオリン:アウグスティン・ハーデリヒ
	C	第2071回 9/25(金) 7:00pm 9/26(土) 2:00pm  NHKホール	爆発する才気と大胆不敵さ <b>N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏1</b> ベートーヴェン／交響曲 第1番 八長調 作品21 ベートーヴェン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」 指揮:ファビオ・ルイーザ
2026 10	A	第2072回 10/17(土) 6:00pm 10/18(日) 2:00pm  NHKホール	ブロムシュテットに導かれて到る 崇高なるものと一体感、そして法悦へ ブルックナー／交響曲 第5番 変ロ長調 指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット
	B		10月Bプログラムは特別公演開催のため休止いたします。 2026-27シーズンのBプログラムは9月、11月、12月の全3回です。 同シーズン同プログラムの定期会員のみなさまは 2027-28シーズン(2027年9月~2028年6月、全9回予定)にご継続いただけます。
	C	第2073回 10/23(金) 7:00pm 10/24(土) 2:00pm  NHKホール	全曲を統べる律動と生命力 <b>N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏2</b> ベートーヴェン／「エグモント」序曲 ベートーヴェン／交響曲 第8番 八長調 作品93 ベートーヴェン／交響曲 第5番 八短調 作品67「運命」 指揮:クリストフ・エッシェンバッハ
2026 11	A	第2074回 11/7(土) 6:00pm 11/8(日) 2:00pm  NHKホール	戦時にショスタコーヴィチがスコアに込めた「叫び」をソヒエフが抉り出す プロコフィエフ／ヴァイオリン協奏曲 第1番 二長調 作品19 ショスタコーヴィチ／交響曲 第8番 八短調 作品65 指揮:トゥガン・ソヒエフ ヴァイオリン:神尾真由子
	B	第2076回 11/19(木) 7:00pm 11/20(金) 7:00pm  サントリーホール	ロマンティズムとファンタジーの極致 ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第2番 八短調 作品18 チャイコフスキー／バレエ音楽「くるみ割り人形」作品71(抜粋) 指揮:トゥガン・ソヒエフ ピアノ:アレクサンドル・カントロフ
	C	第2075回 11/13(金) 7:00pm 11/14(土) 2:00pm  NHKホール	均整美、旋律美、そして自然への愛 <b>N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏3</b> ベートーヴェン／序曲「コリアン」 ベートーヴェン／交響曲 第2番 二長調 作品36 ベートーヴェン／交響曲 第6番 八長調 作品68「田園」 指揮:トゥガン・ソヒエフ

		A	NHKホール	B	サントリーホール
			開場6:00pm 開演6:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm		開場6:20pm 開演7:00pm 開場6:20pm 開演7:00pm
		C	NHKホール		
			開場6:00pm 開演7:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm		
2026 12	A	第2077回	11/28(土) 6:00pm 11/29(日) 2:00pm	デットワ&アルゲリッチ 20年の時を経てN響で再共演! ファリャ／バレエ組曲「三角帽子」第2番 ラヴェル／ピアノ協奏曲ト長調 ベルリオーズ／幻想交響曲 作品14 指揮:シャルル・デットワ ピアノ:マルタ・アルゲリッチ	
	B	第2079回	12/10(木) 7:00pm 12/11(金) 7:00pm	オ人・エメリヤニチェフが命を吹き込む 100年記念作と《スコットランド》 モーツァルト／歌劇「魔笛」序曲 スルンカ／チェロ協奏曲[NHK交響楽団100年記念委嘱作品／世界初演] メンデルスゾーン／交響曲 第3番 イ短調 作品56「スコットランド」 指揮:マキシム・エメリヤニチェフ チェロ:ニコラ・アルトシュテット	
	C	第2078回	12/4(金) 7:00pm 12/5(土) 2:00pm	極限まで追求されたリズムのボテンシャル N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏4 ベートーヴェン／交響曲 第4番 変ロ長調 作品60 ベートーヴェン／交響曲 第7番 イ長調 作品92 指揮:シャルル・デットワ ※ベートーヴェン「交響曲第9番『合唱つき』」は、2026年末の「ベートーヴェン「第9」演奏会」で演奏予定です(指揮:マレク・ヤフノフスキ)。	
2027 01	A	第2080回	1/16(土) 6:00pm 1/17(日) 2:00pm	ルイージ&N響が満を持して挑む マラー最高峰の交響曲 マラー／交響曲 第9番 二長調 指揮:ファビオ・ルイージ	
	B			2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムは サントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。 2026-27シーズンのBプログラムは9月、11月、12月の全3回です。 同シーズン同プログラムの定期会員のみなさまは 2027-28シーズン(2027年9月~2028年6月、全9回予定)にご継続いただけます。	
	C	第2081回	1/22(金) 7:00pm 1/23(土) 2:00pm	「デンマークのベートーヴェン」ニルセン最後のシンフォニー ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏1 ソレンセン／夕暮れの大地[日本初演] ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第1番 ハ長調 作品15 ニルセン／交響曲 第6番「シンフォニア・センブリーチェ」 指揮:ファビオ・ルイージ ピアノ:アレクサンドロ・タヴェルナ	
2027 02	A	第2082回	2/6(土) 6:00pm 2/7(日) 2:00pm	鬼オマナコルダとドイツ語圏音楽300年の成り行きを俯瞰する バッハ(ウェーベルン編)／「音楽のささげもの」BWV1079—6声のリチエルカール マラー／リッケルトによる5つの歌 シェーンベルク／室内交響曲 第2番 作品38 シューベルト／交響曲 第7番 口短調 D. 759「未完成」 指揮:アントネッロ・マナコルダ バリトン:アンドレ・シュエン	
	B			2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムは サントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。 2026-27シーズンのBプログラムは9月、11月、12月の全3回です。 同シーズン同プログラムの定期会員のみなさまは 2027-28シーズン(2027年9月~2028年6月、全9回予定)にご継続いただけます。	
	C	第2083回	2/12(金) 7:00pm 2/13(土) 2:00pm	子が光を当てる父とその盟友の名作 そして超新星ピアニスト降臨! ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏2 シューマン／歌劇「ゲノヴェーヴァ」序曲 ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品19 尾高尚忠／交響詩「蘆屋乙女」作品9 バヌフク／交響曲 第2番「悲歌」 指揮:尾高尚忠 ピアノ:イム・ユンチャン	



# 速報 2026-27定期公演プログラム (2026年9月～2027年6月)

2027 04	A	第2084回 4/10(土) 6:00pm 4/11(日) 2:00pm NHKホール	いざ、ルイーゼと行かん! アルプスという名の「人生」を歩む旅へ メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲 小短調 作品64 R. シュトラウス／アルプス交響曲 作品64 指揮:ファビオ・ルイーゼ ヴァイオリン:ジェームズ・エーネス
	B		2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムは サントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。 2026-27シーズンのBプログラムは9月、11月、12月の全3回です。 同シーズン同プログラムの定期会員のみなさまは 2027-28シーズン(2027年9月～2028年6月、全9回予定)にご継続いただけます。
	C	第2085回 4/23(金) 7:00pm 4/24(土) 2:00pm NHKホール	若きカリスマ エリム・チャンが放つ圧倒的な躍動感 ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏3 ドヴォルザーク／交響詩「真昼の魔女」作品108 ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第3番 ハ短調 作品37 チン・ウンスク／スピト・コン・フォルツァ ショスタコーヴィチ／交響曲 第9番 変ホ長調 作品70 指揮:エリム・チャン ピアノ:アリス・紗良・オット
2027 05	A	第2086回 5/8(土) 6:00pm 5/9(日) 2:00pm NHKホール	バーヴォのイチ押し! 北欧・珠玉の名品たち グリーグ／ピアノ協奏曲 イ短調 作品16 ステンハンマル／交響曲 第2番 ト短調 作品34 指揮:バーヴォ・ヤルヴィ ピアノ:デニス・コジュヒン
	B		2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムは サントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。 2026-27シーズンのBプログラムは9月、11月、12月の全3回です。 同シーズン同プログラムの定期会員のみなさまは 2027-28シーズン(2027年9月～2028年6月、全9回予定)にご継続いただけます。
	C	第2087回 5/21(金) 7:00pm 5/22(土) 2:00pm NHKホール	こだわりのプログラムを携え 名匠ケント・ナガノ N響を初指揮 ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏4 リュリ／バレエ音楽「町人貴族」(抜粋) ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第4番 ト長調 作品58 R. シュトラウス／組曲「町人貴族」作品60 指揮:ケント・ナガノ ピアノ:ティル・フェルナー
2027 06	A	第2088回 6/5(土) 6:00pm 6/6(日) 2:00pm NHKホール	ソヒエフ&N響の初ブルックナーは ワグナーに捧げられた意欲作 モーツァルト／交響曲 第35番 二長調 K. 385「ハフナー」 ブルックナー／交響曲 第3番 二短調「ワグナー」 指揮:トウガン・ソヒエフ
	B		2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムは サントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。 2026-27シーズンのBプログラムは9月、11月、12月の全3回です。 同シーズン同プログラムの定期会員のみなさまは 2027-28シーズン(2027年9月～2028年6月、全9回予定)にご継続いただけます。
	C	第2089回 6/18(金) 7:00pm 6/19(土) 2:00pm NHKホール	若き大物がN響と正面から取り組む 本格的独逸プログラム ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏5 ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73「皇帝」 R. シュトラウス／交響詩「英雄の生涯」作品40 指揮:トーマス・グッガイ ピアノ:キリル・ゲルシュタイン

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。  
※料金、発売日等チケットの詳細は2026年4月上旬に発表予定です。

## 速報 2026-27 特別公演(一部)

### 2026/10 創立100年記念 マーラー《交響曲第2番「復活」》 NHKホール

10/3(土) 6:00pm

マーラー／交響曲 第2番 ハ短調「復活」

10/4(日) 2:00pm

指揮:ファビオ・ルイージ

ソプラノ:イン・ファン

メゾ・ソプラノ:タマラ・マムフォード

合唱:新国立劇場合唱団

### 2026/10 巨匠たちによるブラームス交響曲全曲演奏 東京芸術劇場

10/30(金) 7:00pm

ブラームス／交響曲 第2番 二長調 作品73

ブラームス／交響曲 第4番 ホ短調 作品98

指揮:ヘルベルト・フロムシュテット

10/31(土) 4:00pm

ブラームス／交響曲 第3番 ヘ長調 作品90

ブラームス／交響曲 第1番 ハ短調 作品68

指揮:クリストフ・エッセンバッハ

## 速報 2026-27 特別公演(一部)

### 2027/01 ルイーゼ指揮 N響ニューイヤーコンサート NHKホール

1/10 日 3:00pm

1/11 月 祝 3:00pm

ワーグナー／歌劇「リエンチ」序曲

ワーグナー／楽劇「ワルキューレ」—ジークムントの愛の歌「冬の嵐は過ぎ去り」♦

ワーグナー／楽劇「ワルキューレ」—「きみこそは春」\*

ワーグナー／歌劇「ローエングリン」—聖杯の物語「はるかな国に」♦

ワーグナー／歌劇「タンホイザー」—「おごそかなこの広間よ」\*

ワーグナー／楽劇「トリスタンとイゾルデ」—「愛の夜よ、とばりを降ろせ」\*\*

J. シュトラウスII世／喜歌劇「こうもり」—序曲、チャールダーシュ「ふるさとの調べよ」\*

レハール／喜歌劇「ほほえみの国」—「きみはわが心のすべて」♦

レハール／喜歌劇「メリー・ウィドー」—「ヴィリアの歌」\*

カールマー／喜歌劇「伯爵夫人マリーツァ」—「ウィーンによろしく」♦

J. シュトラウスII世／皇帝円舞曲 作品437

レハール／喜歌劇「ほほえみの国」—「私たちの心に誰が愛を沈めたのか」\*\*

指揮: ファビオ・ルイーゼ

ソプラノ: カミラ・ニールンド\*

テノール: クラウス・フロリアン・フォークト♦

### 2027/02 初演300年記念 コープマンの《マタイ受難曲》 NHKホール

2/20 土 開演時刻未定

2/21 日 開演時刻未定

バッハ／マタイ受難曲 BWV 244

指揮: トン・コープマン

福音史家(テノール): テイルマン・リヒディ

イエス(バス・バリトン): クラウス・メルテンス

合唱: アムステルダム・バロック合唱団

児童合唱: 東京少年少女合唱隊

# 2027/04-06

東京芸術劇場シリーズ  
東京芸術劇場

木 7:00pm 金 7:00pm (各3回)

最高峰の指揮者のタクトで、バレエ音楽の名作や N響メンバーのソロを織り交ぜながらお贈りします。

※セット券(曜日ごとの通し券)の発売を予定しています。

4/15 木 7:00pm

4/16 金 7:00pm

フ란ツ・シュミット／歌劇「ノートルダム」―「間奏曲と謝肉祭の音楽」

ヒンデミット／バレエ組曲「気高い幻想」

R. シュトラウス／交響詩「ドン・キホーテ」作品35\*

指揮: ファビオ・リイージ

チェロ: 辻本 玲\*

5/13 木 7:00pm

5/14 金 7:00pm

ドビュッシー／牧神の午後への前奏曲

ランサン／ハープと管弦楽のための田園協奏曲

タイユフェール／小組曲

ラヴェル／バレエ組曲「ダフニスとクロエ」第1番、第2番

指揮: 沖澤のどか

ハープ: 早川りさこ

6/10 木 7:00pm

6/11 金 7:00pm

プロコフィエフ／古典交響曲 作品25

モーツァルト／4つの管楽器と管弦楽のための協奏交響曲 変ホ長調 K. 297b

ストラヴィンスキー／バレエ音楽「春の祭典」

指揮: トウガン・ソヒエフ

オーボエ: 中村周平

クラリネット: 松本健司

ファゴット: 宇賀神広宣

ホルン: 今井仁志

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

※各公演の料金、発売日等チケットの詳細は、決まり次第 N響ホームページ等でお知らせいたします。

# 特別支援・特別協力・賛助会員

## Corporate Membership

### 特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長   間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長   中島 篤
株式会社 みずほ銀行	頭取   加藤勝彦
公益財団法人 渋谷育英会	理事長   小丸成洋
東日本旅客鉄道株式会社	代表取締役社長   喜勢陽一
NTT東日本株式会社	代表取締役社長   澁谷直樹
東京海上ホールディングス株式会社	取締役社長 グループCEO   小池昌洋
株式会社ポケモン	代表取締役社長   石原恒和

### 特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長   長谷川正敏
全日本空輸株式会社	代表取締役社長   井上慎一
ヤマハ株式会社	代表執行役社長   山浦 敦
びあ株式会社	代表取締役社長   矢内 廣

### 賛助会員

・ 常陸宮	・ 有限責任 あずさ監査法人 理事長   山田裕行	・ (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役 会長執行役員   鈴木幸一
・ (株)アートレイ 代表取締役   小森活美	・ アットホーム(株) 代表取締役社長   鶴森康史	・ 内 聖美
・ (株)アイシン 取締役社長   吉田守孝	・ イーソリューションズ(株) 代表取締役社長   佐々木経世	・ 内山貴史
・ (株)アインホールディングス 代表取締役社長   大谷喜一	・ EY新日本有限責任監査法人 理事長   松村洋季	・ SMBC日興証券(株) 代表取締役社長   吉岡秀二
・ 葵設備工事(株) 代表取締役社長   安藤正明	・ (株)井口一世 代表取締役   井口一世	・ (株)NHKアート 代表取締役社長   石原 勉
・ (株)あ佳音 代表取締役社長   遠山信之	・ 池上通信機(株) 代表取締役社長   清森洋祐	・ NHK営業サービス(株) 代表取締役社長   手島一宏
・ AXLBIT(株) 代表取締役   長谷川章博	・ (-財)ITOH 代表理事   伊東忠俊	・ (株)NHK エデュケーショナル 代表取締役社長   有吉伸人
・ アサヒグループホールディングス(株) 代表執行役社長 Group CEO   勝木敦志	・ 井村屋グループ(株) 取締役社長   大西安樹	・ (株)NHK エンタープライズ 代表取締役社長   有吉伸人
・ (株)朝日工業社 代表取締役社長   高須康有	・ (有)IL VIOLINO MAGICO 代表取締役   山下智之	・ (学)NHK学園 理事長   荒木美弥子
・ 朝日信用金庫 理事長   伊藤康博	・ 岩田地崎建設(株) 代表取締役社長   岩田圭剛	・ (株)NHK グローバルメディアサービス 代表取締役社長   神田真介

- ・(株)NHK出版  
代表取締役社長 | 江口貴之
- ・(株)NHKテクノロジーズ  
代表取締役社長 | 山口太一
- ・(株)NHKビジネスクリエイト  
代表取締役社長 | 梶 健一郎
- ・(株)NHKプロモーション  
代表取締役社長 | 見郎俊一
- ・(株)NTTドコモ  
代表取締役社長 | 前田義晃
- ・(株)NTTファシリティーズ  
代表取締役社長 | 川口 晋
- ・ENEOS ホールディングス(株)  
代表取締役 社長執行役員 | 宮田知秀
- ・荏原冷熱システム(株)  
代表取締役 | 加藤恭一
- ・MN インターファッション(株)  
代表取締役社長 | 吉本一心
- ・(株)エントク  
代表取締役 | 間部恵造
- ・大崎電気工業(株)  
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・(株)大塚商会  
代表取締役社長 | 大塚裕司
- ・大塚ホールディングス(株)  
代表取締役社長兼CEO | 井上 眞
- ・(株)大林組  
代表取締役社長 | 佐藤俊美
- ・オールニッポンヘリコプター(株)  
代表取締役社長 | 寺田 博
- ・岡崎悦子
- ・岡崎耕治
- ・小田急電鉄(株)  
取締役社長 | 鈴木 滋
- ・陰山建設(株)  
代表取締役 | 陰山正弘
- ・鹿島建設(株)  
代表取締役社長 | 天野裕正
- ・(株)加藤電気工業所  
代表取締役 | 加藤浩章
- ・(株)金子製作所  
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチュア・エンタテインメント グループ(株)  
代表取締役 社長執行役員 | 中西一雄
- ・(株)関電工  
取締役社長 | 田母神博文
- ・(株)かんぽ生命保険  
取締役兼代表執行役社長 | 谷垣邦夫
- ・キッコーマン(株)  
代表取締役社長CEO | 中野祥三郎
- ・木下彰子
- ・(株)教育芸術社  
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス  
代表取締役 | 半沢治久
- ・(株)共同通信会館  
代表取締役専務 | 小濶敏郎
- ・(一社)共同通信社  
社長 | 沢井俊光
- ・キリンホールディングス(株)  
代表取締役会長CEO | 磯崎功典
- ・(学)国立音楽大学  
理事長 | 重盛次正
- ・京王電鉄(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
都村智史
- ・京成電鉄(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
天野貴夫
- ・KDDI(株)  
代表取締役社長CEO | 松田浩路
- ・(関)社団 恒仁会  
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)構造計画研究所ホールディングス  
代表執行役 | 服部正太
- ・(株)コーポレートディレクション  
代表取締役 | 小川達大
- ・コグニティブリサーチラボ(株)  
代表取締役 | 苦米地英人
- ・(関)財団 湖聖会  
理事長 | 湖山泰成
- ・小林弘侑
- ・佐川印刷(株)  
代表取締役会長 | 木下寧久
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)  
代表取締役 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ  
代表取締役 | 富田佳佑
- ・サントリーホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 鳥井信宏
- ・(株)ジェイ・ウィル・コーポレーション  
代表取締役社長 | 佐藤雅典
- ・JCOM(株)  
代表取締役社長 | 岩木陽一
- ・(株)シグマクシス・ホールディングス  
代表取締役社長 | 太田 寛
- ・(株)ジャパン・アーツ  
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)集英社  
代表取締役社長 | 林 秀明
- ・(株)小学館  
代表取締役社長 | 相賀信宏
- ・(株)商工組合中央金庫  
代表取締役社長 | 関根正裕
- ・庄司勇次朗・恵子
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ  
代表取締役 | 白川亜弥
- ・(有)新赤坂健康管理協会  
代表取締役社長 | 小池 学
- ・信越化学工業(株)  
代表取締役社長 | 斉藤恭彦
- ・新角卓也
- ・新菱冷熱工業(株)  
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・(株)スカパーJSAT ホールディングス  
代表取締役社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原  
代表取締役会長 | 古江訓雄
- ・鈴木誠一郎
- ・(株)スターファイアー  
代表取締役 | 加藤智也
- ・住友商事(株)  
代表取締役 社長執行役員 CEO  
上野真吾
- ・住友電気工業(株)  
社長 | 井上 治
- ・セイコーグループ(株)  
代表取締役会長兼グループCEO  
兼グループCCO | 服部真二
- ・聖徳大学  
理事長・学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)  
代表取締役社長 | 小川周一郎
- ・清和綜合建物(株)  
代表取締役社長 | 大串桂一郎
- ・関彰商事(株)  
代表取締役社長 | 関 正夫
- ・(株)セノ  
代表取締役社長 | 澤本 泉
- ・(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント  
代表取締役社長グループCEO | 村松俊亮



- ・損害保険ジャパン(株)  
取締役社長 | 石川耕治
- ・第一三共(株)  
代表取締役会長 | 眞鍋 淳
- ・第一生命保険(株)  
代表取締役社長 | 隅野俊亮
- ・大成建設(株)  
代表取締役社長 | 相川善郎
- ・大日コーポレーション(株)  
代表取締役社長兼グループCEO  
鈴木忠明
- ・高砂熱学工業(株)  
代表取締役社長 | 小島和人
- ・(株)ダク  
代表取締役 | 福田浩二
- ・(株)竹中工務店  
取締役執行役員社長 | 佐々木正人
- ・(株)竹中土木  
取締役社長 | 竹中祥悟
- ・田中貴金属工業(株)  
代表取締役社長執行役員  
田中浩一朗
- ・田原 昇
- ・(株)ダブルスタンダード  
代表取締役 | 清水康裕
- ・チャンネル銀河(株)  
代表取締役社長 | 前田鎮男
- ・中央日本土地建物グループ(株)  
代表取締役社長 | 三宅 潔
- ・中外製薬(株)  
代表取締役社長 | 奥田 修
- ・(株)電通  
代表取締役 社長執行役員 | 佐野 傑
- ・(株)テンポブリモ  
代表取締役 | 中村聡武
- ・東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)  
代表取締役会長 | 石田建昭
- ・東海旅客鉄道(株)  
代表取締役社長 | 丹羽俊介
- ・東急(株)  
取締役社長 社長執行役員 | 堀江正博
- ・(株)東急コミュニティー  
代表取締役社長 | 木村昌平
- ・(株)東急文化村  
代表取締役 | 嶋田 創
- ・(株)東京交通会館  
取締役社長 | 細包憲志
- ・東信地所(株)  
代表取締役 | 堀川利通
- ・東武鉄道(株)  
取締役社長 | 都筑 豊
- ・桐朋学園大学  
学長 | 辰巳明子
- ・(株)東北新社  
代表取締役社長 | 小坂恵一
- ・東北電力(株)  
代表取締役社長 | 石山一弘
- ・(有)外川ビル  
代表取締役 | 外川信晃
- ・鳥取末広座(株)  
代表取締役 | 西川八重子
- ・(-財)TOPPAN三幸会  
代表理事 | 金子眞吾
- ・トヨタ自動車(株)  
代表取締役社長 | 佐藤恒治
- ・内外施設工業グループホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 林 克昌
- ・中銀グループ  
代表 | 渡辺藏人
- ・日鉄興和不動産(株)  
代表取締役社長 | 三輪正浩
- ・日東紡績(株)  
取締役 代表執行役会長 | 辻 裕一
- ・(株)日本アーティスト  
代表取締役 | 幡野菜穂子
- ・(株)日本ヴァイオリン  
代表取締役 | 中澤創太
- ・日本ガイン(株)  
取締役社長 | 小林 茂
- ・(株)日本カストディ銀行  
代表取締役社長 | 土屋正裕
- ・(株)日本国際放送  
代表取締役社長 | 前田浩志
- ・(株)日本政策投資銀行  
代表取締役会長 | 太田 充
- ・日本たばこ産業(株)  
代表取締役社長 | 寺島正道
- ・日本運送(株)  
代表取締役社長 | 竹添進二郎
- ・日本通信(株)  
代表取締役社長兼CEO  
福田尚久
- ・日本電気(株)  
取締役 代表執行役社長兼CEO  
森田隆之
- ・日本BCP(株)  
代表取締役社長 | 角谷育則
- ・(-財)日本放送協会共済会  
理事長 | 竹添賢一
- ・日本みらいホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 安嶋 明
- ・日本郵政(株)  
取締役兼代表執行役社長 | 根岸一行
- ・(株)ニトリホールディングス  
代表取締役会長兼CEO | 似島昭雄
- ・(株)ニフコ  
代表取締役社長 | 柴尾雅春
- ・野田浩一
- ・野村ホールディングス(株)  
代表執行役社長 | 奥田健太郎
- ・パナソニック ホールディングス(株)  
代表取締役 社長執行役員 グループCEO  
楠見雄規
- ・原田清朗
- ・(株)原田武夫国際戦略情報研究所  
代表取締役 | 原田武夫
- ・(有)パルフェ  
代表取締役 | 伊藤良彦
- ・びあ(株)  
代表取締役社長 | 矢内 廣
- ・(株)ビー・ジー・エム  
代表取締役 | 山川慎一郎
- ・(株)フォトロン  
代表取締役 | 瀧水 隆
- ・福田三千男
- ・富士通(株)  
代表取締役社長 | 時田隆仁
- ・古川宣一
- ・ペプチドリーム(株)  
代表取締役社長CEO | リード・バトリック
- ・(株)朋栄ホールディングス  
代表取締役 | 清原克明
- ・(株)放送衛星システム  
代表取締役社長 | 角 英夫
- ・(公)放送文化基金  
理事長 | 濱田純一
- ・ホクト(株)  
代表取締役 | 水野雅義
- ・ボラリス・キャピタル・グループ(株)  
代表取締役社長 | 木村雄治
- ・前田工織(株)  
代表取締役社長 | 前田尚宏

- ・牧 寛之
  - ・町田優子
  - ・松本満里子
  - ・丸紅(株)  
代表取締役社長 | 大本晶之
  - ・溝江建設(株)  
代表取締役 | 溝江 弘
  - ・三井住友海上火災保険(株)  
代表取締役 | 船曳真一郎
  - ・(株)三井住友銀行  
頭取 | 福留朗裕
  - ・三井住友信託銀行(株)  
取締役社長 | 大山一也
  - ・三井住友トラストクラブ(株)  
代表取締役社長 | 五十嵐幸司
  - ・三菱商事(株)  
代表取締役社長 | 中西勝也
  - ・(株)緑山スタジオ・シティ  
代表取締役社長 | 近藤明人
  - ・三橋産業(株)  
代表取締役会長 | 三橋洋之
  - ・三橋洋之
  - ・三原穂積
  - ・(株)ミロク情報サービス  
代表取締役社長 | 是枝周樹
  - ・(学)武蔵野音楽学園 武蔵野音楽大学  
理事長 | 福井直昭
  - ・明治ホールディングス(株)  
代表取締役社長CEO | 松田克也
  - ・(株)明電舎  
代表取締役 執行役員社長 | 井上晃夫
  - ・メットライフ生命保険(株)  
代表執行役 会長 社長 最高経営責任者  
ディルク・オステイン
  - ・(株)目の眼  
社主 | 櫻井 恵
  - ・(株)森エンジニアリング  
代表取締役 | 森 豊洋
  - ・森ビル(株)  
代表取締役社長 | 辻 慎吾
  - ・森平舞台機構(株)  
代表取締役 | 森 健輔
  - ・山田産業(株)  
代表取締役 | 山田裕幸
  - ・(株)ヤマハミュージックジャパン  
代表取締役社長 | 松岡祐治
  - ・ユニオンツール(株)  
代表取締役会長 | 片山貴雄
  - ・米澤文彦
  - ・(株)読売広告社  
代表取締役社長 | 菊地英之
  - ・(株)読売旅行  
代表取締役社長 | 岩上秀憲
  - ・リコージャパン(株)  
代表取締役 社長執行役員 CEO | 笠井 徹
  - ・料亭 三長  
代表 | 高橋千善
  - ・(株)リブレ  
代表取締役社長 | 鈴木信也
  - ・(有)ルナ・エンタープライズ  
代表取締役 | 白鳥正美
  - ・ローム(株)  
代表取締役社長 社長執行役員 | 東 克己
  - ・YKアクロス(株)  
代表取締役社長 | 田渕浩記
  - ・YCC(株)  
代表取締役社長 | 中山武之
  - ・(株)ワールド航空サービス  
代表取締役社長 | 菊間陽介
- (五十音順、敬称略)

## NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

### 「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいたしており、当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：『フィルハーモニー』、『年間パンフレット』、『第9』演奏会プログラム等にご芳名を記載させていただきます。  
N響主催公演のご鑑賞や会場リハーサル見学の機会を設けます。

### 遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図るために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL：03-5793-8120

## 「N響100年」特別賛助会員

株式会社アイシン

株式会社あ佳音

朝日信用金庫

イーソリューションズ株式会社

岩谷産業株式会社

内 聖美

株式会社NHKテクノロジーズ

NTT東日本株式会社

カルチュア・エンタテインメントグループ株式会社

医療法人社団 恒仁会

小林 弘侑

佐藤 弘康

株式会社ジェイ・ウィル・コーポレーション

JCOM株式会社

信越化学工業株式会社

新菱冷熱工業株式会社

株式会社菅原

株式会社セノン

全日本空輸株式会社

東信地所株式会社

桐朋学園大学

一般財団法人TOPPAN三幸会

日東紡績株式会社

日本ガイシ株式会社

日本通信株式会社

日本みらいホールディングス株式会社

東日本旅客鉄道株式会社

古川 宣一

株式会社朋栄ホールディングス

ホクト株式会社

株式会社みずほ銀行

三菱地所株式会社

三橋産業株式会社

三橋 洋之

株式会社目の眼

米澤 文彦

株式会社読売旅行

料亭 三長

株式会社リンレイ

有限会社ルナ・エンタープライズ

YCC株式会社

(五十音順、敬称略)

## 「N響100年」個人サポーター

青木 恒雄  
東 則仁  
阿部 直子  
阿部 直子  
飯田 陽介  
井口 一世  
池田 太朗  
石井 育子  
石崎 隆  
磯上 樹  
板倉 由美子  
市橋 敏行  
出石 直  
稲吉 務  
今泉 美輪  
歌川 博之  
内山 その  
内山 貴史  
榎本 悠介  
大川 啓太  
大木 千秋  
大谷 淳  
大谷 明  
大矢 菜穂子  
岡井 良祐  
岡本 誠  
小川 芳幸  
尾澤 勉  
尾島 大樹

影井 良貴  
加藤 充子  
門脇 昌子  
鎌谷 朝之  
神谷 久覚  
唐木田 信也  
刈谷 敦子  
川北 晃彦  
川崎 昭久  
川名 庸一  
川鍋 義章  
川原 真理子  
川村 哲也  
簡 妙芬  
冠 和宏  
岸 道郎  
北見 欣一  
亀徳 忠正  
貴布根 弘篤  
木村 達央  
木村 素子  
清谷 直樹  
蔵並 慧  
黒木 憲太郎  
黒田 真二  
河野 太  
古賀 信行  
湖口 和幸  
小島 美智恵

児矢野 昌敬  
小山 豊  
今野 恵一郎  
坂井 康柄  
阪本 信次  
櫻澤 仁  
佐宗 孝樹  
佐藤 圭子  
佐藤 治彦  
三戸 淳一  
柴田 理佳子  
白取 洋  
新保 和浩  
鈴木 忠明  
鈴木 宏治  
曾我 健  
大門 匡  
高木 功介  
高田 康裕  
高橋 正好  
高原 俊二  
田島 大輔  
立石 知宏  
田中 治郎  
田中 伸幸  
田中 正彦  
張 嘉淵  
津久井 秀郎  
津々木 孝

恒川 雄三  
時岡 明弘  
轟 晴美  
富永 純子  
富永 龍太郎  
長尾 公彦  
中川 幸子  
中村 秀哉  
中村 幸雄  
根本 昌代  
根本 佳則  
野島 浩司  
野田 広  
野武 一郎  
野中 明人  
配島 一善  
林 尚美  
原田 清朗  
疋田 和代  
檜山 隆  
福井 真哉  
福本 出  
藤沼 竜也  
藤森 博昭  
船井 勝仁  
古川 澄兄  
真木 太郎  
牧 廣美  
町田 優子

松澤 和男  
松信 正志  
三井田 健  
水上 慶太  
三橋 祐太  
三村 啓  
宮崎 宏史  
村井 暁子  
村井 正浩  
村上 純子  
本 敬之  
森山 雅一郎  
柳原 隆司  
薮下 真平  
山口 剛史  
山崎 雅彦  
山下 史雄  
山本 英一  
横尾 順  
四元 俊英  
渡邊 貴子  
渡邊 健  
渡辺 徹郎

(五十音順、敬称略)

# 曲目解説執筆者

片山杜秀(かたやま もりひで)

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。水戸芸術館館長。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファシズム』『見果てぬ日本』『尊皇攘夷』『大衆必易』ほか著書多数。

小宮正安(こみや まさやす)

横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院・都市科学部教授。専門はヨーロッパ文化史、ドイツ文学。著書に『モーツァルトが駆け抜けた時代』『ベートーヴェン《第九》の世界』『エリザベートと黄昏のハプスブルク帝国』、

訳書に『ウィーン・フィル コンサートマスターの楽屋から』『チャールズ・バーニー音楽見聞録(ドイツ篇)』など。

船木篤也(ふなき あつや)

音楽評論家。おもな関心対象は19世紀のドイツ。東京藝術大学ほかでドイツ語講師も務める。NHK-FMで音楽番組の解説を担当するほか、雑誌やWEBでも執筆。著書に『三月一日のシューベルト——音楽批評の試み』、共著に『魅惑のオペラ ニーベルングの指環』、共訳書に『アドルノ 音楽・メディア論集』など。

(五十音順、敬称略)

## Information

### 訃報

当団元トランペット奏者(1961年1月入団)で団友の北村源三(きたむら げんぞう)氏が、2025年12月30日に逝去されました。享年88。ここに謹んで哀悼の意を表します。

## N響の出演番組

定期公演や特別公演の様様が放送されるほか、大河ドラマのテーマ音楽や「名曲アルバム」の演奏なども行っています。NHKの番組を通じてN響の演奏をお楽しみください。

### クラシック音楽館(N響定期公演ほか)

**Eテレ** 日曜9:00~11:00pm

### ベストオブクラシック

**FM** 7:35~9:15pm

※2025年度から放送時間に変更になりました。

### N響演奏会

**FM** 土曜4:00~5:50pm(不定期)

### クラシックTV(クラシック全般の話題を取り上げます)

**Eテレ** 木曜9:00~9:30pm

月曜2:00~2:30pm(再放送)

これらの番組は放送終了後もNHK ONE(新NHKプラス)や「らじる★らじる」で1週間何度でもご視聴いただけます。出演番組について、詳しくはNHKやN響のホームページをご覧ください。

# みなさまの声をお聞かせください！

## インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。  
ご協力をお願いいたします。

### アクセス方法

STEP

1



スマートフォンで右の  
QRコードを読み取る。  
またはURLを入力  
[https://www.nhkso.or.jp/  
enquete.html](https://www.nhkso.or.jp/enquete.html)



STEP

2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP

3



アンケートに答えて(約5分)、  
「送信」を押して完了！

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。

定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

### 個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。



# NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Fabio Luisi  
Music Director Emeritus: Charles Dutoit  
Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt  
Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy  
Honorary Conductor: Paavo Järvi  
Permanent Conductors: Tadaaki Otaka, Tatsuya Shimono

First Concertmaster: Sunao Goko, Kota Nagahara  
Guest Concertmaster: Yosuke Kawasaki

<b>1st Violins</b>  Shirabe Aoki Ayumu Iizuka ○ Kyoko Une Yuki Oshika ○ Ryota Kuratomi Ko Goto Tamaki Kobayashi Toshihiro Takai Taiga Tojo Yuki Naoi Yumiko Nakamura Takao Furihata Hiroyuki Matsuda ○ Haruhiko Mimata Nana Miyagawa ○ Tsutomu Yamagishi ○ Koichi Yokomizo	<b>Violas</b>  ◎ Ryo Sasaki ◎ Junichiro Murakami ☆ Shotaro Nakamura Satoshi Ono Shigetaka Obata * Eri Kuribayashi □ Gentaro Sakaguchi Mayumi Taniguchi Hiroto Tobisawa ○ Hironori Nakamura Naoyuki Matsui Rachel Yui Mikuni # Yuya Minorikawa ○ Ryo Muramatsu	<b>Flutes</b>  ◎ Masayuki Kai ◎ Hiroaki Kanda Maho Kajikawa # Junji Nakamura	Eiji Yamamoto
<b>2nd Violins</b>  ◎ Rintaro Omiya ◎ Masahiro Morita Maiko Saito ○ Keiko Shimada ○ Atsushi Shirai ○ Akiko Tanaka Kirara Tsuboi Yosuke Niwa Kazuhiko Hirano Yoko Funaki Kenji Matano Ryuto Murao Masaya Yazu Yoshikazu Yamada ○ Masamichi Yokoshima Yuka Yoneda  * Reika Shimizu * Yui Yuhara	<b>Cellos</b>  ◎ Rei Tsujimoto ◎ Ryoichi Fujimori Hiroya Ichi Yukinori Kobatake ○ Miho Naka ○ Ken'ichi Nishiyama Shunsuke Fujimura Koichi Fujimori Hiroshi Miyasaka Yuki Murai Yusuke Yabe ○ Shunsuke Yamanouchi Masako Watanabe	<b>Oboes</b>  ◎ Yumi Yoshimura Shoko Ikeda Izumi Tsuboike * Shuhei Nakamura Hitoshi Wakui	<b>Trombones</b>  ◎ Hikaru Koga ◎ Mikio Nitta Ko Ikegami Hiroyuki Kurogane
	<b>Contrabasses</b>  ◎ Shu Yoshida ○ Masanori Ichikawa Eiji Inagawa ○ Jun Okamoto Takashi Konno ○ Shinji Nishiyama Tatsuro Honma Yoko Yanai	<b>Clarinets</b>  ◎ Kei Ito ◎ Kenji Matsumoto * Hiroki Domen Takashi Yamane	<b>Tuba</b>  Yukihiro Ikeda
		<b>Bassoons</b>  ◎ Hironori Ugajin ◎ Kazusa Mizutani Shusuke Ouchi Yuki Sato Itaru Morita	<b>Timpani</b>  ◎ Shoichi Kubo ☆ Toru Uematsu
		<b>Horns</b>  ◎ Hitoshi Imai Naoki Ishiyama Yasushi Katsumata Hiroshi Kigawa Yudai Shoji Kazuko Nomiyama	<b>Percussion</b>  Tatsuya Ishikawa Hidemi Kuroda Satoshi Takeshima
		<b>Trumpets</b>  ◎ Kazuaki Kikumoto ◎ Tomoyuki Hasegawa Tomoki Ando Kotaro Fujii	<b>Harp</b>  Risako Hayakawa
			<b>Stage Manager</b>  Masaya Tokunaga
			<b>Librarians</b>  Akane Oki Hideoy Kimura

(◎ Principal, ☆ Acting Principal, ○ Vice Principal, □ Acting Vice Principal, # Inspector, \* Intern)

## PROGRAM

A

Concert No.2057

NHK Hall

February

7(Sat) 6:00pm

8(Sun) 2:00pm

conductor

Philippe Jordan

soprano

Tamara Wilson★

concertmaster

Kota Nagahara

**Robert Schumann**  
**Symphony No. 3 E-flat Major**  
**Op. 97, *Rheinische (Rhenish)* [32']**

- I Lebhaft
- II Scherzo: Sehr mässig
- III Nicht schnell
- IV Feierlich
- V Lebhaft

— intermission (20 minutes) —

**Richard Wagner**  
***Götterdämmerung*, opera—**  
***Siegfrieds Rheinfahrt*,**  
***Siegfrieds Trauermarsch*,**  
***Brünnhildes Schlussgesang*:**  
***Starke Scheite schichtet mir dort\****  
**(*Twilight of the Gods—Siegfried's Rhine***  
***Journey, Siegfried's Funeral March*,**  
***Brünnhilde's Immolation*) [36']**

- All performance durations are approximate.

## Artist Profiles

## Philippe Jordan, conductor



Hailing from an artistic Swiss family, Philippe Jordan is regarded as one of the most distinguished and important conductors of his generation, with an international career spanning the world's foremost opera houses, festivals, and symphony orchestras.

He was Music Director of the Wiener Staatsoper from September 2020 until June 2025, leading numerous outstanding new productions including Wagner's works and an entirely new Da Ponte cycle by Mozart. In his final season, he conducted Wagner's *Der Ring des Nibelungen* and in October 2025 he led the opera house's Japanese tour with R. Strauss's *Der Rosenkavalier*. From 2009 to 2021, he was Music Director of the Opéra national de Paris where he conducted a concert version of *Der Ring des Nibelungen* and numerous major productions.

As a concert conductor, he has collaborated with the world's most prestigious

A

7 &amp; 8, FEB. 2026

orchestras including the Berliner and Wiener Philharmoniker, Royal Concertgebouw Orchestra and the Chicago Symphony Orchestra. At the beginning of the 2027/28 season, he will assume the position of Music Director of L'Orchestre National de France.

He was, early in his career, Kapellmeister and assistant to Daniel Barenboim at the Staatsoper Berlin, before he became the Staatsoper Berlin's Principal Guest Conductor and the Wiener Symphoniker's Chief Conductor, and debuted at the Metropolitan Opera, Royal Opera House, Covent Garden, Teatro alla Scala, the festivals in Aix-en-Provence, Glyndebourne and Salzburg, to name a few.

He made his debut at the Bayreuter Festspiele in 2012 with *Parsifal* and returned in 2017 with a new production of *Die Meistersinger von Nürnberg*, which he conducted in subsequent seasons as well. The program for his NHK Symphony Orchestra debut consists of selections from Wagner's opera *Götterdämmerung* (*Twilight of the Gods*) combined with Schumann's Symphony No. 3 *Rhenish*.

---

## Tamara Wilson, soprano



©Claire McDermott

Grammy Award winning soprano Tamara Wilson continues to garner international recognition for her interpretations of Verdi, Mozart, R. Strauss and Wagner and is the recipient of the prestigious Richard Tucker Award.

The 2025/26 season highlights include a debut with Festival d'Aix-en-Provence in R. Strauss's *Die Frau ohne Schatten*, a return to the Opéra national de Paris for new productions of Wagner's *Die Walküre* and *Siegfried* (as Brünnhilde) under the baton of Pablo Heras-Casado, appearances with the Houston Symphony (*Tristan und Isolde*) and The Cleveland Orchestra (*War Requiem*).

She regularly sings at the world's leading opera houses including The Metropolitan Opera, Teatro alla Scala, Bayerische Staatsoper, Oper Frankfurt, Deutsche Oper Berlin, Opernhaus Zürich, Washington National Opera and the English National Opera. She has enjoyed collaboration with the world's foremost orchestras such as the Chicago Symphony Orchestra, New York Philharmonic, Royal Concertgebouw Orchestra, Swedish Radio Symphony Orchestra among others, under the batons of renowned conductors including Seiji Ozawa, James Conlon, Gustavo Dudamel, Yannick Nézet-Séguin, Leonard Slatkin and Franz Welser-Möst to name a few.

This is her first collaboration with the NHK Symphony Orchestra since 2010 when she served as a soloist for their end-of-the-year concerts of Beethoven's *Choral* Symphony No. 9.

Robert Schumann (1810–1856)

## Symphony No. 3 E-flat Major Op. 97, *Rheinische* (Rhenish)

Flowing through several European countries including Germany, the Rhine River has fascinated countless poets and artists for centuries. For them, its natural beauty, historical and cultural richness, and diverse legends and tales such as the Siren of Lorelei have been an endless source of inspiration. In music, among the best-known examples are Schumann's Symphony No. 3 *Rheinische* (Rhenish) and Wagner's after-mentioned *Der Ring des Nibelungen* (*The Ring of the Nibelung*), an epic cycle of music dramas around the all-powerful ring made of the Rhine's magical gold.

Schumann composed the Symphony No. 3 with astonishing speed in late 1850, soon after settling in Düsseldorf. Immediately on his arrival at this German city along the Rhine, he received an enthusiastic welcome as the new music director in charge of the municipal orchestra and choir. This bright moment brought some mental stability to Schumann, who chronically suffered severe and sometimes life-threatening depression throughout his adult life. Eventually, he would jump into the wintry Rhine in February 1854, prior to his two-year confinement in a sanitarium and subsequent passing at age 46.

Although the nickname “Rheinische (Rhenish)” was not given by Schumann himself, this hope-filled symphony is closely linked to his new life by the river. It is said that the composer's creativity was greatly urged by his daily riverside promenade and two travels along the Rhine to Cologne in September and November 1850.

The Symphony No. 3 is in five movements. The opening movement “Lebhaft (lively)” in sonata form immediately introduces the first theme flowing like water with syncopations (displacement of accents). The heroic character of the music evokes Beethoven's Symphony *Eroica* (Heroic), also No. 3 and in E-flat major. Incidentally, this key will open Wagner's *Das Rheingold* (*The Rhinegold*), the first of *The Ring*, as well.

Schumann's fourth movement “Feierlich (solemn),” opened by a trombone and horn chorale-like melody, invites us to the majestic Cologne Cathedral that he was deeply impressed with while travelling. More concretely, this movement “in the character of a procession for a solemn ceremony” (his own words) is thought to refer to the news he heard of about the 1850 ceremony of the Archbishop of Cologne being created cardinal. The euphoric fifth and final movement, again in E-flat major, features a bucolic danceable mood boosted by festive brass fanfares.

A

7 &amp; 8, FEB. 2026

## **Götterdämmerung, opera—Siegfrieds Rheinfahrt, Siegfrieds Trauermarsch, Brünnhildes Schlussgesang: Starke Scheite schichtet mir dort**

**(Twilight of the Gods—Siegfried's Rhine Journey, Siegfried's Funeral March, Brünnhilde's Immolation)**

A Based on German and Scandinavian legends, *Der Ring des Nibelungen* (*The Ring of the Nibelung*) consists of four music dramas: *Das Rheingold* (*The Rhinegold*), *Die Walküre* (*The Valkyrie*), *Siegfried* and *Götterdämmerung* (*Twilight of the Gods*). They take approximately fifteen hours to perform in total. Wagner wrote both the libretto and music of this monumental cycle where the drama and the music are indissolubly united on an unprecedented level, especially by the scrupulous use of the numerous leitmotifs (recurrent melodic or/and harmonic elements representing certain characters, feelings, things or so).

The intricate plot features gods and mortals battling for the above-mentioned cursed magical ring to have the power to rule the world. It is also a dramatic tale of a dysfunctional family starting from Wotan (king of the gods) and his wife Fricka (goddess of marriage). Wotan's grandson, Siegfried is a fearless hero who is mortal because of his human grandmother whom Wotan committed adultery with. Brünnhilde is Wotan's immortal daughter and one of the Valkyries (warrior maidens). She is deprived of immortality for disobeying her father who puts her into a long sleep fenced around with the magic fire that only a true hero would not fear. Young Siegfried becomes the owner of the ring by slaying a dragon, and goes to wake his aunt Brünnhilde up. Immediately, they fall in love with each other.

Concluding the cycle, *Götterdämmerung* (*Twilight of the Gods*) embodies a culmination of Wagner's artistic career. The Prologue is set on a rocky mountaintop where Siegfried gives Brünnhilde the ring as a pledge of fidelity. He then leaves alone for the Rhine to do more deeds: *Siegfrieds Rheinfahrt* (*Siegfried's Rhine Journey*) is an orchestral interlude with spirited horn calls representing his braveness. On the river bank, a potion is used on Siegfried, who loses his memory of Brünnhilde. This is a trap by Hagen (son of an evil Nibelung dwarf) wanting the ring, and he subsequently stabs Siegfried to death in the back, his only weak spot. The orchestral interlude *Siegfrieds Trauermarsch* (*Siegfried's Funeral March*) entwines different leitmotifs including "death" with two hammer-like repeated chords. *Brünnhildes Schlussgesang* (*Brünnhilde's Immolation*) lets the heroine start to sing "Pile mighty logs high on the riverside!" She burns herself on her beloved man's funeral pyre, returning the ring to the Rhinemaidens, the guardians of the Rhinegold. The river overflows, drowning Hagen. This curtain-fall-music is ended peacefully by the "redemption-through-love" leitmotif on strings suggesting Brünnhilde's self-sacrifice broke the curse of the ring.

Kumiko Nishi

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

PROGRAM	
B	Concert No.2059
	Suntory Hall
	February
	19(Thu) 7:00pm 20(Fri) 7:00pm
conductor	Jakub Hrůša
violin	Josef Špaček
concertmaster	Sunao Goko

## Antonín Dvořák Violin Concerto A Minor Op. 53

[32']

- I Allegro, ma non troppo
- II Adagio, ma non troppo
- III Finale: Allegro giocoso, ma non troppo

— intermission (20 minutes) —

## Johannes Brahms Serenade No. 1 D Major Op. 11[45']

- I Allegro molto
- II Scherzo: Allegro non troppo
- III Adagio non troppo
- IV Menuetto I — Menuetto II
- V Scherzo: Allegro
- VI Rondo: Allegro

- All performance durations are approximate.

## Artist Profiles

### Jakub Hrůša, conductor



Born in the Czech Republic, Jakub Hrůša is Chief Conductor of the Bamberger Symphoniker and Music Director of The Royal Opera, and will be Chief Conductor and Music Director of the Czech Philharmonic (from 2028).

He performs regularly with the world's greatest orchestras including the Wiener and Berliner Philharmoniker, Gewandhausorchester Leipzig, Staatskapelle Dresden, Lucerne Festival Orchestra, Royal Concertgebouw Orchestra, Orchestre de Paris, Boston Symphony Orchestra, The Cleveland Orchestra and the New York Philharmonic. He has led opera productions for the Salzburger Festspiele (*Kát'a Kabanová* with the Wiener Philharmoniker), Wiener Staatsoper (*The Makropulos Case*), Opéra national de Paris (*Rusalka*) and Opernhaus Zürich (*The Makropulos Case*), among others.

He was a double winner at the 2024 Gramophone Awards for his recordings of Britten's Violin Concerto with Isabelle Faust and Symphonieorchester des Bayerischen Rundfunks,

B  
19 & 20. FEB. 2026



and *Kát'a Kabanová* with the Wiener Philharmoniker. He was awarded the Preis der deutschen Schallplattenkritik for his recording of Mahler's Symphony No. 4, and his album of Martinů and Bartók violin concertos with Frank Peter Zimmermann was nominated for BBC Music Magazine and Gramophone Awards. His disc of Dvořák's Violin Concerto with the Symphonieorchester des Bayerischen Rundfunks and Augustin Hadelich was nominated for a Grammy Award.

He was the inaugural recipient of the Sir Charles Mackerras Prize, and has been awarded the Czech Academy of Classical Music's Antonín Dvořák Prize and other prestigious prizes.

He made his NHK Symphony Orchestra debut in 2019 conducting works by Janáček, Berlioz and R. Strauss. Most recently, he and the orchestra collaborated in 2023 for the two programs respectively around Brahms's Symphony No. 4 and Rakhmaninov's Symphonic Dances. This time, he will co-star with his compatriot Josef Špaček for Dvořák's Violin Concerto, whilst presenting us a great opportunity to hear Brahms's rarely-performed Serenade No. 1 live.

---

## Josef Špaček, violin



Praised for his remarkable range of colours, his confident and concentrated stage presence, his virtuosity and technical poise as well as the beauty of his tone, Czech artist Josef Špaček has emerged as one of the leading violinists of his generation.

Born in 1986 and currently based in Prague, he studied with Itzhak Perlman at The Juilliard School, Ida Kavafian and Jaime Laredo at the Curtis Institute of Music, and with Jaroslav Foltýn at the Prague Conservatory.

As a soloist, he has performed with the world's renowned orchestras including the Gewandhausorchester Leipzig, Bamberger Symphoniker, Deutsches Symphonie-Orchester Berlin, Rundfunk-Sinfonieorchester Berlin, Orchestre de Paris and the Chicago Symphony Orchestra, alongside eminent conductors such as Jakub Hrůša, Jiří Bělohlávek, Thomas Adès, Semyon Bychkov, Manfred Honeck, Eliahu Inbal and Michael Sanderling.

This is his NHK Symphony Orchestra debut with Dvořák's Violin Concerto. His album with the Czech Philharmonic including this piece was praised by The Sunday Times writing his "individual, deeply considered and virtuosic account of Dvořák's solo part is the highlight of this keenly conceived programme," adding that "in this repertoire, Špaček is second to none today."

He performs on the ca. 1732 "LeBrun; Bouthillard" Guarneri del Gesù violin.

**Antonín Dvořák (1841–1904)**

## Violin Concerto A Minor Op. 53

Dvořák was born in Bohemia (modern day Czech Republic), then ruled by the Austrian Empire. As a boy, he received violin and vocal lessons before performing in the village band and church. After studying music in Prague, he made a living as a viola player while composing. 1875 marked a turning point in his life: the obscure musician in his mid-thirties in need won the Austrian State Grant for talented artists for five consecutive years starting then. On top of that, Brahms who served a jury spotted Dvořák's originality. The former recommended his publisher issue works by this promising Czech man who, thanks to that, quickly earned fame throughout Europe with his printed *Slavonic Dances* (inspired by Brahms's *Hungarian Dances*).

The Violin Concerto dates from Dvořák's so-called Slavonic period when folkloric elements had a growing impact on his Austro-German-influenced compositions. He set to work on it in July 1879 for the Hungarian violinist Joseph Joachim (1831–1907), well-known today as Brahms's lifelong friend. The Czech composer's creativity was presumably ignited by Brahms's Violin Concerto that Joachim had successfully premiered in January 1879. Dvořák's concerto was not publicly heard until 1883 due to major and minor revisions he made following Joachim's advice. For unknown reasons, the violinist didn't give the first performance and likely never performed the work in public.

The Violin Concerto is cast in the classical three-movement structure, although its formal deviations from convention stand out. The first energetic movement in free sonata form skips the traditional orchestral exposition. It instead lets the soloist enter early in the opening few bars giving the first theme and then playing a brief cadenza-like passage. The recapitulation (an ending section where main themes are restated) and the soloist's customary cadenza (improvisatory solo towards the end) are practically absent. More unexpectedly, the first movement turns smoothly without pause to the songful slow middle movement. The finale, a rondo, is highly folkloric: the joyful main section is a stylized furiant (a rapid Bohemian dance with frequent accent shifts), while a contrasting slower episode evokes dumka (a piece of Slavic music, usually pensive or melancholic).

**Johannes Brahms (1833–1897)**

## Serenade No. 1 D Major Op. 11

“Neue Bahnen (New Paths)” was the title given by composer and critic Robert Schumann (1810–1856) in his October 1853 article to extol a Hamburg-born unknown named Johannes Brahms. It was the above-mentioned violinist and conductor Joseph Joachim who had introduced Brahms to Schumann the previous month. In this sensational text, Schumann foretold that if the twenty-year-old pianist-composer were to wave his magic wand so the power of the orchestra lends him its force, further wonderful glimpses into the

B

19 & 20, FEB. 2026

mysteries of the spirit world would be revealed.

Schumann's expectations started to be lived up to four years later—unfortunately, after his tragic death—when Brahms set to work on the Serenade No. 1 which was later to be his first work for orchestra. It was originally a chamber piece (for winds and strings) he wrote in Detmold where he served the court as conductor, pianist and music teacher every autumn from 1857 to 1859. Brahms first rewrote the piece for small orchestra, before the present version for full orchestra was premiered with Joachim conducting in Hanover in March 1860.

During the 18th century, a serenade was a suite of multiple, relatively light pieces for large instrumental ensemble. In general, it was written for the upper class to be performed outdoors on certain occasions or festivities, and Wolfgang Amadeus Mozart (1756–1791) is particularly known for having brought its form to perfection. Brahms's Serenade No. 1 is eloquent proof that he is a worthy successor to the First Viennese School trio Joseph Haydn (1732–1809), Mozart, and Ludwig van Beethoven (1770–1827). At the same time, Brahms blazed the trail of imaginative serenades as represented by Dvořák's two works (1875 and 1878) and Tchaikovsky's one (1880).

In accordance with the custom, the Serenade No. 1's opening and final movements are in march rhythm, which is a remnant of traditional serenades where the musicians entered and exited while performing. The lively first movement has a Haydnesque pastoral beginning with French horn and clarinet solos over droning string chords. The serious second movement in D minor is a scherzo out of character, having the waltz-like trio (central) section in B-flat major. A climax of the work, the extended third movement is a slow sonata in B-flat major where the dignified atmosphere with dotted rhythms is alternated with expansive songfulness. The fourth movement in ternary form (Menuetto I in G major—Menuetto II in G minor—Menuetto I in G major) has a light chamber scoring. During the fifth movement, a scherzo in D major, French horns stand out suggesting a hunting scene where this instrument had been originally used. The finale in D major is in rondo-sonata form. The propulsive first theme in dotted rhythms will drive this serenade to a vigorous conclusion.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 64

PROGRAM

C

Concert No.2058

NHK Hall

February

13(Fri) 7:00pm

14(Sat) 2:00pm

conductor

Gergely Madaras

trumpet

Kazuaki Kikumoto

concertmaster

Sunao Goko

NHKSO 100th Anniversary: Japanese Composers Series

Zoltán Kodály

Variations on a Hungarian Folksong

*The Peacock* [25']

Johann Nepomuk Hummel

Trumpet Concerto E Major [19']

I Allegro con spirito

II Andante

III Rondo

— intermission (20 minutes) —

Modest Mussorgsky /

Hidemaro Konoe

*Pictures at an Exhibition, suite* [35']

Promenade

I Gnome

Promenade

II The Old Castle

Promenade

III Tuileries: Children's Quarrel after Games

IV Cattle

Promenade

V Ballet of Unhatched Chicks

VI Samuel Goldenberg and Shmuyle

VII Limoges: The Market

VIII Catacombs: Roman Tomb

With the Dead in a Dead Language

IX The Hut on Hen's Legs: Baba Yaga

X The Great Gate of Kiev

\* The score for this piece was created with the support of the Mitsubishi Foundation Research Grants in the Humanities for FY 2015.

- All performance durations are approximate.

C

13 & 14. FEB. 2026

## Gergely Madaras, conductor



© Balazs Borocz-Prisac

Born in Budapest in 1984, Hungarian conductor Gergely Madaras was named 2025 “Conductor of the Year” at the Bartók Radio Music Awards. He served as Music Director of the Orchestre Philharmonique Royal de Liège from 2019 to 2025. His 2025/26 season includes a project with the Hungarian Radio Symphony celebrating the 100th birthday of György Kurtág.

In recent seasons, he has conducted critically-acclaimed productions at the Hungarian State Opera, La Monnaie, Grand Théâtre de Genève and the Dutch National Opera. Recent symphonic highlights include performances with the Oslo Philharmonic, London Philharmonic Orchestra, BBC Symphony Orchestra, Royal Philharmonic Orchestra, BBC Philharmonic Orchestra, Hallé Orchestra, City of Birmingham Symphony Orchestra, Orchestre Philharmonique de Radio France, and with Il Pomo d'Oro and Joyce DiDonato at the Concertgebouw Hall, as part of the “EDEN” tour. Whilst grounded in the core Classical and Romantic repertoire, he maintains a close relationship with new music collaborating with contemporary composers including George Benjamin and György Kurtág. For Pierre Boulez, he served as assistant conductor at the Lucerne Festival Academy between 2011 and 2013.

He first began studying folk music with the last generation of authentic Hungarian gipsy and peasant musicians at age 5. He went on to study classical flute, violin and composition, graduating from the flute faculty of the Liszt Academy in Budapest, as well as the conducting faculty of the Universität für Musik und darstellende Kunst Wien, where he studied with Mark Stringer.

He made his debut with the NHK Symphony Orchestra at their subscription concerts in 2023 performing an all-Hungarian program around Kodály's *Háry János* suite. At his most recent collaboration with the orchestra in 2024, he conducted an all-Tchaikovsky program. Following these successes, he will lead today's concert as part of the projects marking the orchestra's 100th anniversary year, with a special program featuring Mussorgsky's *Pictures at an Exhibition* arranged by the orchestra's late founder Hidemaro Konoe.

## Kazuaki Kikumoto, trumpet



One of Japan's greatest trumpeters, Kazuaki Kikumoto became a Principal Trumpet at the NHK Symphony Orchestra in 2012. Four years later, he debuted at the orchestra as a concerto soloist performing Shostakovich's Concerto in C minor for Piano, Trumpet and String Orchestra (known as Piano Concerto No. 1).

Born in 1980 in Hyogo, Japan, he graduated from the Kyoto City University of Arts before completing his master's course there, both as a top student. Trained by Hiroaki Hayasaka and Sumiaki Arima (trumpet) as well as Shinichi Go (chamber music), he also studied in Germany with Anthony Plog at the Hochschule für Musik Freiburg and with Reinhold Friedrich and Edward H. Tarr at the Hochschule für Musik Karlsruhe.

The First Prize winner both at the 19th Japan Wind and Percussion Competition in 2002

and the 72nd Music Competition of Japan in 2003, he also was the Second Prize winner at the Ellsworth Smith International Trumpet Solo Competition held in 2008 in the USA, where he gave a recital at the Chosen Vale International Trumpet Seminar in 2009 and was invited by the International Trumpet Guild Conference to perform a recital and concerto in 2016.

---

## Program Notes

---

**Zoltán Kodály (1882–1967)**

### Variations on a Hungarian Folksong *The Peacock*

Hungarian composer and educator Zoltán Kodály was also a forefather of ethnomusicology long before the term was created. In his childhood, the learner of piano and strings enjoyed playing chamber music at home and orchestral music at school, while singing in the church choir. He obtained a diploma in composition in 1904 at Budapest's Academy of Music under János Koessler who also trained Béla Bartók (1881–1945). Kodály developed an interest in the nation's traditional music, which was coupled with a rising Hungarian nationalism of the time. In 1905, he started to travel with wax cylinders in his hand to collect and study folksongs, some fruits of which were instantly reflected in his PhD thesis *The stanzaic structure of Hungarian folksong* (1906). His decades-long fieldwork as well as analysis and arrangement of folksongs were to bring richness and uniqueness to his own creations.

Variations on a Hungarian Folksong (1939) is based on the theme from the old tune *Fölszállott a páva* (*Fly, Peacock*). This orchestral work was a commission celebrating the 50th anniversary of Amsterdam's Concertgebouw Orchestra who premiered it in November 1939 immediately after the outbreak of World War II. The lyrics of the original folksong urges the peacock representing freedom and hope, to fly over where poor prisoners are. For Kodály, the text also meant a protest against the fascism's rise at the time. In this context, he had the work published by the British firm Boosey & Hawkes instead of the Austrian Universal Edition (which had published his music since 1921) because of the Anschluss (1938).

The theme, using a pentatonic (five-note) scale like many folk melodies, is given solemnly by cellos and contrabasses at the beginning. The introduction is followed by sixteen variations which are sometimes performed seamlessly without pause. The thirteenth variation, a funeral march with the brass mourning over gloomily repetitive rhythm by timpani and low instruments, is especially in stark contrast to the buoyant grand finale where the theme is brightly sung by the orchestra.

**Johann Nepomuk Hummel (1778–1837)**

### Trumpet Concerto E Major

Johann Nepomuk Hummel was regarded as one of Europe's greatest composers and pianists during his lifetime. Born in the capital of the Kingdom of Hungary (now Bratislava, Slovakia), the musical prodigy moved to Vienna at age 8 and became a live-in piano apprentice

C

13 & 14, FEB. 2026



of Wolfgang Amadeus Mozart (1756–1791). He later studied organ with Joseph Haydn (1732–1809) and vocal composition under Antonio Salieri (1750–1825).

Hummel's Trumpet Concerto (1803), as with Haydn's famous one (1796), was written for the innovative keyed trumpet promoted by Vienna's first-rate trumpeter Anton Weidinger. Unlike the older natural trumpet producing limited notes, this instrument with key-covered tone holes made it possible to play all the halftones, which explains Hummel's solo part abundant in chromatic intervals. In spite of these efforts, the keyed trumpet would soon give way to the modern valve trumpet during the early 19th century.

The Trumpet Concerto was premiered on New Year's Day 1804 by Weidinger and Prince Esterházy (Nikolaus II)'s musicians, three months before Hummel was made the Esterházy family's effective Kapellmeister succeeding Haydn. The march-like opening movement reminds us of the trumpet's heroic side. The lyrical middle movement evoking an operatic aria is followed without break by the virtuosic, festive finale in rondo form. While the work is performed in E-flat major at times for B-flat trumpets to play easily, today's concert will present it in E major, the original key, on an E trumpet.

## **Modest Mussorgsky (1839–1881) / Hidemaro Konoe (1898–1973)**

### ***Pictures at an Exhibition, suite***

Russian composer Modest Mussorgsky originally wrote *Pictures at an Exhibition* for piano solo in 1874, shortly after visiting the memorial exhibition of the late architectural designer and painter Victor Hartmann, his close friend. In fact, this suite consists of several short movements evoking different pictures, with the recurring *Promenade* movement inserted between them. This structure makes us feel as if someone—or we—meandered through a gallery and stopped in front of each work of art.

This masterwork-to-be was unknown to the public during the composer's lifetime. Though there exist numerous orchestral arrangements of it, the ingeniously colorful one by Ravel surely provided it with a high popularity. Today's concert will deliver a rarely-performed arrangement by Japanese conductor and composer Hidemaro Konoe who used, as a base, Ravel's orchestration and its source Mikhail Tushmalov's. Trained mostly in Tokyo and Berlin, Konoe is known as a major contributor to the development of his country's orchestral culture in its early days. The 1926 foundation on his initiative of the New Symphony Orchestra (later renamed NHK Symphony Orchestra) is a turning point of Japan's classical music performance history.

Konoe's activities went across borders: in 1931, he conducted the Russian premiere of Ravel's version of *Pictures at an Exhibition* in Moscow. Some locals in attendance suggested to Konoe he should revise it to “wash Parisian cosmetics out from Ravel's modern touch and recover Mussorgsky's image as a suntanned, soil-scented Slav.” The result—“Ravel's version revised by Konoe” in his words—was first heard in Berlin before the New Symphony Orchestra played it in Tokyo in 1934. During today's concert, the same orchestra will perform it for the first time in ninety-two years, using the parts prepared under Konoe's direction in 1950. For a long time, the Konoe family possessed only the 1934 manuscript score damaged by fire, and some parts from 1950, making it impossible for the

arrangement to be performed. Only some years ago, the remaining parts from 1950 were found at their relative's, which revealed to us the complete picture at last.

Unlike Ravel's version entrusting the first statement of the opening *Promenade* to a trumpet solo, Konoe's starts stately with strings, clarinets and bassoons, joined immediately by horns and a trumpet. The two versions instead let an alto saxophone sing a medieval troubadour's song at **II *The Old Castle*** and make good use of flutes during the lilting **V *Ballet of Unhatched Chicks***. As for **VI *Samuel Goldenberg and Schmuyle***, both these arrangers have forceful strings in unison embodying Samuel, rich and arrogant, and a muted trumpet representing Schmuyle, poor and servile, while Konoe's more dramatic scoring is thicker and weightier particularly through additional low brass parts. In both versions, the brass play an active part in the eerie **VIII *Catacombs: Roman Tomb***, flowing seamlessly into *With the Dead in a Dead Language*, a variation of the Promenade. **IX *The Hut on Hen's Legs: Baba Yaga*** with tic tac rhythms, describes a clock in the shape of the Russian witch Baba Yaga's hut. **X *The Great Gate of Kiev*** is based on Hartmann's design for Kiev's city gates. In an almost sacred central part, church-like bells are heard and the Promenade's theme is recalled, evoking Russian Orthodox hymns. This effectively prepares the majestic conclusion, backed by a piano in Konoe's orchestration.

#### Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 64

The Subscription Concerts Program 2025–26

2026 04	A	Concert No. 2060 April 11 (Sat) 6:00pm 12 (Sun) 2:00pm  NHK Hall	Haydn Cello Concerto No. 1 C Major Hob. VIIb-1 Bruckner Symphony No. 9 D Minor  Fabio Luisi, conductor Jan Vogler, cello	Ordinary S 11,000 A 9,500 B 7,600 C 6,000 D 5,000 E 3,000	Youth S 5,500 A 4,500 B 3,500 C 2,800 D 1,800 E 1,400
		Concert No. 2061 April 16 (Thu) 7:00pm 17 (Fri) 7:00pm Suntory Hall	Mozart Clarinet Concerto A Major K. 622 Mahler Symphony No. 5 C-sharp Minor  Fabio Luisi, conductor Kenji Matsumoto (Principal Clarinet, NHKSO), clarinet	Ordinary S 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	Youth S 6,000 A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 2,750
		Concert No. 2062 April 24 (Fri) 7:00pm 25 (Sat) 2:00pm NHK Hall	NHKSO 100th Anniversary: Japanese Composers Series Toyama <i>Divertimento for Orchestra</i> Prokofiev Piano Concerto No. 3 C Major Op. 26 Ifukube <i>Ballata Sinfonica (Symphonic Ballad)</i> Britten <i>Peter Grimes</i> , opera— <i>Four Sea Interludes</i> Op. 33a Tatsuya Shimono, conductor Kyohei Sorita, piano	Ordinary S 10,000 A 8,500 B 6,500 C 5,400 D 4,300 E 2,200	Youth S 5,000 A 4,000 B 3,100 C 2,550 D 1,500 E 1,000
2026 05	A	Concert No. 2064 May 23 (Sat) 6:00pm 24 (Sun) 2:00pm NHK Hall	Brahms Double Concerto for Violin and Cello, A Minor Op. 102 Brahms / Schönberg Piano Quartet No. 1 G Minor Op. 25  Michael Sanderling, conductor Christian Tetzlaff, violin Tanja Tetzlaff, cello	Ordinary S 10,000 A 8,500 B 6,500 C 5,400 D 4,300 E 2,200	Youth S 5,000 A 4,000 B 3,100 C 2,550 D 1,500 E 1,000
		Concert No. 2063 May 14 (Thu) 7:00pm 15 (Fri) 7:00pm Suntory Hall	NHKSO 100th Anniversary: Japanese Composers Series Kazuo Yamada <i>Also sang ein Jüngling</i> , small symphonic poem ( <i>Thus Sang a Young Man</i> ) Hartmann <i>Concerto funebre (Funereal Concerto)*</i> Sugata <i>Symphonic Overture</i> Op. 6 Hindemith <i>Mathis der Maler</i> , symphony ( <i>Matthias the Painter</i> ) Kazuki Yamada, conductor Suyoen Kim, violin*	Ordinary S 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	Youth S 6,000 A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 2,750
		Concert No. 2065 May 29 (Fri) 7:00pm 30 (Sat) 2:00pm NHK Hall	Vasks <i>Chant of Gratefulness (2025)</i> [Co-commission Work for NHK Symphony Orchestra, Latvian National Symphony Orchestra, Münchener Kammerorchester and Australian Chamber Orchestra / Japan Premiere] Shostakovich Symphony No. 4 C Minor Op. 43 Andris Poga, conductor	Ordinary S 10,000 A 8,500 B 6,500 C 5,400 D 4,300 E 2,200	Youth S 5,000 A 4,000 B 3,100 C 2,550 D 1,500 E 1,000
2026 06	A	Concert No. 2067 June 13 (Sat) 6:00pm 14 (Sun) 2:00pm NHK Hall	Wagner <i>Die Meistersinger von Nürnberg—Vorspiel</i> ( <i>The Mastersingers of Nuremberg—Prelude</i> ) Mozart Piano Concerto No. 17 G Major K. 453 Bartók <i>Concerto for Orchestra</i> Jaap van Zweden, conductor Conrad Tao, piano	Ordinary S 11,000 A 9,500 B 7,600 C 6,000 D 5,000 E 3,000	Youth S 5,500 A 4,500 B 3,500 C 2,800 D 1,800 E 1,400
		Concert No. 2066 June 4 (Thu) 7:00pm 5 (Fri) 7:00pm Suntory Hall	Honegger <i>Pastorale d'été</i> , symphonic poem ( <i>Summer Pastoral</i> ) Berlioz <i>Les nuits d'été</i> , songs Op. 7 ( <i>Summer Nights</i> ) Iber <i>Escales (Ports of Call)</i> Debussy <i>La mer</i> , three symphonic sketches ( <i>The Sea</i> ) Stéphane Denève, conductor Gaëlle Arquez, mezzo soprano	Ordinary S 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	Youth S 6,000 A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 2,750
		Concert No. 2068 June 19 (Fri) 7:00pm 20 (Sat) 2:00pm NHK Hall	Sibelius <i>Andante festivo</i> Sibelius Violin Concerto D Minor Op. 47 Rakhmaninov Symphony No. 3 A Minor Op. 44 Tadaaki Otaka, conductor HIMARI, violin	Ordinary S 10,000 A 8,500 B 6,500 C 5,400 D 4,300 E 2,200	Youth S 5,000 A 4,000 B 3,100 C 2,550 D 1,500 E 1,000

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

# Overseas Tour

---

**4/29 | Wed | 7:30pm** | NHKSO Singapore Concert to Commemorate  
the 60th Anniversary of Singapore-Japan Diplomatic Relations

---

Esplanade Concert Hall

---

Tatsuya Shimono, conductor

Kyohei Sorita, piano

**Toyama** *Divertimento for Orchestra*

**Prokofiev** Piano Concerto No. 3 C Major Op. 26

**R. Strauss** *Don Juan*, symphonic poem Op. 20

**Britten** *Peter Grimes*, opera—*Four Sea Interludes* Op. 33a

Organized by: The Esplanade Co Ltd

Sponsored by:  **MITSUBISHI  
ELECTRIC**  
*Changes for the Better*

**ANA**



maple<sup>tree</sup>

**IIJ** Internet Initiative Japan

# The Subscription Concerts Program 2026–27

2026 09	A	Concert No. 2069 <b>September</b> 12 (Sat) 6:00pm 13 (Sun) 2:00pm  NHK Hall	NHKSO 100th Anniversary <b>Franz Schmidt</b> <i>Das Buch mit sieben Siegeln</i> , oratorio ( <i>The Book with Seven Seals</i> )  Fabio Luisi, conductor Michael Laurenz, tenor (Johannes) David Steffens, bass (Voice of God) Miho Sakoda, soprano Asami Fujii, mezzo soprano Tatsundo Ito, tenor Hirotaka Kato, bass Eri Niyama, organ New National Theatre Chorus, chorus
	B	Concert No. 2070 <b>September</b> 17 (Thu) 7:00pm 18 (Fri) 7:00pm  Suntory Hall	<b>Weber</b> <i>Oberon</i> , opera–Overture <b>Brahms</b> Violin Concerto D Major Op. 77 <b>Schumann</b> Symphony No. 4 D Minor Op. 120 (Revised Version)  Fabio Luisi, conductor Augustin Hadelich, violin
	C	Concert No. 2071 <b>September</b> 25 (Fri) 7:00pm 26 (Sat) 2:00pm  NHK Hall	NHKSO 100th Anniversary: Beethoven Symphony Cycle 1 <b>Beethoven</b> Symphony No. 1 C Major Op. 21 <b>Beethoven</b> Symphony No. 3 E-flat Major Op. 55, <i>Eroica</i> ( <i>Heroic Symphony</i> )  Fabio Luisi, conductor
2026 10	A	Concert No. 2072 <b>October</b> 17 (Sat) 6:00pm 18 (Sun) 2:00pm  NHK Hall	<b>Bruckner</b> Symphony No. 5 B-flat Major  Herbert Blomstedt, conductor
	B		There will be no subscription concerts of Program B in October due to special concerts.
	C	Concert No. 2073 <b>October</b> 23 (Fri) 7:00pm 24 (Sat) 2:00pm  NHK Hall	NHKSO 100th Anniversary: Beethoven Symphony Cycle 2 <b>Beethoven</b> <i>Egmont</i> , incidental music Op. 84—Overture <b>Beethoven</b> Symphony No. 8 F Major Op. 93 <b>Beethoven</b> Symphony No. 5 C Minor Op. 67  Christoph Eschenbach, conductor
2026 11	A	Concert No. 2074 <b>November</b> 7 (Sat) 6:00pm 8 (Sun) 2:00pm  NHK Hall	<b>Prokofiev</b> Violin Concerto No. 1 D Major Op. 19 <b>Shostakovich</b> Symphony No. 8 C Minor Op. 65  Tugan Sokhiev, conductor Mayuko Kamio, violin
	B	Concert No. 2076 <b>November</b> 19 (Thu) 7:00pm 20 (Fri) 7:00pm  Suntory Hall	<b>Rakhmaninov</b> Piano Concerto No. 2 C Minor Op. 18 <b>Tchaikovsky</b> <i>The Nutcracker</i> , ballet Op. 71 (Excerpts)  Tugan Sokhiev, conductor Alexandre Kantorow, piano
	C	Concert No. 2075 <b>November</b> 13 (Fri) 7:00pm 14 (Sat) 2:00pm  NHK Hall	NHKSO 100th Anniversary: Beethoven Symphony Cycle 3 <b>Beethoven</b> <i>Coriolan</i> , overture Op. 62 <b>Beethoven</b> Symphony No. 2 D Major Op. 36 <b>Beethoven</b> Symphony No. 6 F Major Op. 68, <i>Pastoral</i>  Tugan Sokhiev, conductor

# The Subscription Concerts Program 2026–27

2026 12	<b>A</b>	<p>Concert No. <b>2077</b></p> <p><b>November</b></p> <p><b>28</b> (Sat) 6:00pm</p> <p><b>29</b> (Sun) 2:00pm</p> <p>Program A of the December subscription concerts will be held in November.</p> <p>NHK Hall</p>	<p><b>Falla</b> <i>El sombrero de tres picos</i>, ballet suite No. 2 (<i>The Three-Cornered Hat</i>)</p> <p><b>Ravel</b> Piano Concerto G Major</p> <p><b>Berlioz</b> <i>Symphonie fantastique</i>, Op. 14 (<i>Fantastic Symphony</i>)</p> <p>Charles Dutoit, conductor</p> <p>Martha Argerich, piano</p>
	<b>B</b>	<p>Concert No. <b>2079</b></p> <p><b>December</b></p> <p><b>10</b> (Thu) 7:00pm</p> <p><b>11</b> (Fri) 7:00pm</p> <p>Suntory Hall</p>	<p><b>Mozart</b> <i>Die Zauberflöte</i>, opera K. 620—<i>Overture</i> (<i>The Magic Flute</i>)</p> <p><b>Srnka</b> Cello Concerto [NHKSO 100th Anniversary Commissioned Work / World Premiere]</p> <p><b>Mendelssohn</b> Symphony No. 3 A Minor Op. 56, <i>Scottish</i></p> <p>Maxim Emelyanychev, conductor</p> <p>Nicolas Altstaedt, cello</p>
	<b>C</b>	<p>Concert No. <b>2078</b></p> <p><b>December</b></p> <p><b>4</b> (Fri) 7:00pm</p> <p><b>5</b> (Sat) 2:00pm</p> <p>NHK Hall</p>	<p>NHKSO 100th Anniversary: Beethoven Symphony Cycle 4</p> <p><b>Beethoven</b> Symphony No. 4 B-flat Major Op. 60</p> <p><b>Beethoven</b> Symphony No. 7 A Major Op. 92</p> <p>Charles Dutoit, conductor</p> <p>- Beethoven's Symphony No. 9 <i>Choral</i> is scheduled to be performed at the "Beethoven '9th' Symphony Concert" at the end of 2026 (conductor: Marek Janowski).</p>
2027 01	<b>A</b>	<p>Concert No. <b>2080</b></p> <p><b>January</b></p> <p><b>16</b> (Sat) 6:00pm</p> <p><b>17</b> (Sun) 2:00pm</p> <p>NHK Hall</p>	<p><b>Mahler</b> Symphony No. 9 D Major</p> <p>Fabio Luisi, conductor</p>
	<b>B</b>		<p>There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renovation of Suntory Hall.</p>
	<b>C</b>	<p>Concert No. <b>2081</b></p> <p><b>January</b></p> <p><b>22</b> (Fri) 7:00pm</p> <p><b>23</b> (Sat) 2:00pm</p> <p>NHK Hall</p>	<p>The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 1</p> <p><b>Sørensen</b> <i>Evening Land</i> [Japan Premiere]</p> <p><b>Beethoven</b> Piano Concerto No. 1 C Major Op. 15</p> <p><b>Nielsen</b> Symphony No. 6, <i>Sinfonia semplice</i></p> <p>Fabio Luisi, conductor</p> <p>Alessandro Taverna, piano</p>
2027 02	<b>A</b>	<p>Concert No. <b>2082</b></p> <p><b>February</b></p> <p><b>6</b> (Sat) 6:00pm</p> <p><b>7</b> (Sun) 2:00pm</p> <p>NHK Hall</p>	<p><b>Bach / Webern</b> <i>Musikalisches Opfer</i>, BWV 1079—<i>Ricercar à 6 voci</i> (<i>The Musical Offering—6 Voice Fugue</i>)</p> <p><b>Mahler</b> <i>5 Lieder nach Texten von Friedrich Rückert</i> (<i>5 Songs after Friedrich Rückert</i>)</p> <p><b>Schönberg</b> Chamber Symphony No. 2 Op. 38</p> <p><b>Schubert</b> Symphony No. 7 B Minor D. 759, <i>Unvollendete</i> (<i>Unfinished Symphony</i>)</p> <p>Antonello Manacorda, conductor</p> <p>André Schuen, baritone</p>
	<b>B</b>		<p>There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renovation of Suntory Hall.</p>
	<b>C</b>	<p>Concert No. <b>2083</b></p> <p><b>February</b></p> <p><b>12</b> (Fri) 7:00pm</p> <p><b>13</b> (Sat) 2:00pm</p> <p>NHK Hall</p>	<p>The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 2</p> <p><b>Schumann</b> <i>Genoveva</i>, opera Op. 81—<i>Overture</i></p> <p><b>Beethoven</b> Piano Concerto No. 2 B-flat Major Op. 19</p> <p><b>Hisatada Otaka</b> <i>Ashiya Otome</i>, symphonic poem Op. 9</p> <p><b>Panufnik</b> Symphony No. 2, <i>Sinfonia Elegiaca</i></p> <p>Tadaaki Otaka, conductor</p> <p>Yunchan Lim, piano</p>

**A NHK Hall**  
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)  
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

**B Suntory Hall**  
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)  
Fri. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

**C NHK Hall**  
Fri. 7:00pm (doors open at 6:00pm)  
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2027  
04

**A** Concert No. **2084**  
**April**  
10 (Sat) 6:00pm  
11 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

**Mendelssohn** Violin Concerto E Minor Op. 64  
**R. Strauss** *Eine Alpensinfonie* Op. 64 (*An Alpine Symphony*)

Fabio Luisi, conductor  
James Ehnes, violin

**B**

**There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renewal of Suntory Hall.**

**C** Concert No. **2085**  
**April**  
23 (Fri) 7:00pm  
24 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

**The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 3**

**Dvořák** *The Noon Witch*, symphonic poem Op. 108  
**Beethoven** Piano Concerto No. 3 C Minor Op. 37  
**Unsuk Chin** *Subito con forza*  
**Shostakovich** Symphony No. 9 E-flat Major Op. 70

Elim Chan, conductor  
Alice Sara Ott, piano

2027  
05

**A** Concert No. **2086**  
**May**  
8 (Sat) 6:00pm  
9 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

**Grieg** Piano Concerto A Minor Op. 16  
**Stenhammar** Symphony No. 2 G Minor Op. 34

Paavo Järvi, conductor  
Denis Kozhukhin, piano

**B**

**There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renewal of Suntory Hall.**

**C** Concert No. **2087**  
**May**  
21 (Fri) 7:00pm  
22 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

**The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 4**

**Lully** *Le bourgeois gentilhomme*, ballet (*The Bourgeois Gentleman/Excerpts*)  
**Beethoven** Piano Concerto No. 4 G Major Op. 58  
**R. Strauss** *Der Bürger als Edelmann*, suite Op. 60 (*The Bourgeois Gentleman*)

Kent Nagano, conductor  
Till Fellner, piano

2027  
06

**A** Concert No. **2088**  
**June**  
5 (Sat) 6:00pm  
6 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

**Mozart** Symphony No. 35 D Major K. 385, *Haffner*  
**Bruckner** Symphony No. 3 D Minor, *Wagner-Symphonie*

Tugan Sokhiev, conductor

**B**

**There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renewal of Suntory Hall.**

**C** Concert No. **2089**  
**June**  
18 (Fri) 7:00pm  
19 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

**The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 5**

**Beethoven** Piano Concerto No. 5 E-flat Major Op. 73, *Emperor*  
**R. Strauss** *Ein Heldenleben*, symphonic poem Op. 40 (*A Hero's Life*)

Thomas Guggeis, conductor  
Kirill Gerstein, piano

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.



## Special Concerts 2026–27

---

### 2026/10 | 100th Anniversary Commemoration: Mahler Symphony No. 2 *Resurrection* NHK Hall

---

**10/3** Sat.  
6:00pm

**Mahler** Symphony No. 2 C Minor *Auferstehung (Resurrection)*

**10/4** Sun.  
2:00pm

**Fabio Luisi**, conductor **Ying Fang**, soprano **Tamara Mumford**, mezzo soprano  
New National Theatre Chorus, chorus

---

### 2026/10 | Brahms Symphony Cycle Conducted by Two Great Conductors Tokyo Metropolitan Theatre

---

**10/30** Fri.  
7:00pm

**Brahms** Symphony No. 2 D Major Op. 73 / Symphony No. 4 E Minor Op. 98  
Herbert Blomstedt, conductor

**10/31** Sat.  
4:00pm

**Brahms** Symphony No. 3 F Major Op. 90 / Symphony No. 1 C Minor Op. 68  
Christoph Eschenbach, conductor

---

### 2027/01 | NHKSO New Year Concerts 2027 NHK Hall

---

**1/10** Sun.  
3:00pm

**Wagner** *Rienzi*, opera—Overture

**1/11** Mon.  
3:00pm

**Wagner** *Die Walküre*, opera—Siegmunds Liebeslied: *Winterstürme wichen dem Wonnemond*  
(*Winter Storms Have Waned in the Moon of May*) ♦

**Wagner** *Die Walküre*, opera—*Du bist der Lenz* (*Thou Art the Spring*) \*

**Wagner** *Lohengrin*, opera—Grail Narration: *In fernem Land* (*In a Far-off Land*) ♦

**Wagner** *Tannhäuser*, opera—*Dich, teure Halle, grüss ich wieder* (*Dear Hall, I Greet Thee Once Again*) \*

**Wagner** *Tristan und Isolde*, opera—*O sink' hernieder, Nacht der Liebe* (*Descend, O Night of Love*) ♦♦

**J. Strauss II** *Die Fledermaus*, operetta—Overture, Csárdás: *Klänge der Heimat* (*The Bat—Sounds of My Homeland*) \*

**Lehár** *Das Land des Lächelns*, operetta—*Dein ist mein ganzes Herz* (*The Land of Smiles—Yours Is My Heart Alone*) ♦

**Lehár** *Die lustige Witwe*, operetta—*Vilja-Lied* (*The Merry Widow—Vilja Song*) \*

**Kálmán** *Gräfin Mariza*, operetta—*Grüss mir mein Wein* (*Countess Maritza—Vienna Mine*) ♦

**J. Strauss II** *Kaiser-Walzer*, Op. 437 (*Emperor Waltz*)

**Lehár** *Das Land des Lächelns*, operetta—*Wer hat die Liebe uns in Herz gesenkt* (*The Land of Smiles—Who Has Placed Love in Our Hearts*) ♦♦

**Fabio Luisi**, conductor **Camilla Nylund**, soprano \* **Klaus Florian Vogt**, tenor ♦

---

## 2027/02 | The 300th Anniversary of the Premiere of Bach's *Matthäus-Passion* NHK Hall

---

**2/20** Sat.  
Curtain Time: TBA

**Bach** *Matthäus-Passion* BWV 244 (*St. Matthew Passion*)

**2/21** Sun.  
Curtain Time: TBA

**Ton Koopman**, conductor **Tilman Lichdi**, tenor (Evangelist) **Klaus Mertens**, bass-baritone (Jesus)  
**Amsterdam Baroque Choir**, chorus **The Little Singers of Tokyo**, children's chorus

---

## 2027/04–06 | Tokyo Metropolitan Theatre Series Tokyo Metropolitan Theatre

---

**4/15** Thu.  
7:00pm

**Franz Schmidt** *Notre Dame*, opera—*Zwischenspiel und Karnevalsmusik* (*Intermezzo and Carnival Music*)

**4/16** Fri.  
7:00pm

**Hindemith** *Nobilissima visione*, ballet suite (*The Noblest Vision*)  
**R. Strauss** *Don Quixote*, symphonic poem Op. 35\*

**Fabio Luisi**, conductor **Rei Tsujimoto**, cello\*

**5/13** Thu.  
7:00pm

**Debussy** *Prélude à l'après-midi d'un faune* (*Prelude to the Afternoon of a Faun*)

**5/14** Fri.  
7:00pm

**Lancén** *Concerto champêtre* for Harp and Orchestra

**Tailleferre** *Petite suite*

**Ravel** *Daphnis et Chloé*, Suites Nos. 1 & 2

**Nodoka Okisawa**, conductor **Risako Hayakawa**, harp

**6/10** Thu.  
7:00pm

**Prokofiev** *Symphonie classique*, Op. 25

**6/11** Fri.  
7:00pm

**Mozart** *Symphonie concertante* for 4 Winds and Orchestra E-flat Major K. 297b

**Stravinsky** *The Rite of Spring*, ballet

**Tugan Sokhiev**, conductor **Shuhei Nakamura**, oboe **Kenji Matsumoto**, clarinet  
**Hironori Ugajin**, bassoon **Hitoshi Imai**, horn

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

## N響関連のお知らせ

100<sup>th</sup>  
NHKSO  
NHK SYMPHONY ORCHESTRA  
TOKYO



「N響100年」  
記念ページは  
こちらから

### N響ホームページ 「N響100年」 記念ページ

<https://www.nhkso.or.jp/100th/>

N響100年を記念するおもな公演・事業や首席指揮者ファビオ・ルイーゼのメッセージが紹介されているほか、N響のこれまでの歩みをまとめた年表や読み物をご覧ください。また「演奏記録アーカイブ／資料アーカイブ」では、N響100年の全演奏会の記録、そしてN響が所蔵する歴史的資料の目録の一部をデータベースとして公開。検索にも対応します。

WEB  
連載

## NHK交響楽団の あゆみ 1945— 2026 岩野裕一

THE HISTORY OF  
NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

WEB連載  
「NHK交響楽団のあゆみ」は  
こちらから



2026年の「N響100年」に向けて、ホームページで「NHK交響楽団のあゆみ」を連載中です。執筆は、「王道楽土の交響楽」「日本のピアノ100年」などの著書でも知られる、音楽評論家・編集者の岩野裕一氏。終戦後の「NHK交響楽団」への改称から、創立100年となる2026年までのN響の歴史を追いかけます。[https://www.nhkso.or.jp/news/HistoricalOverview\\_contents.html](https://www.nhkso.or.jp/news/HistoricalOverview_contents.html)

## 伝えるチカラ



- ◎ 公共メディアNHKを社会へ
- ◎ 社会貢献事業で、次世代の未来を応援！

NHK財団は、  
子法人の「NHK交響楽団」と共に、  
社会貢献事業を進めています。

ステラ  
net



NHK財団の最新情報はこちらから

## NHK こども 音楽クラブ

「NHKこども音楽クラブ」は、  
NHKとNHK交響楽団で  
実施している出前授業。  
全国各地の学校を訪ね  
ミニコンサートを行っています。

間近で聴く演奏に  
目を輝かせる子どもたち  
そして、素顔のN響メンバーに  
出会えるコンサートです。

出前授業の動画が  
ホームページで  
ご覧いただけます



<https://www.nhk.or.jp/event/kodomo-ongaku/>

音楽は人々を元気づけ、ひとときの安らぎを与えてくれます。N響はコンサートホールを飛び出して、さまざまな場所、さまざまな人たちに美しい音色をお届けし、広く社会に貢献していきます。

## N響の社会貢献

### 子どもたちの未来を育む

“N響が学校にやってきた”をキャッチフレーズにNHKと共催して、楽員たちが全国の小中学校を訪ねてミニコンサートを開く「NHK子ども音楽クラブ」、子どもと大人が夏休みに名曲を楽しむ「N響ほっとコンサート」、N響練習所のある東京都港区の保育園児を招いてN響メンバーがじかに音楽の楽しさを伝える「N響といっしょ！音を楽しむ!!」などを開催しています。音楽や音楽家に身近に接してもらうことで豊かな心を育む取り組みに、これからも力を入れていきます。

### 優れた音楽家を育てる

1950年代、指揮を実践的に学ぶ場として設けたのが「指揮研究員」の制度です。有望な若手指揮者をオーケストラの現場に迎え入れ、国内外の巨匠たちとの音楽づくりに携わる機会を提供。日本のクラシック音楽界を担う人材を数多く輩出しています。また2003年に創設された「N響アカデミー」では、オーディションで選抜された受講生が、楽員からのレッスン、リハーサルや公演の参加などを通じてトレーニングを積んでいます。修了生はN響をはじめ国内外のオーケストラで活躍しています。

#### 指揮研究員

井手 奏、佐久山修太

#### N響アカデミー在籍者

ヴァイオリン：下野園ひな子、遠井彩花、中井楓梨  
コントラバス：桑原孝太郎 クラリネット：白井宏典  
打楽器：菊池幸太郎  
(2026年2月1日現在)

### 地域の人たちとつながる

全国のさまざまな団体、自治体から要請を受けて、ク

ラシック音楽の普及や文化振興のお手伝いをしています。幼稚園、コミュニティ施設などで演奏したり、生徒たちにレッスンをするなど、地元に着した活動を行っています。最近各地の放送局のイベントに参加して演奏する機会も増えています。NHKのテレビとラジオで日曜のお昼に放送される「NHKのど自慢」では、審査の結果を伝える「鐘」をN響の打楽器奏者が担当することもあります。

### 病院や福祉施設、被災地に届ける

病院や高齢者施設を楽員が訪れてミニコンサートを開き、入院する患者さん、看病するご家族、お年寄りの方たちに安らぎのひとつをお届けしています。また被災地にも出向き、演奏を通じて現地の人たちの応援にも力を入れています。2024年1月に起きた能登半島地震では、翌月にN響の楽員15人が石川県を訪問し、4地域・6か所の避難所でミニコンサートを開きました。

### 国際交流の輪を広げる

1960年の「世界一周演奏旅行」以来、海外での演奏にも力を入れてきました。近年は2025年5月にオランダ・アムステルダムでの「マラー・フェスティバル」に参加するなど、世界最高峰の舞台に招かれることが増えています。一方国内では、首都圏の大学などと連携して、私たちが主催する公演への外国人留学生招待にも取り組んでいます。

### 異なる分野の専門家と連携する

デジタル活用や医療などの新しい課題に、異なる分野の人たちと手をたずさえて取り組んでいます。2022年11月の「NTT東日本 N響コンサート」では、離れていても同じ場所にいるように感じられるような映像・音声接続を実現する「IOWN APN 関連技術」の検証実験に協力。リアルタイム・リモート演奏を成功させました。一方コロナウイルスへの対策がまだ手探りだった2020年7月、業界団体が行った「演奏中の飛沫」を調べる実験に多くの楽員や職員を派遣。これにより舞台上の安全な楽器配置などがわかり、業界の統一したマニュアル作りに役立ちました。

役員等・団友

役員等	理事長	中野谷 公一								
	常務理事	三溝敬志	大曾根 聡子							
	理事	相川直樹	内永ゆか子	岡田知之	杉山博孝	銭谷眞美	田辺雅泰	團 宏明	毛利 衛	
	監事	春原雄策	濱村和則							
	評議員	井上樹彦	江頭敏明	樺山絃一	菅原 直	清野 智	田中宏暁	檀 ふみ	坪井節子	
		根本拓也	前田昭雄	三浦 惺	山名啓雄	渡邊 修				

事務局	演奏制作部			企画プロモーション部		経営管理部		技術主幹	芸術主幹
	岩渕 一真	高木 かおり	高橋 啓	森下 文典	黒川 大亮	野村 歩	吉田 麻子	尾澤 勉	西川 彰一
	丸山 千絵	沖 あかね	上原 静	猪股 正幸	三浦 七葉子	浅田 武志	杉山 真知子		
	石井 康	内山 弥生	木村 英代	吉賀 亜希		目黒 重治	長津 紗弥		
	利光 敬司	徳永 匡哉	小倉 康平	宮崎 則匡		山本 能寛			

団友	黒柳 紀明	田渕 雅子	細川 順三	山田 桂三	岡田 知之	事務局
	公門 俊之	中竹 英昭	宮本 明恭		瀬戸 川 正	
	齋藤 真知恵	三原 征洋		トランペット	百瀬 和紀	稲川 洋
名誉コンサートマスター	酒井 敏彦	村山 弘	オーボエ			入江 哲之
	清水 謙二	山田 雄司		井川 明彦		金沢 孝
堀 正文	鈴木 弘一		青山 聖樹	来馬 賢		小林 文行
	田渕 彰	チェロ	北島 章	関山 幸賢	本荘 玲子	清水 永一郎
	田中 裕		浜 道晃	津堅 直弘		中馬 究
コンサートマスター	鶴我 裕子	岩井 雅音	茂木 大輔	板本 浩規	理事長	出口 修平
	中瀬 裕道	木越 洋		福井 功		芳賀 由明
海野 義雄	永峰 高志	齋藤 鶴吉	クラリネット	佛坂 咲千生	曾我 健	望戸 一男
川上 久雄	根津 昭義	三戸 正秀			田畑 和宏	諸岡 淳
篠崎 史紀	堀江 悟	銅銀 久弥	磯部 周平	トロンボーン	野島 直樹	吉田 博志
徳永 二男	前澤 均	丹羽 経彦	加藤 明久		日向 英実	渡辺 克
堀 伝	宮里 親弘	平野 秀清	横川 晴児	伊藤 清	木田 幸紀	渡辺 克己
山口 裕之	武藤 伸二	藤本 英雄		神谷 敏	森 茂雄	
	村上 和邦	茂木 新緑	ファゴット	栗田 雅勝	今井 環	
ヴァイオリン	横山 俊朗			三輪 純生	根本 佳則	
	蓬田 清重	コントラバス	岡崎 耕治	吉川 武典	今村 啓一	
板橋 健			霧生 吉秀			
梅澤 美保子	ヴィオラ	井戸 田善之	菅原 恵子	チューバ	役員	
大澤 淨		志賀 信雄				
大林 修子	大久保 淑人	佐川 裕昭	ホルン	多戸 幾久三	加納 民夫	
大松 八路	小野 富士	新納 益夫		原田 元吉	唐木 田信也	
金田 幸男	梯 孝則		大野 良雄		斉藤 滋	
川上 朋子	河野 昌彦	フルート	中島 大之	打楽器	原 武	
木全 利行	菅沼 準二		樋口 哲生		山崎 大樹	
窪田 茂夫	店村 真積	菅原 潤	松崎 裕	有賀 誠門		

フィルハーモニー2026年2月号 | 第98巻 第2号  
2026年2月1日発行 ISSN 1344-5693

公益財団法人NHK交響楽団

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49  
TEL: (03) 5793-8111 / FAX: (03) 3443-0278  
発行人◎三溝敬志／編集人◎猪股正幸

企画・編集: (一)財NHK財団  
取材・編集: 横アルテスパブリッシング  
表紙・本文デザイン: 寺井恵司

印刷: 佐川印刷株式会社  
©無断転載・複製を禁ず

いつでも どこでも あなたのそばに

# NHK ONE



©NHK-dwarf

番組の同時配信、見逃し・聴き逃し配信、ニュースの記事や動画などの情報を  
**テレビ※やスマホ・タブレット、パソコンで**

※インターネット接続に対応したテレビ

## WEBサイト (HP)



NHK ONE



NHKプラス



NHK ONE  
ニュース・防災



NHK ONE  
for School



NHKラジオ  
らじる★らじる



NHKゴガク  
語学講座

世帯ですでに受信契約を締結されている場合は、別途のご契約や追加のご負担は必要ありません  
(「らじる★らじる」など、ラジオ関連サービスは受信契約の対象外です)

## テレビでもスマホでも



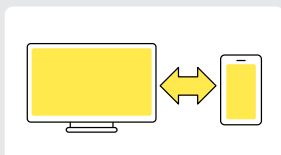
## 防災機能がさらに充実



## 安心して子どもと一緒に



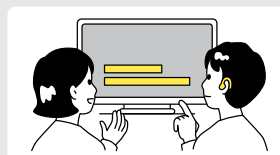
## プロフィール設定・デバイス連携



## ドラマも最新ニュース記事も



## 生放送もぴったり字幕で



# 須恵 花あそび

巨勢山の

つらつら椿つらつらに

見つつ思はな巨勢の春野を

万葉集 坂門人足

〈紙版&デジタル版発売中〉雑誌『目の眼』2・3月号  
特集「須恵器 Change the World」に掲載 広口長頸壺（個人蔵）



目の眼は 雑誌&ウェブで 骨董古美術の愉しみを伝えています

[menomeonline.com](http://menomeonline.com)

目   
の眼



東京  
春祭

Spring Festival in Tokyo

指揮: アレクサンダー・ソディ

Conductor: Alexander Soddy

ダーラント: タレク・ナズミ

Daland: Tareq Nazmi

ゼンタ: カミラ・ニールンド

Senta: Camilla Nylund

エリック: デイヴィッド・バット・フィリップ

Erik: David Butt Philip

マリー: カトリン・ヴンドザム

Mary: Katrin Wundsam

舵手: トーマス・エベンシュタイン

Der Steuermann: Thomas Ebenstein

オランダ人: ミヒャエル・クプファー＝ラデツキー

Der Holländer: Michael Kupfer-Radecky

管弦楽: NHK交響楽団

Orchestra: NHK Symphony Orchestra, Tokyo

合唱: 東京オペラシンガーズ

Chorus: Tokyo Opera Singers

合唱指揮: エベルハルト・フリードリヒ、西口彰浩

Chorus Master: Eberhard Friedrich, Akihiro Nishiguchi

音楽コーチ: トーマス・ラウスマン

Musical Preparation: Thomas Lausmann



©Miina Jung

東京春祭ワグナー・シリーズ vol.17

# さまよえるオランダ人

全3幕 / ドイツ語上演・日本語字幕付

(演奏会形式)

2026 **4.5** [日] 15:00 **4.7** [火] 18:30 **東京文化会館 大ホール**  
S ¥27,000 A ¥22,500 B ¥18,500 C ¥15,000 D ¥12,000 E ¥9,000 U-25 ¥3,000

こちら必聴! 巨匠マレク・ヤノフスキ指揮《グレの歌》

東京春祭 合唱の芸術シリーズ vol.13

シェーンベルク《グレの歌》

S ¥27,000 A ¥22,500 B ¥18,500

C ¥15,000 D ¥12,000 E ¥9,000 U-25 ¥3,000

2026 **3.25** [水] 19:00

東京文化会館 大ホール

指揮: マレク・ヤノフスキ  
ヴァルデマール王: デイヴィッド・バット・フィリップ  
トーヴェ: カミラ・ニールンド  
農夫: ミヒャエル・クプファー＝ラデツキー  
山鳩: カトリン・ヴンドザム  
道化師クラウス: トーマス・エベンシュタイン  
語り手: アドリアン・エレート

管弦楽: NHK交響楽団 合唱: 東京オペラシンガーズ

チケットの申込み 一般発売 11月30日[日] 10:00

東京・春・音楽祭オンライン・チケットサービス  
**www.tokyo-harusai.com**

(座席選択可・登録無料)

※U-25は2月13日[金]12:00発売(音楽祭公式サイト限定取扱)



チケットぴあ <https://w.pia.jp/t/harusai/>  
東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650  
WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp/>  
N響ガイド 0570-02-9502

公演に関するお問合せ 東京・春・音楽祭サポートデスク 050-3496-0202 (月・水・金 10:00-14:00)

主催: 東京・春・音楽祭実行委員会 共催: NHK交響楽団 後援: 日本ワグナー協会 助成: 公益社団法人企業メセナ協議会 社会創造アーツファンド



日本オーケストラ連盟創立35周年記念

# オーケストラの日 ALL STAR!!

一夜限りの  
コンサート!



## 指揮 角田鋼亮

芥川也寸志  
交響管弦楽のための音楽

すぎやまこういち  
交響組曲「ドラゴンクエストIII」そして伝説へ… より  
「ロトのテーマ」  
交響組曲「ドラゴンクエストIV」導かれし者たち より  
「海図を広げて」  
交響組曲「ドラゴンクエストXI」過ぎ去りし時を求めて より  
「過ぎ去りし時を求めて」

Kosuke Tsunoda

©Makoto Kamiya

Sachio Fujioka

©Shin Yamagishi

## 指揮 藤岡幸夫

グリーグ  
2つの悲しい旋律 第2番「過ぎし春」

シベリウス  
交響詩「フィンランディア」

Keiko Mitsuhashi

©Earl Ross

Naoto Otomo

©Rowland Kirishima

## 指揮 ミツ橋敬子

ビゼー  
カルメン第1組曲

## 指揮 大友直人

ストラヴィンスキー  
バレエ組曲「火の鳥」(1919年版)

全国プロ・オーケストラ × 4人の指揮者



ミミにいちばん!  
オーケストラの日

## オールジャパン祝祭管弦楽団

2026.3.31

19:00開演  
(18:00開場)

会場

ミューザ川崎シンフォニーホール

(JR川崎駅中央西口から徒歩3分)

チケット

オーケストラの日感謝価格

●全席指定(税込)

S席: 4,500円 S席ペア: 7,000円 A席: 3,500円 B席: 2,000円 ジュニア(小学生~高校生): 1,000円

▼S、A、Bどの席でも!

チケットの  
お申込み

- ヴォートル・チケットセンター 03-5355-1280
- ミューザ川崎シンフォニーホール 044-520-0200
- チケットぴあ、teket(テクト)などでも好評販売中! 詳しくは特設サイトにて。

特設サイトは  
こちらから▶



主催:公益社団法人日本オーケストラ連盟 後援:川崎市、「音楽のまち・かわさき」推進協議会

助成:公益財団法人朝日新聞文化財団 協力:日本音楽財団(日本財団助成事業)、ミューザ川崎シンフォニーホール

<https://www.orchestra.or.jp/orchestraday2026/>





# N響

NHKSO DRAGON QUEST CONCERT

## ドラゴンクエスト コンサート

～導かれし者たち～



2026年

2/27(金)7:00pm 東京芸術劇場

2/28(土)2:00pm パルテノン多摩

3/1(日)3:00pm 森のホール21  
(松戸市文化会館)

※途中休憩あり、100分程度の公演です。

主催：NHK交響楽団

協力：株式会社スクウェア・エニックス／スギヤマ工房有限会社

© ARMOR PROJECT/BIRD STUDIO/SPIKE CHUNSOFT/SQUARE ENIX

**発売開始日** 2025年12月19日[金] 10:00am(一般)  
2025年12月15日[月] 10:00am(定期会員先行)

**料金** 税込／全席指定

東京芸術劇場(2/27)／パルテノン多摩(2/28)

	S席	A席	B席
一般	¥11,000	¥9,000	¥8,000
ユースチケット(29歳以下)	¥5,500	¥4,500	¥4,000

森のホール21(3/1)

	S席	A席	B席	C席★
一般	¥9,000	¥8,000	¥7,000	¥4,000
ユースチケット(29歳以下)	¥4,500	¥4,000	¥3,500	¥2,000

※定期会員は一般料金から10%割引

★森のホール21(3/1)のC席はステージの一部が見えづらい席となります。

すぎやまこういち

交響組曲

「ドラゴンクエストIV」

導かれし者たち

指揮：下野竜也(N響正指揮者)

Tatsuya Shimono, conductor

管弦楽：NHK交響楽団

NHK Symphony Orchestra, Tokyo



©Shin Yamagishi

※ユースチケット(29歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみの取り扱いとなります。

初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。

※定期会員割引・先行発売の取り扱いにはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。

※車いす席についてはN響ガイドにお問い合わせください。

※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。

**前売所**

WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp>

N響ガイド 0570-02-9502

東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

[www.geigeki.jp/t/](http://www.geigeki.jp/t/) (2/27公演のみ)

チケットぴあ [pia.jp/t/nhkso](http://pia.jp/t/nhkso) e+(イープラス) [eplus.jp/nhkso](http://eplus.jp/nhkso)

ローソンチケット [l-tike.com/nhkso](http://l-tike.com/nhkso)

お問い合わせ：N響ガイド 0570-02-9502

営業時間：10:00am～5:00pm(休休日：土・日・祝日)

Follow us on



N響ホームページ



WEBチケットN響

100<sup>th</sup>NHKSO  
NHK SYMPHONY ORCHESTRA  
TOKYO

オンド・マルトノ: 大矢素子 Motoko Oya

テノール: 工藤和真 Kazuma Kudo

薩摩琵琶: 友吉鶴心 Kakushin Tomoyoshi

龍笛: 稲葉明徳 Akinori Inaba

額縁拓也 Takuya Koketsu

岩崎達也 Tatsuya Iwasaki

二十五絃箏: 中井智弥 Tomoya Nakai

尺八: 長須与佳 Tomoka Nagasu

シンセサイザー: 篠田元一 Motokazu Shinoda

電子パーカッション: 篠田浩美 Hiromi Shinoda

男声合唱: 慶應義塾ワグネル・  
ソサエティー男声合唱団  
KEIO Wagner Society Male Choir児童合唱: NHK東京児童合唱団  
NHK Tokyo Children's Chorus

司会: 田添菜穂子 Nahoko Tazoe

2026年  
3月5日[木] 7:00pm  
NHKホール(東京・渋谷)

※2 時間程度の公演です

管弦楽: NHK 交響楽団  
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

&amp; 名曲コンサート

Taiga Drama &  
Masterpiece Concert

特別編

N  
響

大河ドラマ



©Felix Broede

指揮: 沖澤のどか  
Nodoka Okisawa特別ゲスト:  
高橋英樹  
Hideki Takahashi

曲目

[第1部: 大河ドラマ編]

風林火山(2007/千住明)

豊臣兄弟!(2026/木村秀彬)

独眼竜政宗(1987/池辺晋一郎)

八代将軍 吉宗(1995/池辺晋一郎)

春日局(1989/坂田晃一)

源義経(1966/武満 徹[坂田晃一編])

夢千代日記(1981/武満 徹)

※NHK「ドラマ人間模様」から

竜馬がゆく(1968/間宮芳生)

徳川家康(1983/富田 勲)

新選組!(2004/服部隆之)

[第2部: 「河」「川」にちなんだ  
クラシック名曲選]楽劇「神々のたそがれ」  
—「夜明けとジークフリートのラインの旅」  
(ワーグナー)ワルツ「ドナウ川のさざ波」  
(イヴァンヴィチ)交響詩「モルダウ」  
(スメタナ)発売開始日 2025年12月19日[金] 10:00am(一般)  
2025年12月15日[月] 10:00am(定期会員先行)

料金 税込/全席指定

	S席	A席	B席	C席
一般	¥12,000	¥10,000	¥7,000	¥5,000
ユースチケット(29歳以下)	¥6,000	¥5,000	¥3,500	¥2,500

(定期会員は一般料金から10%割引)

前売所

WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp>N響ガイド 0570-02-9502 チケットぴあ [pia.jp/t/nhkso](https://pia.jp/t/nhkso)e+(イープラス) [eplus.jp/nhkso](https://eplus.jp/nhkso) ローソンチケット [l-tike.com/nhkso](https://l-tike.com/nhkso)

主催: NHK/NHK交響楽団

※ユースチケット(29歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。

初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。

※定期会員割引・先行発売のお取り扱いについてはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。

※車いす席についてはN響ガイドにお問い合わせください。

※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。

※未就学児のご入場はお断りしています。

お問い合わせ: N響ガイド 0570-02-9502

営業時間: 10:00am~5:00pm(定休日: 土・日・祝日)

※東京都内での主催公演開催日は、曜日に関わらず10:00am~開演時刻まで営業いたします。

※電話受付のみの営業となります。

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。

公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

※公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

[nhkso.or.jp](https://nhkso.or.jp)

Follow us on





ご近所のイワタニは、  
世界のイワタニです。

イワタニは、世界からガスを運び  
安全と安心のネットワークで、  
カセットガスやLPガスなど  
さまざまなカタチに変えて日本全国にお届け。  
今日も見えないところで、  
あなたの暮らしを支えます。



**Iwatani**  
岩谷産業株式会社